

100th

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

Philharmony

June 2026
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

99



終演時のカーテンコールを撮影していただけます

スマートフォンやコンパクトデジタルカメラなどで撮影していただけます。
SNSでシェアする際には、ハッシュタグ「#NH響」【#nhkso】の追加をぜひお願いいたします。
ほかのお客様の映り込みにはご注意ください。

※撮影はご自席からとし、手を高く上げる、望遠レンズや三脚を使用するなど、
周囲のお客様の迷惑となるような行為はお控えください

You are free to take stage photos during the curtain calls at the end of the performance.

You can take photos with your smartphone or compact digital camera.
When you share the photos on social media, please add #nhkso.
Be careful to avoid accidentally including any audience members in your photos.



「フラッシュ」オフ設定確認のお願い

撮影前に、スマートフォンのフラッシュ設定が「オフ」になっているかご確認をお願いいたします。

Set your device to "flash off mode."

Make sure that your smartphone is on "flash off mode" before taking photos.



スマートフォンのフラッシュをオフにする方法 | 多くの機種では、カメラ撮影の画面の四隅のどこかに、フラッシュの状態を示す⚡(カメラマーク)を含むアイコンが表示されています。これをタップすることで、「オン(強制発光)」「自動(オート)」「オフ」に変更できます。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

詳しくは78ページをご覧ください



こちらのQRコードからアンケートページへアクセスできます

<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

お客様へのお願い

Please kindly keep in mind the following:



公演中は携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください
Be sure to set your phone to silent mode and turn off your watch alarm etc. during the performance.



私語、パンフレットをめくる音など、物音が出ないように配慮ください
Please refrain from making any noise, such as engaging in private conversations or turning booklet pages.



大きく手足を揺らしたり体を乗り出したりするなど他のお客様にご迷惑となる行為はおやめください
Do not disturb others by overly swaying your body.



発熱等の体調不良時にはご来場をお控えください
Please refrain from visiting the concert hall if you have a fever or feel unwell.



演奏は最後の余韻までお楽しみください
Please wait until the performance has completed before clapping hands or shouting "Bravo."



演奏中の入退場はご遠慮ください
Please refrain from entering or leaving your seat during the performance.



適切な手指の消毒、咳エチケットにご協力ください
Your proper hand disinfection and cough etiquette are highly appreciated.



場内での録画、録音、写真撮影は固くお断りいたします(終演時のカーテンコールをのぞく)
Video or audio recordings, and still photography at the auditorium are strictly prohibited during the performance. (Except at the time of the curtain calls at the end of the concert.)



補聴器が正しく装着されているかご確認ください
Please make sure that your hearing aids are properly fitted.



NHK交響楽団
カスタマー・ハラスメントに対する基本方針 (PDF)

PHILHARMONY

CONTENTS

JUNE 2026

6

- 4 | ツアー報告 | 日本シンガポール外交関係樹立60周年 | NHK交響楽団 シンガポール公演
- 6 | **特集** 最も心に残ったN響コンサート&ソリスト 2025-26 ファン投票受付中
- 36 | **特集** フランツ・シュミット《オラトリオ「7つの封印の書」》を読み解く!
- 11 | [公演プログラム] Aプログラム
- 17 | [公演プログラム] Bプログラム
- 30 | [公演プログラム] Cプログラム
- 61 | [リレー連載] N響百年——複合的視座 | 最終回 |
N響と放送——もうひとつの活動領域〈後編〉 西村 理
- 2 | NHK交響楽団メンバー
- 40 | 2026年9月定期公演のプログラムについて——公演企画担当者から
- 42 | 2026-27定期公演プログラム
- 48 | チケットのご案内(定期公演2026年9月~2027年6月)
- 49 | 特別公演/各地の公演
- 71 | 曲目解説執筆者/N響の出演番組
- 72 | 特別支援・特別協力・賛助会員
- 76 | 「N響100年」特別賛助会員・個人サポーター
- 78 | みなさまの声をお聞かせください!
- 79 | NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO Members

Artist Profiles & Program Notes

- 80 | Program A
- 85 | Program B
- 90 | Program C
- 95 | The Subscription Concerts Program 2026-27 / Special Concerts 2026-27
- 100 | N響関連のお知らせ
- 101 | N響の社会貢献
- 102 | 役員等・団友

NHK交響楽団

首席指揮者:ファビオ・ルイーヂ

名誉音楽監督:シャルル・デュトワ

桂冠名誉指揮者:ヘルベルト・ブロムシュテット

桂冠指揮者:ウラディーミル・アシュケナージ

名誉指揮者:バーヴェ・ヤルヴィ

正指揮者:尾高忠明、下野竜也

第1コンサートマスター:郷古 廉、長原幸太

ゲスト・コンサートマスター:川崎洋介

第1ヴァイオリン

- 青木 調
飯塚歩夢
○字根京子
大鹿由希
○倉富亮太
後藤 康
小林玉紀
高井敏弘
東條太河
猶井悠樹
中村弓子
降旗貴雄
松田拓之
○三又治彦
宮川奈々
○山岸 努
○横溝耕一

第2ヴァイオリン

- ◎大宮臨太郎
◎森田昌弘
齋藤麻衣子
○嶋田慶子
清水伶香
○白井 篤
○田中晶子
坪井きらら
丹羽洋輔
平野一彦
船木陽子
俣野賢仁
村尾隆人
矢津将也
山田慶一
○横島礼理
米田有花

* 湯原佑衣

ヴィオラ

- ◎佐々木 亮
◎村上淳一郎
☆中村翔太郎
小島茂隆
栗林衣李
□坂口弦太郎
谷口真弓
飛澤浩人
○中村洋乃理
松井直之
三国レイチェル由依
御法川雄矢
○村松 龍
* 和田志織

チェロ

- ◎辻本 玲
◎藤森亮一
市 寛也
小島幸法
○中 実穂
○西山健一
藤村俊介
藤森洗一
宮坂拓志
村井 将
矢部優典
○山内俊輔
渡邊方子

コントラバス

- ◎吉田 秀
○市川雅典
稻川永示
○岡本 潤
今野 京
○西山真二
本間達朗
矢内陽子

フルート

- ◎甲斐雅之
◎神田寛明
梶川真歩
中村淳二

オーボエ

- ◎中村周平
◎吉村結実
池田昭子
坪池泉美
和久井 仁

クラリネット

- ◎伊藤 圭
◎松本健司
* 堂面宏起
山根孝司

ファゴット

- ◎宇賀神広宣
◎水谷上総
大内秀介
佐藤由起

森田 格

ホルン

- ◎今井仁志
石山直城
勝俣 泰
木川博史
庄司雄大
野見山和子

◇福川伸陽

トランペット

- ◎菊本和昭
◎長谷川智之
安藤友樹
藤井虹太郎
山本英司

トロンボーン

- ◎古賀 光
◎新田幹男
池上 亘
黒金寛行

テューバ

池田幸広

ティンパニ

- ◎久保昌一
☆植松 透

打楽器

- 石川達也
黒田英実
竹島悟史

ハーブ

早川りさこ

ステージ・マネージャー

徳永匡哉

ライブラリアン

- 沖 あかね
木村英代

こちらのQRコードから
楽員の詳しいプロフィールが
ご覧いただけます。



<https://www.nhkso.or.jp/about/member/index.html>

(五十音順、◎首席、◇首席客演、☆首席代行、○次席、□次席代行、#インスペクター、*契約)

Special Thanks

NHK SYMPHONY ORCHESTRA T O K Y O

特別支援

岩谷産業株式会社

 三菱地所株式会社

 MIZUHO みずほ銀行

公益財団法人 渋谷育英会

東日本旅客鉄道株式会社

 NTT EAST

東京海上ホールディングス株式会社

株式会社 ポケモン

With Special Support of

Iwatani Corporation

Mitsubishi Estate Co., Ltd.

Mizuho Bank, Ltd.

Shibuya Scholarship Foundation

East Japan Railway Company

NTT East, Inc.

Tokio Marine Holdings, Inc.

The Pokémon Company

NHK交響楽団は上記の各社から特別支援をいただいております。

2026年4月、NHK交響楽団は「日本・シンガポール外交関係樹立60周年 NHK交響楽団 シンガポール公演」を行いました。指揮はN響正指揮者の下野竜也、ピアノ独奏は国際的に活躍を続ける反田恭平が務め、アジアの音楽ファンにとっても大きな話題となりました。本公演に同行した事務局員によるレポートをお届けします。



SINGAPORE - JAPAN
DIPLOMATIC RELATIONS
1966 - 2026

日本・シンガポール外交関係樹立60周年 NHK交響楽団 シンガポール公演

NHKSO Singapore Concert to Commemorate the 60th Anniversary of Singapore-Japan Diplomatic Relations

2026年4月29日(水・祝) 7:30pm

エスプラネード シアター・オン・ザ・ベイ コンサートホール

外山雄三／管弦楽のためのディヴェルティメント

プロコフィエフ／ピアノ協奏曲 第3番 ハ長調 作品26

R. シュトラウス／交響詩「ドン・ファン」作品20

ブリテン／歌劇「ピーター・グライムズ」—4つの海の間奏曲 作品33a

指揮●下野竜也(NHK交響楽団 正指揮者)

ピアノ●反田恭平

主催：エスプラネード シアター・オン・ザ・ベイ

助成： JAPAN FOUNDATION 

協賛：  MITSUBISHI
ELECTRIC
Changes for the Better

 ANA

 JCB

 maple tree

 IIJ Internet Initiative Japan

 HIROOKA
FAMILY OFFICE



©Avin Ho / Courtesy of Esplanade - Theatres on the Bay

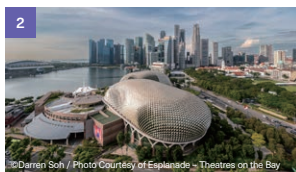
日本とシンガポールの外交関係樹立60周年を記念して実現した「NHK交響楽団シンガポール公演」。24年ぶりのN響公演とあってチケットは事前に完売となるなど現地でも大きな注目を集めました。

正指揮者 下野竜也のもと、日本民謡を巧みに取り入れた外山雄三の《管弦楽のためのディヴェルティメント》に始まり、世界各国でも絶大な人気を誇るピアニスト反田恭平をソリストに迎えたプロコフィエフ《ピアノ協奏曲第3番》

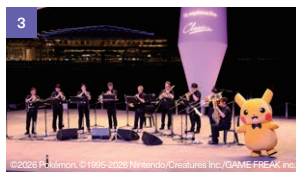
では、その超絶技巧で観衆を魅了しました。そしてブリテンの《歌劇「ピーター・グライムズ」—「4つの海の間奏曲」》では、シンガポールと日本をつなぐ「海」をモチーフに刻々と表情を変えるその姿を下野の巧みな指揮で表現しN響も万全のコンビネーションで応えました。さらにアンコールは外山雄三の《管弦楽のためのラブソディ》から〈八木節〉。日本文化を象徴する軽快なリズムに満員の客席は大いに盛り上がり大喝采のうちに幕を閉じました。



©Avin Ho / Courtesy of Esplanade - Theatres on the Bay



©Daniel Soh / Photo Courtesy of Esplanade - Theatres on the Bay



©2024 Pokémon. ©1995-2026 Nintendo, Creatures, Inc., GAME FREAK, Inc.

1. プロコフィエフ《ピアノ協奏曲第3番》のピアノ独奏を務めた反田恭平
2. 会場のエスプラネードシアター・オン・ザ・ベイ
3. 前日には近接する屋外会場で、N響メンバーの金管九重奏によるポケモン・プラス・コンサートが行われた(協力:株式会社ポケモン)

最も心に残った N響コンサート& ソリスト 2025-26

2025年9月～2026年6月の
定期公演を対象に

ファン投票受付中

ファン投票企画「最も心に残ったN響コンサート&ソリスト」を、今年も実施いたします。

2025-26シーズン(2025年9月～2026年6月)のN響定期公演の中から

最も心に残ったコンサート3つとソリスト1名(団体)を選んで投票してください。コメントやメッセージも大歓迎。

コメントやメッセージをN響ホームページや『フィルハーモニー』に掲載させていただいた方には、

N響グッズを進呈いたします。

結果発表は11月中旬の予定です。皆さまの投票を心よりお待ちしております。

Aプログラム | NHKホール

2025年9月

9/13(土)、14(日)

指揮：ファビオ・ルイーゼ
ピアノ：イェフィム・ブロンフマン

- ・ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第5番「皇帝」
- ・フランツ・シュミット／交響曲 第4番



2025年10月

10/18(土)、19(日)

指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット
ソプラノ：クリスティーナ・ランツハマー*
メゾ・ソプラノ：

マリー・ヘンリエット・ラインホルト*
テノール：ティルマン・リヒディ*
合唱：スウェーデン放送合唱団

- ・ストラヴィンスキー／詩篇交響曲 (日本語字幕付き)
- ・メンデルスゾーン／交響曲 第2番「讃歌」* (日本語字幕付き)



2025年11月

11/8(土)、9(日)

指揮：シャルル・デュトワ
ピアノ：小菅 優*
オンド・マルトノ：大矢素子*
女声合唱：東京オペラシンガーズ
・メシアン／神の現存の3つの小典礼*
・ホルスト／組曲「惑星」



2025年12月

11/29(土)、30(日)

指揮：ファビオ・ルイーゼ
ヴァイオリン：レオニダス・カヴァコス

- ・ショスタコーヴィチ／ヴァイオリン協奏曲 第1番
- ・ツェムリンスキー／交響詩「人魚姫」



2026年1月

1/17(土)、18(日)

指揮：トゥガン・ソヒエフ
・マーラー／交響曲 第6番「悲劇的」



2026年2月

2/7(土)、8(日)

指揮：フィリップ・ジョルダン
ソプラノ：タマラ・ウィルソン*

- ・シューマン／交響曲 第3番「ライン」
- ・ワーグナー／楽劇「神々のたそがれ」
「ジークフリートのラインの旅」
「ジークフリートの葬送行進曲」
「ブリュンヒルデの自己犠牲」*



2026年4月

4/11(土)、12(日)

指揮：ファビオ・ルイーゼ
チェロ：ヤン・フォークラ

- ・ハイドン／チェロ協奏曲 第1番
- ・ブルックナー／交響曲 第9番



2026年5月

5/23(土)、24(日)

指揮：ミヒャエル・ザンデルリク
ヴァイオリン：クリスティアン・テツラフ
チェロ：ターニャ・テツラフ

- ・ブラームス／ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲
- ・ブラームス(シェーンベルク編)／ピアノ四重奏曲 第1番



2026年6月

6/13(土)、14(日)

指揮：ヤープ・ヴァン・ズヴェーデン
ピアノ：コンラッド・タオ

- ・ワーグナー／楽劇「ニルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲
- ・モーツァルト／ピアノ協奏曲 第17番
- ・バルトーク／管弦楽のための協奏曲



Bプログラム | サントリーホール

2025年9月

9/18(木)、19(金)

指揮：ファビオ・ルイーゼ
ヴァイオリン：マリア・ドゥエニャス

- ・武満 徹 / 3つの映画音楽
- ・ベートーヴェン / ヴァイオリン協奏曲
- ・メンデルスゾーン / 交響曲 第4番「イタリア」



2025年10月

10/9(木)、10(金)

指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット
フルート：セバスティアン・ジャコー

- ・グリーグ / 組曲「ホルベアの時代から」
- ・ニルセン / フルート協奏曲
- ・シベリウス / 交響曲 第5番



2025年11月

11/20(木)、21(金)

指揮：ラファエル・バヤーレ
ピアノ：エマニュエル・アックス

- ・シューマン / 「マンフレッド」序曲
- ・モーツァルト / ピアノ協奏曲 第25番
- ・R. シュトラウス / 交響詩「英雄の生涯」



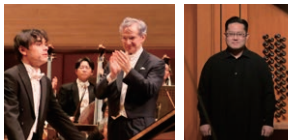
2025年12月

12/4(木)、5(金)

指揮：ファビオ・ルイーゼ
ピアノ：トム・ポロー*

オルガン：近藤 岳
・藤倉 大 / 管弦楽のためのオーシャン・ブレイカー〜ピエール・ブレーズの思い出に〜(2025)

- [NHK交響楽団委嘱作品 / 世界初演]
- ・フランク / 交響的変奏曲*
- ・サン＝サーンス / 交響曲 第3番「オルガンつき」



2026年1月

1/29(木)、30(金)

指揮：トゥガン・ソヒエフ
ピアノ：松田華音

- ・ムソルグスキー (ショスタコーヴィチ編) / 歌劇「ホヴァンシチナ」
一前奏曲「モスクワ川の夜明け」
- ・ショスタコーヴィチ / ピアノ協奏曲 第2番
- ・プロコフィエフ / 交響曲 第5番



2026年2月

2/19(木)、20(金)

指揮：ヤクブ・フルシャ
ヴァイオリン：ヨゼフ・シュパチェク
・ドヴォルザーク / ヴァイオリン協奏曲
・ブラームス / セレナード 第1番



2026年4月

4/16(木)、17(金)

指揮：ファビオ・ルイーゼ
クラリネット：松本健司

- ・モーツァルト / クラリネット協奏曲
- ・マーラー / 交響曲 第5番



2026年5月

5/14(木)、15(金)

指揮：山田和樹
ヴァイオリン：キム・スーヤン*

- ・山田一雄 / 小交響詩「若者のうたへる歌」
- ・ハルトマン / 葬送協奏曲*
- ・須賀田磯太郎 / 交響的序曲
- ・ヒンデミット / 交響曲「画家マチス」



2026年6月

6/4(木)、5(金)

指揮：ステファヌ・ドゥネーヴ
メゾ・ソプラノ：ガエル・アルケーズ
・オネゲル / 交響詩「夏の牧歌」
・ベルリオーズ / 歌曲集「夏の夜」
・イベール / 寄港地
・ドビュッシー / 交響詩「海」



Cプログラム | NHKホール

2025年9月

9/26(金)、27(土)

指揮：ライアン・バンクロフト
バリトン：トマス・ハンブソン*

- ・マーラー／子どもの不思議な角笛—
「ラインの伝説」*「トランペットが美しく鳴り響くところ」*「浮世の生活」*
「天上の生活」*「原光」*
- ・シベリウス／交響詩「4つの伝説」



2025年10月

10/24(金)、25(土)

指揮：ヘルベルト・ブロムシュテット
ピアノ：レイフ・オヴェ・アンズネス
・ブラームス／ピアノ協奏曲 第2番
・ブラームス／交響曲 第3番



2025年11月

11/14(金)、15(土)

指揮：シャルル・デュトワ
合唱：二期会合唱団*

- ・ラヴェル／亡き王女のためのパヴァーヌ
- ・ラヴェル／組曲「クープランの墓」
- ・ラヴェル／バレエ音楽「ダフニスとクロエ」(全曲)*



2025年12月

12/12(金)、13(土)

指揮：ファビオ・ルイーゼ
ピアノ：エリック・ルー

- ・ショパン／ピアノ協奏曲 第2番
- ・ニルセン／交響曲 第4番「不滅」



2026年1月

1/23(金)、24(土)

指揮：トゥガン・ソヒエフ
チェロ：上野通明

- ・ドビュッシー／牧神の午後への前奏曲
- ・デュティユー／
チェロ協奏曲「遥かなる遠い国へ」
- ・リムスキー＝コルサコフ／
組曲「サルタン皇帝の物語」
- ・ストラヴィンスキー／
バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)



2026年2月

2/13(金)、14(土)

指揮：ゲルゲイ・マダラシュ
トランペット：菊本和昭

- ・コダーイ／ハンガリー民謡
「くじゃく」による変奏曲
- ・フンメル／トランペット協奏曲
- ・ムソルグスキー（近衛秀麿編）／
組曲「展覧会の絵」



2026年4月

4/24(金)、25(土)

指揮：下野竜也
ピアノ：反田恭平

- ・外山雄三／
管弦楽のためのディヴェルティメント
- ・プロコフィエフ／ピアノ協奏曲 第3番
- ・伊福部 昭／交響譚詩
- ・プリテン／歌劇「ピーター・グライムズ」—「4つの海の間奏曲」



2026年5月

5/29(金)、30(土)

指揮：アンドリス・ボーガ

- ・ヴァクス／感謝の歌(2026)
[NHK交響楽団、ラトビア国立交響楽団、
ミュンヘン室内管弦楽団、オーストラリア室
内管弦楽団 共同委嘱作品／日本初演]
- ・ショスタコーヴィチ／交響曲 第4番



2026年6月

6/19(金)、20(土)

指揮：尾高忠明
ヴァイオリン：HIMARI

- ・シベリウス／
アンダンテ・フェスティエヴォ
- ・シベリウス／ヴァイオリン協奏曲
- ・ラフマニノフ／交響曲 第3番



投票について

対象公演

2025-26シーズン N響定期公演 (2025年9月~2026年6月) (A・B・Cプログラム 各9演目 計27演目/各演目2公演ずつ開催)。各公演の詳細は7~9ページをご参照ください。

投票資格

2025-26シーズンN響定期公演 (2025年9月~2026年6月)をひとつでも聴いたことがある方。会場でお聴きになった方のみならず、テレビ、ラジオ、NHK ONEでご視聴になられた方もご投票いただけます。

投票方法

以下のQRコードを読み取るかURLを入力し、N響ホームページの投票ページにアクセスして、最も心に残ったコンサート3つとソリスト1名(団体)を選んでご投票ください。投票理由についてのコメントやN響へのメッセージもご記入いただけます。

ご投票はこちらから

<https://questant.jp/q/AN2Z9I1Y>



郵便でもご投票いただけます。

必要事項 (住所、名前、電話番号、メールアドレス [任意]、最

も心に残ったコンサート [3つまで]、最も心に残ったソリスト [1名(団体)のみ]、メッセージ [任意])をご記入の上、下記までお送りください。

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団
最も心に残ったN響コンサート&ソリスト係

コメントやメッセージをホームページ、フィルハーモニーに掲載させていただいた方にはN響グッズを進呈します。

締切

2026年9月26(土) ※郵便投票分は当日消印有効

〈投票上の注意〉

※ 投票はおひとり様1回でお願いします。同一の方からとみられる複数投票については無効票とさせていただきます。

※ 投票に際していただいたコメントなどは、N響ホームページや『フィルハーモニー』など、当団の媒体でご紹介させていただく場合がございます。

結果発表

〔中間発表〕2026年9月上旬をめぐりにN響ホームページなどで「最も心に残ったコンサート」のみ途中経過の順位を発表する予定です。

〔完全版〕2026年11月中旬にN響ホームページおよび『フィルハーモニー』2026年11月号などで、投票していただいたみなさまのコメントとあわせて発表いたします。

個人情報の使用目的について

※ 今回の投票で収集する個人情報のうち、氏名(ペンネーム可)は当団の媒体(ホームページ、フィルハーモニー)でコメントと共に紹介する場合がございます。また、氏名(ペンネーム可)およびメールアドレスは、コメントをホームページおよびフィルハーモニーに掲載させていただく場合に、取材や確認のためにご連絡させていただくために、そしてN響グッズの送付先をお伺いさせていただくために使用させていただきます。またその他の個人情報(投票内容、年齢、性別など)については、個人が特定されない形で統計的に処理した上で投票結果として発表させていただく場合があります。

※ 取材や確認のために編集部(一般財団法人NHK財団/株式会社アルテスパブリッシング)よりメールなどでご連絡させていただく場合があります。

※ 投票結果発表後、今回収集した個人情報は合理的な範囲で速やかに破棄します。今回のアンケートで記載いただいた個人情報を編集部(一般財団法人NHK財団/株式会社アルテスパブリッシング)以外の第三者に提供する事はございません。

この件についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

公益財団法人NHK交響楽団 最も心に残ったN響コンサート&ソリスト係
〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49
TEL: 03-5793-8120

PROGRAM

A

第2067回

NHKホール

6/13 土 6:00pm

6/14 日 2:00pm

指揮	ヤープ・ヴァン・ズヴェーデン
ピアノ	コンラッド・タオ
コンサートマスター	長原幸太

ワーグナー

楽劇「ニュルンベルクの
マイスタージンガー」前奏曲 [9']

モーツァルト

ピアノ協奏曲 第17番 ト長調 K. 453
[31']

- I アレグロ
- II アンダンテ
- III アレグレット

— 休憩 (20分) —

バルトーク

管弦楽のための協奏曲 [40']

- I 序章: アンダンテ・ノン・トロッポ
—アレグロ・ヴィヴァーチェ
- II 対の遊び: アレグレット・スケルツァンド
- III 悲歌: アンダンテ・ノン・トロッポ
- IV 中断された間奏曲: アレグレット
- V 終曲: ペサントープレスト

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

詳しくは78ページをご覧ください

こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

Artist Profiles

ヤープ・ヴァン・ズヴェーデン (指揮)



今回がN響と初共演となるヤープ・ヴァン・ズヴェーデンは、アムステルダム生まれ。ジュリアード音楽院でヴァイオリンを学び、1979年、19歳の年に、現在のロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団の楽団史上、最も若いコンサートマスターに任命される。バーンスタインが指揮したマーラーの《交響曲第4番》のディスク(1987年録音)にもコンサートマスターとして参加してヴァイオリン・ソロを聴かせた。他にソリストとしても数々のレコーディングを残している。1996年に指揮者として歩み始め、オランダ放送フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者、ダラス交響楽団や名門ニューヨーク・フィルハーモニックの音楽監督を歴任。2026年秋にはフランス放送フィルハーモニー管弦楽団の音楽監督に就任する予定である。香港フィルハーモニー管弦楽団の音楽監督を10年以上務め、現在はソウル・フィルハーモニー管弦楽団の音楽監督、台湾の長栄交響楽団のアーティスト・イン・レジデンスを務めるなど、アジアのオーケストラともすばらしい成果を収めている。

名門オーケストラのコンサートマスター出身ということもあり、弦の精緻なコントロールに定評があり、各セクションを巧みに統御した明晰な音楽づくりが高く評価されている。今回の演目は、ズヴェーデンがさまざま楽団と取り上げてきたワーグナーとバルトークの名作である。名匠とN響との出会いが生み出す、鮮やかなサウンドに注目したい。

[満岡信育 / 音楽評論家]

コンラッド・タオ (ピアノ)



コンラッド・タオは革新的なコンポーザー・ピアニストである。1994年、米イリノイ州生まれ。生後18か月で姉のピアノを聴いて自らも弾き始め、4歳で初リサイタル、8歳で協奏曲デビューを果たすという神童ぶりを発揮した。ジュリアード音楽院、コロンビア大学などで学んだ彼の音楽観は、既存のレパートリーに留まらない。自作の管弦楽作品がニューヨーク・フィルハーモニックで初演され、ソロ活動では社会的な「怒り」をテーマにしたアルバム『American Rage』を世に問うなど、その姿勢は常に先鋭的かつ批評的だ。シカゴトリビューン紙が「創造的な超新星」と評したタオの才能は、鮮烈な印象を聴衆に与え続けている。ニューヨーク・フィルハーモニックやシカゴ交響楽団、ボストン交響楽団などと共演するほか、各地のリサイタルでも高い表現力を示す。満を持してN響に初登場する。8歳での協奏曲デビューもモーツァルトであり、ヴァン・ズヴェーデンとも取り上げてきた作曲家だ。タオの緻密かつ自由闊達な演奏は、この名曲を新たな光で照らし出すことだろう。

[飯田有抄 / クラシック音楽ファシリテーター]

締切りはいつかやってくる。仕事を立て込んでいても、体調がすぐれなくても、やるべき仕事はやらねばならない。本日演奏される3曲はどれも作曲家が忙しいなか、一気呵成^{かせい}に仕上げた作品ばかり。それなのに、いずれもそれぞれの代表作として、今日も好んで演奏されるのは彼らが「大作曲家」だからなのか、それとも人は一般に、忙しいときの方がよい仕事をするものなのか。作品の出来栄を確かめながら、ゆっくり考えたい問題だ。

ワーグナー

楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲

《タンホイザー》パリ初演の失敗、《トリスタンとイゾルデ》初演の遅れなどにより、1861年のリヒャルト・ワーグナー（1813～1883）は経済的にも精神的にも苦しい状況にあった。円熟期唯一の喜劇《ニュルンベルクのマイスタージンガー》は、いわばそうした苦境の打開策として書かれた楽劇だ。

そもそもワーグナーがこの題材で創作を行うことを思い立ったのは《タンホイザー》を書き終えた1845年のことだが、その際彼はほかの仕事のために計画をいったん延期していた。しかし1861年11月にヴェネツィアでヴェーゼンドク夫妻とティツィアーノの『聖母被昇天』を鑑賞したとき、あらためて彼は《マイスタージンガー》を完成させる決意を固めたのだという。16世紀イタリア美術にふれたことで、同時代のニュルンベルクへの関心が深まったのかもしれないし、あるいは恋心を寄せていたヴェーゼンドク夫人と一緒に過ごしたことで、劇中の（若いエヴァに思いを寄せる）ハンス・ザックスの人物像を掘り下げるためのヒントをなにか得たのかもしれない。

前奏曲は楽劇全体（1867年10月完成）に先んじて、1862年春に書き上げられた。自由なソナタ形式からなっており、冒頭で「マイスタージンガーの動機」や「行進の動機」がハ長調で提示されたのち、経過部を経て「愛の主題」や「情熱の主題」がホ長調で奏でられる。その後「マイスタージンガーの動機」と「情熱の主題」が展開していき、緊張感が高まったところで主要な動機が一緒になってハ長調で戻ってくる。最後は終幕の大団円を予告するように、堂々と曲が閉じられる。

作曲年代	[前奏曲] 1862年2月頃～4月頃 [楽劇] 1862年2月頃～1867年10月24日
初演	[前奏曲] 1862年11月1日、作曲者自身の指揮、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス [楽劇] 1868年6月21日、ハンス・フォン・ビューロー指揮、バイエルン宮廷歌劇場管弦楽団・同合唱団、ミュンヘン、バイエルン宮廷歌劇場
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、シンバル、トライアングル、ハープ1、弦楽

モーツァルト

ピアノ協奏曲 第17番 ト長調 K. 453

1784年、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト(1756~1791)はピアノ奏者としてキャリアの絶頂に到達しようとしていた。当時の彼の人気者ぶりは、2月26日から4月3日までのあいだに22回も人前で演奏していることから確認できよう。当然、新しい作品を披露する必要もあったため、3月15日に《ピアノ協奏曲第15番変ロ長調》(K. 450)、3月22日に《ピアノ協奏曲第16番ニ長調》(K. 451)、3月30日に《ピアノと管楽器のための五重奏曲変ホ長調》(K. 452)というように、彼は新作を矢継ぎ早に書いている。ピアノ協奏曲が多いのは、このジャンルが演奏会の目玉だったからにはほかならない。

4月12日に完成した《ピアノ協奏曲第17番ト長調》はまさにこの時期を代表する作品だが、表向きは作曲家自身のためではなく、弟子であるバルバラ・プロイヤーのために作曲されている。モーツァルトは彼女の父フランツ・カエタン・プロイヤーと親しく、その従兄弟のゴットフリート・イグナーツ・フォン・プロイヤーは当時ウィーンでザルツブルク宮廷の駐在連絡官をしていた。お披露目の演奏会は6月13日、ウィーン郊外にあるゴットフリートの別荘で行われ、バルバラが《ト長調》のソロを担当した。モーツァルトが当代随一の人気作曲家ジョヴァンニ・パイシエルロをわざわざその場に連れて行き、聞かせていることから、彼が本作の出来と自分の弟子の腕前はかなり自信を持っていたことがうかがえよう。

第1楽章 アレグロ、4/4拍子、ト長調。協奏風ソナタ形式。冒頭のリズムは行進曲を思わせるが、「ため息」の音型や意表をつく転調を多用することで、全体としては叙情的な音楽に仕上がっている。

第2楽章 アンダンテ、3/4拍子、ハ長調。協奏風ソナタ形式。冒頭の旋律がロンド主題のように何度もあらわれ、構造上の区分を印象付けている。

第3楽章 アレグレット、2/2拍子、ト長調。ブルー風の主題と5つの変奏、フィナーレからなる。バルバラが腕の立つピアニストだったことがよくわかる華やかな音楽である。

作曲年代	1784年4月(同月12日に完成)
初演	1784年6月13日、プロイヤー家のデーブリングの別荘にて
楽器編成	フルート1、オーボエ2、ファゴット2、ホルン2、弦楽、ピアノ・ソロ

バルトーク

管弦楽のための協奏曲

本作はベーラ・バルトーク(1881~1945)が1943年の夏から秋にかけて、ニューヨーク州サラナック湖畔に滞在した折に書かれた。バルトークは1942年春に体調を崩し、

1943年2月から6月まで入院生活を送った。本人が知る機会はなかったが、骨髄性白血病だった。窮状を聞きつけた友人たちの仲介でクーセヴィツキー財団が彼に管弦楽曲の作曲を依頼したのが1943年4月末、ないし5月初めのこと。依頼を受けたのち、バルトークの体調が劇的に回復し、短期間のうちに総譜が出来上がったことは一種の奇跡として語られてきた。

ただし、材料がまったくなかったわけではない。1940年10月にアメリカに移住して以来、バルトークがなかなか新作に取り組めないでいたのは事実だが、出版社ブージー・アンド・ホークスとの間では、バレエや合奏協奏曲の構想が以前から話題になっていた。本作がベートーヴェン的な交響曲の伝統(「苦悩から歓喜へ」)をふまえつつ、協奏曲の技巧的要素、バレエ音楽の華麗さ、交響詩の標題性など、さまざまな要素を含んでいるのは、蓄積されてきたアイデアを、彼が本作で出し切ろうとした結果とも言える。

第1楽章〈序章〉 アンダンテ・ノン・トロoppo、3/4拍子—アレグロ・ヴィヴァーチェ、3/8拍子。序奏付きのソナタ形式。主部はきびきびした第1主題を中心とする、ロンド風のソナタ形式。

第2楽章〈対の遊び〉 アレグレット・スケルツァンド、2/4拍子。3部形式。主部ではファゴット、オーボエ、クラリネット、フルート、トランペットが順々に二重奏を披露。短いコーラルをはさんで、再現部はふたたびファゴットから。ただし、前半より楽器が増え、響きはいっそう複雑になる。

第3楽章〈悲歌〉 アンダンテ・ノン・トロoppo、3/4拍子。3部形式。主部は第1楽章序奏を素材としている。中間部のヴィオラ主題はバルトーク流の弔い歌だ。

第4楽章〈中断された間奏曲〉 アレグレット。冒頭主題はルーマニア風の旋律。第2主題はおそらく愛国的な流行歌《ハンガリーよ、お前は美しい、お前は素敵だ》を変形させたもの。冒頭部分の再現を経てショスタコーヴィチ《交響曲第7番「レニングラード」》の「侵入の主題」によく似た旋律が割って入るが、これはナチスを念頭に置いたものだろう。第2主題と冒頭主題の回想ののち、曲は静かに閉じられる。

第5楽章〈終曲〉 ペサント、2/4拍子—プレスト、2/4拍子。ソナタ形式。民俗音楽の語法を随所に取り込んだ無窮動のフィナーレ。終盤ではフーガ主題がアルペンホルンさながらに、高らかに鳴り響く。

作曲年代	1943年8月15日に着手、1943年10月8日に完成。1945年3月改訂
初演	1944年12月1日、セルゲイ・クーセヴィツキー指揮、ボストン交響楽団、ボストン・シンフォニー・ホール
楽器編成	フルート3(ピッコロ1)、オーボエ3(イングリッシュ・ホルン1)、クラリネット3(バス・クラリネット1)、ファゴット3(コントラファゴット1)、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、小太鼓、トライアングル、銅鑼、ハープ2、弦楽

各地の歌を昇華した、最晩年の傑作

ベーラ・バルトーク

Béla Bartók (1881–1945)

バルトークは、祖国ハンガリーや東ヨーロッパの民俗音楽を作曲の糧としました。各地の民謡を集めるため、わざわざ重たい蓄音機を持って行き、村人の歌声の録音もしています。彼の音楽は、そうして集めた民謡と、20世紀の現代的な響きが合わさった個性的なものです。晩年に書かれた《管弦楽のための協奏曲》は、彼の創作の総決算とも言える作品です。作曲した時バルトークは、やがて彼の命を奪うことになる白血病になっていました。それでも音楽は、時にはユーモアも交え、最後は生命力がみなぎるように輝かしく結ばれるのです。



移住先のアメリカで研究に没頭し、作曲から離れていたバルトーク。病の中で書き上げた本作はまさに再起の一曲だ

©IKE

B

第2066回

サントリーホール

6/4 木 7:00pm

6/5 金 7:00pm

指揮 ステファヌ・ドゥネーヴ

メゾ・ソプラノ ガエル・アルケーズ

コンサートマスター ジュリアン・ズルマン◆

◆ジュリアン・ズルマン:5歳よりヴァイオリンを始める。パリ国立高等音楽院卒業後にベルリン・ハンス・アイスラー音楽大学でドイツ国家演奏家資格を取得。ゲスト・コンサートマスターとしてロンドン交響楽団、水戸室内管弦楽団、スイス・ロマンツ管弦楽団、パリ管弦楽団などと共演している。現在、小澤征爾スイス国際アカデミーの選考委員会責任者、小澤国際室内楽アカデミー奥志賀講師。パリ国立高等音楽院で後進の指導にもあたる。

オネゲル

交響詩「夏の牧歌」[8']

ベルリオーズ

歌曲集「夏の夜」作品7[31']

- I ヴィラネル
- II 薔薇^{ばら}の亡霊
- III 入り江のほとり
- IV 君なくて
- V 墓地で
- VI 未知の島

— 休憩 (20分) —

イベール

寄港地[14']

- I ローマーパレルモ
- II チュニス—ネフタ
- III バレンシア

ドビュッシー

交響詩「海」[25']

- I 海の夜明けから真昼まで
- II 波の戯れ
- III 風と海との対話

※演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ただたく、ぜひお声をお寄せください。ご協力お願いいたします。

詳しくは78ページをご覧ください

こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

ステファヌ・ドゥネーヴ(指揮)



ステファヌ・ドゥネーヴはフランス音楽の伝統を鮮やかに、かつ繊細に継承している指揮者のひとりだ。若き日にショルティやプレートル、小澤征爾といった巨匠たちの美学を間近で吸収した。ロイヤル・スコットランド・ナショナル管弦楽団音楽監督(2005~2012年)、シュトゥットガルト放送交響楽団首席指揮者(2011~2016年)、ブリュッセル・フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者(2015~2022年)といった名だたるオーケストラの要職を歴任。現在はアメリカの名門セントルイス交響楽団の音楽監督やオランダ放送フィルハーモニー管弦楽団の首席客演指揮者を務めるなど、世界中のオーケストラが絶大な信頼を寄せる。

ドゥネーヴの魅力は、ひとつひとつの音を磨き上げ、豊かなグラデーションを引き出す手腕にある。洒脱しやだつでエレガントな語り口でスコアに潜む詩情を浮かび上がらせる。日本愛好家としても知られ、セイジ・オザワ 松本フェスティバル(旧サイトウ・キネン・フェスティバル松本)をはじめ日本の楽壇との絆も強い。

N響とは2015年の初共演以来、フランス物を中心に10年以上にわたり極上のサウンドを紡いできた。今回のプログラムはオネゲルの爽やかな《夏の牧歌》に始まり、ベルリオズのロマンティックな《夏の夜》、異国情緒あふれるイベールの《寄港地》を経て、ドビュッシーの《海》の壮大な波しぶぎに至る。涼やかなフランスの風がホールを吹き抜けるだろう。

[江藤光紀／音楽評論家]

ガエル・アルケーズ(メゾ・ソプラノ)



世界のオペラシーンで急速に存在感を示しているフランスのリリック・メゾ・ソプラノ。確かな技術に支えられた安定感、凜とした佇まいと官能性が同居する艶やかな美声かぜ、騷りやニュアンスに富むフランス語のディクシオンの美しさ、心理やドラマを的確に伝える表現力を武器に、オペラ、コンサートの両方で活躍する。エキゾチックな美貌と合わせ、舞台上での存在感も抜群だ。

サント生まれ。故郷近くのポアティエとパリの音楽院で音楽学と声楽を学ぶ。2011年、「ヴィクトワール・ド・ラ・ムジーク」で最優秀新人歌手に選ばれる。2012年、パリ・オペラ座に《ドン・ジョヴァンニ》のツェルリーナ役でデビューして注目を集め、以来世界各地の歌劇場に招かれている。昨年はモンテカルロ歌劇場で山田和樹の指揮のもと《スペインの時》のヒロインを歌い、大成功を収めた。

ベルリオズの《夏の夜》は、オーケストラ付きフランス語歌曲の精髓と言うべき作品。ベルリオズならではの流麗な旋律とゆらめくりズム、ニュアンスに富むフランス語の美しさは、アルケーズのような表現力のある歌手を得てこそ生かされる。

[加藤浩子／音楽評論家]

フランス音楽の幅広いレパートリーを自家薬籠中のものとするドゥーネーヴが、「夏」と「海」とのキーワードを軸に編んだ魅惑的なプログラム。ただし、この「フランス音楽」は一枚岩ではなく、ロマンティックなベルリオズの歌曲集と半世紀後のドビュッシーの印象主義的傑作との間には、美学的にも聴覚的にも大きなコントラストがある。若きオネゲルとイベールの瑞々しい感性の光る2作品とともに、個性豊かな楽曲同士の響き合いの妙を味わいたい。

オネゲル

交響詩「夏の牧歌」

スイスにルーツをもち、主にフランスで活動したアルテュール・オネゲル(1892~1955)の初期の代表作のひとつである本作は、パリ音楽院卒業から数年を経た1920年の夏、アルプスの名峰ユングフラウの麓の村で作曲された。スコアに掲げられた「ぼくは夏の夜明けを抱いた」というエピグラフは、擬人化された「夜明け」との触れあいのなかで早朝の世界が徐々に目覚めてゆくさまを叙情的に描いたアルテュール・ランボー(1854~1891)の散文詩「夜明け」から採られている。当時28歳のオネゲルもまた、アルプスの大自然のなかで、こうした美しい夜明けを目にすることがあったのだろうか。

楽曲は大きく3部分から構成され、静かな田園風景が次第に活気を帯び、再びもとの静寂にもどっていく展開が、小編成のオーケストラで繊細に表現される。冒頭ののびやかな主題は、ホルンからオーボエ、ついで第1ヴァイオリンへと受け継がれ、最高音に達したところでにわかに息をひそめる。これと並行して、フルートとクラリネットによる鳥のさえずりが随所で聴こえてくる。潑刺とした中間部では、クラリネットがベートーヴェンの《田園交響曲》を想起させる新たな主題(邦題中の「牧歌」の原語は「田園」と同じpastoraleである)を提示する。第3部ではそれまでに登場した主題やモチーフが時に折り重なりつつ再現され、フルートによる思い出のような《田園》風主題の再現とともに作品は静かに収束する。

作曲年代	1920年
初演	1921年2月17日、ウラディーミル・ゴルシュマン指揮、ゴルシュマン管弦楽団、パリ
楽器編成	フルート1、オーボエ1、クラリネット1、ファゴット1、ホルン1、弦楽

歌曲集「夏の夜」作品7

エクトル・ベルリオーズ(1803~1869)の残した4つの歌曲集のなかでも最重要作とされる本作は、作曲家と交友関係にあったロマン派の詩人テオフィル・ゴーティエ(1811~1872)の詩集『死の喜劇』(1838)からの6篇を音楽化したものである。シェークスピアの『夏の夜の夢』に加え、同時代のドニゼッティ(1797~1848)の歌曲集《ボジリポの夏の夜》(1836)やミュッセの詩集『夜』(1835~1837)などとの関連も指摘されるタイトルは、愛や夢、幻想と結びついたロマン主義的な「夜」のイメージをも反映したものでしょう。初稿はメゾ・ソプラノまたはテノールのためのピアノ伴奏つき歌曲として書かれたが、オーケストレーションの名手ベルリオーズが後年手掛けた管弦楽編曲版(第2稿)は、作品の魅力を一層高めている。

第1曲〈ヴィラネル〉は、新しい季節の訪れとともに恋人を森へ誘う、心浮き立つような田園曲。**第2曲**〈薔薇の亡霊〉では、舞踏会の夜に若い娘によって手折られた薔薇が、亡霊となって彼女の夢枕に立つ。ロマンティックな優美さとほの暗さとを併せ持つこの曲は、上演を聴いた出版業者から高く評価され、曲集全体の管弦楽化の契機となった。**第3曲**〈入り江のほとり〉は、亡き恋人を想い、悲嘆にくれる漁師の歌。凍り付いた心を映し出したようなモノクロームの旋律は、感情の高まりとともに「ああ! 愛するひとなくして海に出るとは!」という絶望の叫びへと至る。愛する人に「戻ってきて」と呼びかける**第4曲**〈君なくて〉は不在がテーマではあるが、長調で書かれ、ある種のオペラ的な華やかさをも持つ。当時作曲家と愛人関係にあったメゾ・ソプラノ歌手マリー・レシオ(1814~1862)のために、他の曲に先駆けて管弦楽化されたことでも知られる。**第5曲**〈墓地で〉は、墓前で鳩の悲しげな鳴き声に耳を傾けながら死者に思いを馳せるうちに、いつしか亡霊が現れる……というもの。途中の弦楽器のハーモニクスは、この世のものならぬ幻影の出現を予感させる。**第6曲**〈未知の島〉は、帆をいっぱい広げた船で恋人を旅へと誘う、晴れやかな舟歌である。

作曲年代	[ピアノ伴奏版]1840~1841年 [管弦楽版]1843年(第4曲)、1855~1856年(第2曲)、1856年(第1・3・5・6曲)
初演	[管弦楽版]1843年2月23日、マリー・レシオのメゾ・ソプラノ独唱、ライブツィヒ(第4曲)、1856年2月6日、アンナ・ボックホルツ・ファルコーニのメゾ・ソプラノ独唱、ゴータ(第2曲)、第1・3・5・6曲および全曲初演については不詳
楽器編成	フルート2、オーボエ1、クラリネット2、ファゴット2、ホルン3、ハーブ1、弦楽、メゾ・ソプラノ・ソロ

寄港地

さまざまな土地の印象を色彩感豊かに描きだす楽曲は、近代フランス音楽におけるひとつの重要な類型でありつづけてきた。ジャック・イベール(1890~1962)の《寄港地》もまた、この系譜に連なる魅惑的な管弦楽曲の一例であり、地中海沿岸の諸都市をめぐる想像上の船旅に聴き手の心をいざなう。

第1次世界大戦への従軍を経て、1919年にフランスの作曲家の登竜門ローマ賞に挑戦したイベールは、初回で首尾よく大賞を獲得し、褒賞としてローマに留学することとなった。本作はこのローマ賞受賞者に課される提出作品の一部として、滞在先のローマで作曲されたものである。「旅をしていると、蛇つかいからごみごみした街並みまで、あらゆるものに興味が湧く」とはイベール自身の言。作品中で描き出される異国の街のイメージは、彼の海軍での経験やローマ賞受賞後の新婚旅行などから得たものであろう。

第1曲はイタリアのローマからパレルモへの旅。地中海の爽やかな風や波のうねりを思わせる音楽の合間に、南方の陽気なタランテラのリズムが聞こえてくる。**第2曲**はうってかわって北アフリカ・チュニジアのチュニスとネフタが舞台。弦とティンパニの伴奏に乗せて、オーボエ独奏がアラビア風のエキゾチックな旋律を奏でる。**第3曲**はスペイン南東部のバレンシア。躍動的な舞曲のリズム、タンブリンとカスタネットの響き——。音楽は終盤いっそう活気を増し、興奮の渦のなかでエネルギーに締めくくられる。

作曲年代	1922年
初演	1924年1月6日、ポール・パレー指揮、ラムルー管弦楽団、パリ
楽器編成	フルート2(ピッコロ1)、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、ファゴット3、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、小太鼓、トライアングル、タンブリン、カスタネット、銅鑼、シロフォン、チェレスタ、ハープ2、弦楽

ドビュッシー

交響詩「海」

「海、これほど音楽的なものはない」——晩年のクロード・ドビュッシー(1862~1918)は、眼前の海の音に耳を傾けながらこう語ったという。少年時代には船乗りになるつもりだったという作曲家は、生涯にわたって海という計り知れぬ存在に大きな愛着を持ち続けていた。そうした彼が1903年の夏、現実の海から遠く離れたブルゴーニュ地方の村で「無数の思い出」と「想像力」を頼りに書き始めたのが、「3つの交響的素描」との副題を持つ本作である。創作時期は作曲家の私生活上の大きな動乱期とも一部重なっていたが、作曲自体は比較的順調に進み、約1年半後の1905年3月に全曲が完成した。

今日ではドビュッシー最大の傑作のひとつとみなされる本作だが、その斬新な表現は初演時には多くの批評家を戸惑わせた。この作品に「海」を感じられないと評したある批評家に対し、ドビュッシーは自身の海への情熱を改めて表明しつつ、相手が固執しているものは自分にとっては時代遅れの古い伝統だと批判している。一定の型にとらわれることなく、刻々と変化し続ける海の姿は、ドビュッシーが芸術家として追い求めつづけた「自由」という理想にも相通ずるところがあっただろう。

第1曲〈海の夜明けから真昼まで〉では、どこからともなく聞こえてくる低音のざわめきのなかから、作品全体を支配する長2度進行のゆるめくようなモチーフが立ち現れる。移ろいゆく多彩な海の表情は、テクスチュアの変化とともに次々と自然発生的に生み出されてゆく数々の主題やモチーフで表現され、最後は金管楽器による「真昼」の輝きで大団円を迎える。波頭のきらめきを思わせるグロッケンシュピールの響きが印象深い**第2曲**〈波の戯れ〉は、同じく海の千変万化を映し出しているが、伝統的な交響曲の構成になぞらえて「スケルツォ楽章」と評されることもある。嵐の到来を予感させる不穏な動きで始まる**第3曲**〈風と海との対話〉では、荒れ狂う波のうねりと東の間の凧なぎとが対照的に描かれる。

作曲年代	1903～1905年
初演	1905年10月15日、カミーユ・シュヴィヤール指揮、ラムル＝管弦楽団、パリ
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、ファゴット3、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、ホルネット2、トロンボーン3、テューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、トライアングル、銅鑼、グロッケンシュピール、ハープ2、弦楽

ベルリオーズ

歌曲集「夏の夜」作品7 歌詞対訳

Berlioz: *Les nuits d'été*, songs Op. 7 (*Summer Nights*)

詞(原詩)◎テオフィル・ゴーティエ | Text: Théophile Gautier

※原詩: ゴーティエ 詩集「死の喜劇」から

訳◎神保夏子 | Translation: Natsuko Jimbo

B

4 & 5 JUNE 2026

Villanelle

Quand viendra, la saison nouvelle,
Quand auront disparu les froids,
Tous les deux nous irons, ma belle,
Pour cueillir le muguet aux bois,
Sous nos pieds égrenant les perles
Que l'on voit au matin trembler,
Nous irons écouter les merles
Siffler.

Le printemps est venu, ma belle;
C'est le mois des amants béni;
Et l'oiseau, satinant son aile,
Dit des vers au rebord du nid.
Oh! viens donc sur ce banc de mousse
Pour parler de nos beaux amours,
Et dis-moi de ta voix si douce:
Toujours!

Loin, bien loin égarant nos courses,
Faisons fuir le lapin caché,
Et le daim, au miroir des sources
Admirant son grand bois penché!
Puis chez nous, tout heureux, tout aises,
En paniers enlaçant nos doigts,
Revenons, rapportant des fraises
Des bois!

ヴァレネル(田園詩)

新たな季節が、やってきて、
寒さが消えゆくとき、
二人で行こう、美しいひとよ、
森へスズランを摘みに。
朝に震えるのが見える
足元の露を散らしながら、
聴きに行こう、クロウタドリが
囀るのを。

春が来た、美しいひとよ。
祝福された恋人たちの月だよ。
そして鳥は、繻子しゆすのような翼をして、
巢の縁で詩を語っている。
おお! だからこの苔こけのベンチにおいでよ
僕らの美しい愛を語り、
そしてその甘い声で言っておくれ。
いつまでも、と!

遠く、ずっと遠く道を外れ、
隠れたウサギを逃がしてやろう、
そして、泉の鏡に映る
傾けた大角にみとれるダマシカも!
それからとても幸せで、とても満ち足りた気分で、
僕らの指に絡めた籠かごに、
苺いちごを入れて帰ってこよう
森から!

Le Spectre de la rose

Soulève ta paupière close
Qu'effleure un songe virginal!
Je suis, le spectre d'une rose
Que tu portais hier au bal.
Tu me pris encore emperlée
Des pleurs d'argent de l'arrosoir,
Et, parmi la fête étoilée,
Tu me promenais tout le soir.

Ô toi qui de ma mort fus cause,
Sans que tu puisses le chasser,
Toutes les nuits, mon spectre rose
À ton chevet viendra danser;
Mais ne crains rien, je ne réclame
Ni messe ni *De profundis*.
Ce léger parfum est mon âme,
Et j'arrive du paradis.

Mon destin fut digne d'envie,
Et, pour avoir un sort si beau,
Plus d'un aurait donné sa vie;
Car sur ton sein j'ai mon tombeau,
Et sur l'albâtre où je repose
Un poète avec un baiser
Écrivit: Ci-gît une rose,
Que tous les rois vont jalouser.

Sur les lagunes

Ma belle amie est morte,
Je pleurerai toujours;
Sous la tombe elle emporte
Mon âme et mes amours.
Dans le ciel, sans m'attendre,
Elle s'en retourna;
L'ange qui l'emmena
Ne voulut pas me prendre.
Que mon sort est amer!

薔薇の亡霊

けがれなき夢にまどろむ
閉じた瞼をお開け!
私は、薔薇の亡霊
昨夜おまえが舞踏会につけていった薔薇です。
じょうろの銀の涙に
まだ濡れていた私をおまえは摘み、
星輝く宴のあいだ、
ひと晩じゅう連れ回したのだ。

おお、私の命を奪ったおまえ、
毎夜、私の薔薇色の亡霊は
追いやることのできないうちに、
おまえの枕もとで踊ることだろう。
けれども恐れることはない、私は
ミサもく深い淵ふちからも求めはしない。
この軽やかな香りは私の魂、
私は楽園からやってきたのです。

私のさだめは羨むべきもの、
かくも素晴らしい運命のため、
命を投げ出す者は一人にはとどまるまい。
なぜならおまえの胸に私の墓はあるのだから、
そして私の眠る雪花石膏に
ある詩人は口づけとともに
こう綴ったのだから。ここに薔薇眠る、
すべての王がねたむべき薔薇、と。

入り江のほとり

かわいいあの娘が死んだ、
俺はいつまでも泣きぬれるだろう。
あの娘は墓の下へと連れて行った
俺の心も愛も。
俺を待つこともなく、
あの娘は天へと帰ってしまった。
あの娘を連れて行った天使は
俺を連れて行こうとはしなかった。
なんとつらい運命よ!

Ah! sans amour s'en aller sur la mer!

La blanche créature
Est couchée au cercueil;
Comme dans la nature
Tout me paraît en deuil!
La colombe oubliée
Pleure et songe à l'absent;
Mon âme pleure et sent
Qu'elle est dépareillée.
Que mon sort est amer!
Ah! sans amour s'en aller sur la mer!

Sur moi la nuit immense
S'étend comme un linceul;
Je chante ma romance
Que le ciel entend seul.
Ah! comme elle était belle,
Et comme je l'aimais!
Je n'aimerai jamais
Une femme autant qu'elle.
Que mon sort est amer!
Ah! sans amour s'en aller sur la mer!

Absence

Reviens, reviens, ma bien-aimée!
Comme une fleur loin du soleil,
La fleur de ma vie est fermée
Loin de ton sourire vermeil.

Entre nos cœurs quelle distance!
Tant d'espace entre nos baisers!
Ô sort amer! ô dure absence!
Ô grands désirs inapaisés!

Reviens, reviens, ma bien-aimée!
Comme une fleur loin du soleil
La fleur de ma vie est fermée
Loin de ton sourire vermeil!

ああ! 愛するひとなくて海に出るとは!

白い被造物が
棺に横たわっている。
自然界ではあらゆるものが
喪に服しているようにみえる!
取り残された鳩はとは
なき人を想い、涙を流す。
俺の魂は涙を流し
片割れを失ったと感じている。
なんとつらい運命よ!
ああ! 愛するひとなくて海に出るとは!

俺の上には巨大な夜が
経帷子きょうかたびらのように広がっている。
俺は恋歌を歌い
天のみがそれを耳にする。
ああ! なんとあの娘は美しかったことか、
どれほど俺は愛したことか!
二度と女を愛しはすまい
あの娘ほどには。
なんとつらい運命よ!
ああ! 愛するひとなくて海に出るとは!

君なくて

戻ってきて、戻ってきて、愛するひとよ!
太陽を離れた花のように、
君の真紅の笑みを離れた
僕の命の花は閉じてしまった。

僕らの心のあいだにどれほどの距離があることか!
口づけしようにもなんと隔たりがあることか!
おお、つらい運命! おお、耐え難き不在!
おお、鎮まることなき欲望!

戻ってきて、戻ってきて、愛するひとよ!
太陽を離れた花のように
君の真紅の笑みを離れた
僕の命の花は閉じてしまった!

D'ici là-bas que de campagnes,
Que de villes et de hameaux,
Que de vallons et de montagnes,
À lasser le pied des chevaux!

Reviens, reviens, ma bien-aimée!
Comme une fleur loin du soleil,
La fleur de ma vie est fermée
Loin de ton sourire vermeil!

Au cimetière

Connaissez-vous la blanche tombe,
Où flotte avec un son plaintif
L'ombre d'un if?
Sur l'if une pâle colombe,
Triste et seule au soleil couchant,
Chante son chant;

Un air maladivement tendre,
À la fois charmant et fatal,
Qui vous fait mal
Et qu'on voudrait toujours entendre;
Un air, comme en soupire aux cieux
L'ange amoureux.

On dirait que l'âme éveillée
Pleure sous terre à l'unisson
De la chanson,
Et du malheur d'être oubliée
Se plaint dans un roucoulement
Bien doucement.

Sur les ailes de la musique
On sent lentement revenir
Un souvenir.
Une ombre, une forme angélique,
Passe dans un rayon tremblant,
En voile blanc.

Les belles-de-nuit demi-closes.

ここからあそこまでにはどれほどの野が、
町が 集落が、
谷が 山があるのだろう、
馬の脚が疲れ果てるほどの!

戻ってきて、戻ってきて、愛するひとよ!
太陽を離れた花のように、
君の真紅の笑みを離れた
僕の命の花は閉じてしまった!

墓地で

白い墓を知っていますか?
イチイの影が
嘆きの響きとともに漂うところ
イチイの上には 青白い鳩が、
ひとり悲しく 落日のもと、
歌を歌っています。

魅惑的で命とりな、
病的にやさしい歌、
あなたを苦しませ
またいつまでも聞いていたくなるような、
天上でため息を漏らす
愛の天使のような歌です。

目覚めた魂が
歌に合わせ、
地面の下で泣いているのでしょう
そして忘れられる不幸を
鳩の声で嘆いているのでしょう
とても静かに。

歌の翼に乗って
ゆるやかによみがえるのは
ひとつの思い出。
ひとつの影が、天使の姿で、
震える光のなかを通っていきます、
白いヴェールをまとして。

おしろい花は半開きになり、

Jettent leur parfum faible et doux
Autour de vous,
Et le fantôme aux molles poses
Murmure en vous tendant les bras:
Tu reviendras!

Oh! jamais, plus près de la tombe,
Je n'irai quand descend le soir,
Au manteau noir,
Écouter la pâle colombe,
Chanter sur la pointe de l'if,
Son chant plaintif.

L'île inconnue

Dites, la jeune belle,
Où voulez-vous aller?
La voile enfle son aile,
La brise va souffler.

L'aviron est d'ivoire,
Le pavillon de moire,
Le gouvernail d'or fin;
J'ai pour lest une orange,
Pour voile une aile d'ange,
Pour mousse un séraphin.

Dites, la jeune belle,
Où voulez-vous aller?
La voile enfle son aile,
La brise va souffler.

Est-ce dans la Baltique?
Dans la mer Pacifique,
Dans l'île de Java?
Ou bien est-ce en Norvège,
Cueillir la fleur de neige,
Ou la fleur d'Angsoka?

Dites, la jeune belle,
Où voulez-vous aller?

あなたの周りで、
かすかな甘い香りを漂わしています
そしてやわらかな姿の幽霊が
あなたに手を差し伸べこうささやくのです。
戻っておいで!と

おお!もう二度と、墓のそばには行きません、
黒い外套がいたうの、
宵闇が降りるとき、
青白い鳩が、
イチイの先で、
その嘆きの歌を歌うのを聞きには。

未知の島

教えて、若く美しい乙女よ、
あなたはどこに行きたいの?
帆船はその翼を広げ、
そよ風が吹くだろう。

象牙のオール、
波模様モアレの旗、
純金かしの舵。
底積みはオレンジ一個、
帆には天使の翼、
水夫には熾天使。

教えて、若く美しい乙女よ、
あなたはどこに行きたいの?
帆船はその翼を広げ、
そよ風が吹くだろう。

バルト海へ?
太平洋へ、
ジャワ島へ?
それともノルウェーに、
雪の花を摘みに行こうか、
それともアングソカの花?

教えて、若く美しい乙女よ、
あなたはどこに行きたいの?

Menez-moi, dit la belle,
À la rive fidèle,
Où l'on aime toujours!
— Cette rive, ma chère,
On ne la connaît guère,
Au pays des amours.

Où voulez-vous aller?
La brise va souffler.

連れて行って、と美しい乙女はいう、
貞節の岸辺へ、
いつまでも愛し合えるところへ！
— そんな岸辺は、かわいいひとよ、
ほとんど知られていないのだ、
恋人たちの国では。

あなたはどこに行きたいの？
そよ風は吹くだろう。

はじめてのクラシック

INTRODUCTION TO CLASSICAL MUSIC

イラスト:IKE/文:松井治伸

ドビュッシーは海が好きでした。彼は、作曲家にならなかつたら船乗りになっていた、と語っています。8歳の年、ドビュッシーは南仏・カンヌの伯母の家を訪ねました。その時に見た地中海は、彼に忘れ難い印象を残します。「遥か彼方に海が見え、家の前を通る鉄道が、海から出てくるかのように見えた」。後年、彼は仕事相手に宛てた手紙にそう書いています。《交響詩「海」》は、ドビュッシーが43歳の年に作曲されました。出版された楽譜の表紙に使われたのが、葛飾北斎の《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》。ドビュッシーの海への愛はここからも伝わってきます。

B

2026 JUNE
[第2066回]



《交響詩「海」》には、ドビュッシーの原体験となった地中海への憧れや記憶も込められているのかもしれない

海のようにきらきりとゆらめく音楽

クロード・ドビュッシー

Claude Debussy (1862–1918)

©IKE

PROGRAM

C

第2068回

NHKホール

6/19 **金** 7:00pm

6/20 **土** 2:00pm

指揮

尾高忠明

ヴァイオリン

HIMARI

コンサートマスター

長原幸太

シベリウス

アンダンテ・フェスティヴァーヴォ [5']

シベリウス

ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47
[35']

- I アレグロ・モデラート
- II アダージョ・ディ・モルト
- III アレグロ、マ・ノン・タント

—— 休憩 (20分) ——

ラフマニノフ

交響曲 第3番 イ短調 作品44 [41']

- I レントー アレグロ・モデラート
- II アダージョ・マ・ノン・トロッポ
— アレグロ・ヴィヴァーチェ
- III アレグロ

※ 演奏時間は目安です。

インターネットアンケートにご協力ください

N響では、今後のよりよい公演の実現に向けて、インターネットでアンケートを行っています。みなさまの貴重なご意見を参考にさせていただきます。ご協力をお願いいたします。

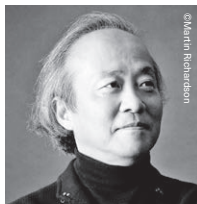
詳しくは78ページをご覧ください

こちらのQRコードから
アンケートページへアクセスできます



<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>

尾高忠明(指揮)



戦後のわが国の楽界を支えてきた指揮者たちが鬼籍に入るなか、尾高忠明は日本を代表する指揮者として長らく活動を続けている重鎮である。1947年生まれ尾高とN響とのつながりは、1971年4月3日のラジオ・テレビコンサートでの初共演から始まる。プログラムはシベリウスの《組曲「カレリア」》とチャイコフスキーの《交響曲第4番》。以後半世紀以上にわたりN響にしばしば登場し、多彩なプログラムで聴衆を楽しませてきた。2010年よりN響正指揮者をつとめる尾高の今定期のプログラムは前半がシベリウス作品2曲。まず《アンダンテ・フェスティヴォ》は彼が好んで取り上げてきた洒落^{しやだつ}な1曲である。続くシベリウスの《ヴァイオリン協奏曲》を弾くのは2011年生まれHIMARI。尾高との歳の差は60年以上になる。N響定期に何度も登場している名協奏曲だが、ソリスト、指揮者が異なると新たな発見が生まれる。勢いのある新鋭を支える老練なタクトに期待したい。古典から現代まで幅広いレパートリーを誇っており、2000年には英国エルガー協会より日本人初のエルガー・メダルを授与されるなど英国音楽の第一人者としても知られる尾高だが、ロシア音楽も彼の十八番^{おはこ}である。ラフマニノフの《交響曲第3番》のロシア的なノスタルジーの表現と輝かしい響きに彩られた作風をどのように聴かせてくれるか楽しみにしたい。

[伊藤制子／音楽学・音楽評論]

HIMARI(ヴァイオリン)



音楽ファン憧れのステージで創造の喜びを分かち合っている。2025年3月はセバスティアン・ヴァイグレ指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団とヴィエニャフスキの《ヴァイオリン協奏曲第1番》を、2026年2月にはヤープ・ヴァン・ズヴェーデン指揮シカゴ交響楽団とブルッフの《ヴァイオリン協奏曲第1番》を奏でた。今回、尾高忠明指揮NHK交響楽団とシベリウスの協奏曲に尽くした後も、米タンゲルウッド音楽祭に出演。アントニオ・パッパーノ指揮ロンドン交響楽団の日本ツアーに同行し、来春にはアンドリス・ネルソンス指揮ボストン交響楽団のカーネギーホール公演に招かれ、プロコフィエフの《ヴァイオリン協奏曲第2番》を弾く。

2011年、音楽一家の生まれ(母はヴァイオリニストの吉田恭子)。原田幸一郎、小栗まち絵に学ぶ。江副記念リクルート財団第52回奨学生。フィラデルフィアのカーティス音楽院でアイダ・カヴァフィアンに師事している。コンクール受賞歴は枚挙にいとまがない。N響とは2023年にバガニーニの《ヴァイオリン協奏曲第1番》で共演、定期公演への出演は今回が初めてとなる。求心的な音楽がNHKホールを満たすことだろう。使用楽器は、1732年製ガールネリ・デル・ジェス「フェルニ」。

[奥田佳道／音楽評論家]

ジャン・シベリウス(1865~1957)とセルゲイ・ラフマニノフ(1873~1943)は、無調や十二音技法といった20世紀音楽の新しい潮流に与^{くみ}せず、民族性に根ざした調性的な音楽を書き続けたという点で共通している。そのため彼らの音楽は時代遅れとされたこともあったが、英国などを中心に再評価が進み、現在では世界中で広く演奏されている。本日は、その英国で長年活躍し、シベリウスやラフマニノフの演奏で高い評価を受けてきた尾高忠明の指揮で、彼らの傑作3曲を聴くことができる。

シベリウス

アンダンテ・フェスティーヴォ

《アンダンテ・フェスティーヴォ》(祝祭的アンダンテ)は、1922年、ある製材工場の25周年を祝うための作品として依頼され、まずは弦楽四重奏のために作曲された。このときはアマチュアの弦楽四重奏団によって初演されたのだが、その後は、1929年に作曲者の姪^{めい}の結婚式において、2つの弦楽四重奏団によって演奏されたのを除くと、ほぼ忘れられていた。

さて、1938年、ほぼ隠居状態にあったシベリウスはひとつの依頼を受ける。翌年にニューヨークで開催される万国博覧会のために、シベリウスに自作を指揮してもらい、それを大西洋を越えて短波で中継し、アメリカで放送したいという内容だ。依頼してきたのは、シベリウスの崇拝者だった音楽評論家で、この博覧会の音楽監督を務めていたオーリン・ダウズだった。ラジオを聴くのが好きだったシベリウスはこれを承諾する。弦楽オーケストラのための編曲はこのときに行われたとみられるが、姪の結婚式のときに、すでにある程度は原曲に手を加えていたという推測もある。

1939年1月1日、73歳のシベリウスはフィンランド放送交響楽団を指揮してこの編曲を演奏した。なお、彼が指揮をするのは約10年ぶりで、これが最後の機会となった。このときの録音は残っていて、CDなどで聴くことができるが、これはシベリウスの指揮が聴ける唯一の録音だ。

作曲年代	[弦楽四重奏版]1922年 [弦楽オーケストラ版]1938年
初演	[弦楽四重奏版]1922年12月28日、エイノ・フレドリクソン(ヴァイオリン)、オラヴィ・ヴァンティネン(ヴァイオリン)、パーヴォ・ケサニエミ(ヴィオラ)、オンニ・フレドリクソン(チェロ) [弦楽オーケストラ版]1939年1月1日、作曲者自身の指揮、フィンランド放送交響楽団
楽器編成	ティンパニ、弦楽

ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47

シベリウスは、若いころにヴァイオリニストを目指していたこともあり、ヴァイオリン協奏曲を書きたいという希望を早くから持っていた。しかし本格的に作曲に取りかかったのは1902年のことだった。その後、途中で、劇音楽《クオレマ》のための中断などがあったが、1904年初頭には全曲が完成した。最終段階での没頭ぶりについては、シベリウス夫人が次のように回想している。「ヤンネ[シベリウスの愛称]はいつも燃えていました(私も!)。そして今回はまた「持てる者の悩み」がありました。頭に旋律があふれ、めまいがするほどだったのです。彼は一晩中起きていて、信じられないほど美しく弾いて、そのすばらしい旋律から離れられないのです……」

だが、1904年2月に行われた初演は、独奏者の技術不足もあり、失敗に終わる。そこでシベリウスは改訂を行うのだが、これは、第1楽章の2つあったカデンツァをひとつにするなど、かなり大規模なものだった。改訂版は、1905年10月にベルリンにおいて、シベリウスのよき理解者だったリヒャルト・シュトラウスの指揮、王立プロイセン宮廷楽団(現在のベルリン国立歌劇場管弦楽団)、同楽団のコンサートマスターだったカレル(カール)・ハリルの独奏で初演され、今度は成功を収めた。

第1楽章(アレグロ・モデラート)は3つの主題を持つソナタ形式。通常は楽章の後半にあるカデンツァが楽章中央に置かれて、そのまま展開部を兼ねていたり、再現部でも主題が大きく展開されながら再現するなど、さまざまな独創的アイデアが盛り込まれている。第2楽章(アダージョ・ディ・モルト)は3部形式。美しい旋律が歌われるロマンス風の楽章。改訂前の初演時から好評で、初稿と改訂稿で最も差異が少ない。第3楽章(アレグロ、マ・ノン・タント)はロンド形式。躍動的な舞曲風の音楽で、ヴァイオリンの高度な技巧が使われている。

作曲年代	[初稿] 1904年完成 [改訂稿] 1905年改訂
初演	[初稿] 1904年2月8日、ヴィクトル・ノヴァチェクの独奏、作曲家自身の指揮、ヘルシンキ・フィルハーモニック [改訂稿] 1905年10月19日、カレル・ハリルのヴァイオリン独奏、リヒャルト・シュトラウス指揮、王立プロイセン宮廷楽団
楽器編成	フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、ティンパニ、弦楽、ヴァイオリン・ソロ

ラフマニノフ

交響曲 第3番 イ短調 作品44

1918年1月、ラフマニノフは革命後の混乱を逃れてロシアを出たが、アメリカに暮らすようになった彼は、なかなか本格的な作曲活動を再開することができなかった。1926

年に《ピアノ協奏曲第4番》で作曲に復帰してからも、ピアニストとしての多忙な活動や、祖国を離れて創作意欲が減退したことなどから、ロシア時代に比べると、作曲のペースは極端に落ちてしまった。その後、彼はロシアに帰ることはなく、1943年にアメリカで世を去るが、アメリカでの25年間に残した作品は、編曲などを除けば、わずか6曲にすぎない。《交響曲第3番》はその5番目、つまり彼の全作品のうちで最後から2番目の作品にあたる。

《交響曲第3番》は、1935年5月頃に着手され、翌年6月に完成した。1936年11月に行われた初演は、失敗でもなかったが大成功でもなかったようだ。しかしラフマニノフはこの曲に強い愛着を持っており、自分の最高傑作のひとつと考えていた。1939年、彼は自らフィラデルフィア管弦楽団を指揮してこの曲の録音を行っている。

《交響曲第1番》や《第2番》が4楽章構成だったのに対し、《第3番》は、急—緩—急の3楽章構成を取る。スケルツォを欠く形だが、第2楽章の途中には急速な部分があり、実質的にスケルツォが融合されていると見ることもできる。

第1楽章（レント—アレグロ・モデラート）。寒々とした短い序奏に始まる。聖歌の断片のような序奏の音型は第2、3楽章にも現れて、全曲に統一感を与えている。序奏に続く短調の第1主題と、チェロの歌うホ長調の第2主題に基づくソナタ形式の楽章で、再現部では、両主題が提示部よりもずっとノスタルジックな表情とともに歌われるのが印象的だ。楽章の最後は、弦が静かに奏する序奏主題によって閉じられる。

第2楽章（アダージョ・マ・ノン・トロポ—アレグロ・ヴィヴァーチェ）。ハーブのアルペッジョに伴われてホルンが歌う旋律が始まる。吟遊詩人の歌を思わせるこの旋律は、第1楽章序奏に基づいている。続いて独奏ヴァイオリンが、下降音型が特徴的な主要主題を歌い始める。途中、テンポが速くなり、スケルツォ風の間中部となるが、最後に楽章の前半部分が短く再現される。

第3楽章（アレグロ）は自由な形式のフィナーレ。華やかな開始に続き、いくつかの主題が提示されたあと、フーガを核とする中間部に入る。その後冒頭の主題が復帰し、高揚して全曲を締めくくる。楽章の後半には、ラフマニノフがこだわりを持っていた、ドシドラシツララという〈怒りの日〉の旋律も現れる。

作曲年代	1935～1936年
初演	1936年11月6日、レオポルド・ストコフスキー指揮、フィラデルフィア管弦楽団
楽器編成	フルート2、ピッコロ1、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン1、クラリネット2、バス・クラリネット1、ファゴット2、コントラファゴット1、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ1、ティンパニ、大太鼓、シンバル、小太鼓、トライアングル、タンブリン、銅鑼、シロフォン、ハーブ、弦楽

ロシア革命が起きたことで、ラフマニノフは祖国ロシアを離れ、アメリカに渡ります。新天地で彼は、生活のためにピアニストとして活動を始めました。名演奏家として人気と名声を博した一方で、彼は親しい友人に「私はもう何年もライ麦のささやきも白樺のざわめきも聞いていないのです」と、愛するロシアを離れた悲しみを吐露しています。《交響曲第3番》はそうした状況の中で書かれたものです。結局彼は、祖国へ帰ることなく69歳で亡くなりました。《第3番》の哀愁が漂うメロディには、遥かな祖国へ寄せる彼の望郷の念が込められているかのようです。

異国の地で紡がれた郷愁の音楽

セルゲイ・ラフマニノフ

Sergei Rakhmaninov (1873–1943)

C
2026 JUNE
[第2068回]

大きな手でピアノを弾くラフマニノフ。
30年ぶりに書かれた交響曲、
《第3番》は、彼の最後の交響曲となった

©IKE

9月12、13日よりN響2026-27シーズンがいよいよ開幕。幕開けを飾るのは、フランツ・シュミットの声楽つき大作《オラトリオ「7つの封印の書」》。ファビオル・イージの指揮で、N響の舞台で初めて演奏されます。フランツ・シュミットはどんな作曲家なのか、《オラトリオ「7つの封印の書」》の魅力とは——本特集でたっぷりご紹介します。



アルブレヒト・デューラー「黙示録の四騎士」(木版画)

フランツ・シュミット《オラトリオ「7つの封印の書」》は聖書『ヨハネの黙示録』を題材としている。

この木版画は、『ヨハネの黙示録』の場面のうち、

第1から第4の封印が解かれたときに現れる騎士を描いている

(1498年制作/初版刊行)

特集
フランツ・シュミット《オラトリオ「7つの封印の書」》を読み解く！

シュミットの音楽家人生の集大成、 静謐かつ豪華な音楽をルイーゼの想いととも愉しむ

広瀬大介

音楽学者

近年のN響の演奏に親しんでいるファンの皆さまであれば、オーストリアの作曲家、フランツ・シュミット(1874~1939)の作品を耳にされたことがおありかもしれません。2021年11月に沼尻竜典が《交響曲第2番》を、そして2025年9月にファビオ・ルイーゼが《交響曲第4番》を指揮しています。ただ、これらを除けば、N響での演奏機会は3曲・計7回に留まりますし、けっして「馴染みのある」作曲家、作品とはいえないのもまた事実。

それでも、シュミットの作品はいずれも、静謐な音楽のただなかにも、たしかにみなぎるパワーを感じさせる名曲ぞろいです。ウィーン・フィルのチェロ奏者として、そして作曲家としてその才能を遺憾なく発揮したこの音楽家が、その最晩年に作り上げた傑作が、《オラトリオ「7つの封印の書」》(1938年初演)でした。ヨハン・セバスティアン・バッハの《マタイ受難曲》のように、聖書の内容、『ヨハネの黙示録』に基づいています。けれども、有名な「最後の審判」のみならず、神の秩序の成就・救いをも感じさせる独自の世界観に従って再構成されており、来るべき第2次世界大戦の惨禍をまさに「預言」したものという側面も持ち合わせています。



フランツ・シュミット (Franz Schmidt) は1874年オーストリア・ハンガリー帝国プレスベルク(現在はスロバキア・プラチスラバ)生まれの作曲家

全3部から成るこの大作においては、シンプルなモチーフの繰り返しから全曲が有機的に構成されています。シュミットが得意としたオルガンが前奏曲風に扱われており、作曲家の強い個性を感じさせます。また、マーラーやリヒャルト・シュトラウスの作品と指揮にふれてきたシュミットならではの豪華なオーケストラ・サウンドも同時に愉しむことができます。

まさに、自身がたどった人生の集大成ともいべき作品に仕上がっているのです。

2025年に《交響曲第4番》を採り上げたことから、そして第2000回記念の演奏曲ファン投票の際にこの作品が候補に入っていたことから、いま首席指揮者の任にあるルイーゼが、シュミット、そしてこの作品に対して特別な想入れを持っていることはあきらかでしょう。ルイーゼ自身、混迷の度を深める現代においても、『黙示録』的な破壊のあとには新しい時代がやってくる、という本作のメッセージ性を身近に感じ、N響との演奏に大きな期待を寄せているとのこと。N響の歴史にとっても記念碑的な演奏になることは間違いありません。

ファビオ・ルイージが語る 《オラトリオ「7つの封印の書」》

聞き手 | 広瀬大介

——フランツ・シュミット《オラトリオ「7つの封印の書」》は、2023年12月の第2000回定期公演曲目をファン投票で選んだときの候補曲のひとつでした。今、このオラトリオをN響とともに演奏したいと思われたのはどのような理由からでしょうか。

ファビオ・ルイージ(以下FL) ◎このオラトリオは20世紀で最も重要な作品といえるでしょう。フランツ・シュミットの個性が反映されている音楽ですし、何より強いドラマ性を持っています。『ヨハネの黙示録』をテーマにした、とても宗教的な作品で、旧約聖書的な世界、新約聖書的な世界の両方を含んでいます。演奏するべき価値のある第一級の作品だということは疑いようありません。N響にとっても、その傑出した技術を発揮できるきわめて魅力的な作品になるでしょうし、世界でも演奏機会の少ない作品ですから新しい挑戦にもなると思いました。

——この作品の、ここを聴いてほしいというところを教えてください。

FL ◎一番重要な要素は合唱だと考えています。『ヨハネの黙示録』の物語を力強く鮮烈に語るという大事な役割を合唱が担っています。フランツ・シュミットは合唱パートを作曲する際にもその技量を発揮して、四重フーガという複雑な

技法を完璧な形式で提示していて、ここに彼の非凡さがあらわれています。

——その合唱を伴う巨大な編成の音楽を指揮するときに、何を一番重視していますか？

FL ◎大勢の人たちが複雑にかかわりながら演奏する作品です。オーケストラ、合唱団、そしてソリストたちが合わさり、多層的な演奏となるでしょう。音量もおおのずと大きくなりがちなので、全体が混沌とした無秩序なものになってしまう、響きに透明性を持たせることが一番重要です。すべてが聴き取れるように、特に小さな音を大切にコントロールすることが肝要だと思っています。

——合唱のほかには、聴きどころはありますか？

FL ◎ええ、あります。もうひとつの重要な要素はオルガンです。第1部と第2部には、オルガン・ソロによる前奏が置かれています。オラトリオの前奏曲にあたる部分がオルガンの独奏で演奏されるということは類例がありません。フランツ・シュミット自身が優れたオルガニストで、多くのオルガン曲も書いているので、そういう特別な役割をオルガンに与えたのだと思います。

この作品でのオルガンの役割は、例えばバッハやメンデルスゾーンのオラトリオにおける

オルガンの役割とは、明らかに違います。フランツ・シュミットが2つの前奏でオルガンに表現させているのは、『黙示録』で示されるできごとに対して、畏敬の念を抱く人間の反応であり、人間性の発露だと思えます。ですから、オルガンのこの2つの部分は、作曲家自身にとっても重要であると同時に、きわめて美しく、非常に強いインパクトのある部分なのです。

——この作品は『ヨハネの黙示録』のテキストに沿って進みますが、世界が崩壊する終末を、破局の形ではなくて、神の秩序が成就したという形で描いています。不思議な解釈に思えるのですが、シュミットは音楽的にどのように表現しようと考えていたのでしょうか。

FL◎『ヨハネの黙示録』は、災い、悪、滅亡などの要素がとても強烈です。私たちの世界の終わりの瞬間を強い表現で描いています。しかし、それをフランツ・シュミットは、すべての完全なる終焉^{しゆうえん}ではなく、神の秩序の成就として、次の存在の形に行くんだと言っているのです。この世の終わりのあとにはより良い世界が待っているんだよと

いうことを示しています。シュミットは、この『黙示録』のあとには、新しい時代がやってくるということ音楽で書いていると思います。

——このオラトリオが書かれたのは、ドイツがナチス政権下にあった、第2次世界大戦が始まるうとする前夜です。今、まさに世界情勢が混沌とするこの21世紀に、この作品はどのように響くのか、聴衆にどのように受け取られるでしょうか。

FL◎1938年当時の人々と同じような悩みを私たちも今、感じています。私たちは、シュミットとは別の時代を生きていますが、時代を超えても意味を持って響く作品が傑作であり、偉大なる音楽だと思えます。卓越した作品には、聴く者にとっての新しい力が宿るのです。例えば、約300年前に書かれたバッハの《マタイ受難曲》が持っている精神的な力などは、まさにそれだと思います。フランツ・シュミットのこの作品もまた、100年前に書かれた時と同じ衝撃を持って現代に響くと確信しています。

公演情報

N響100年特別企画 | 2026年9月定期公演Aプログラム

フランツ・シュミット《オラトリオ「7つの封印の書」》

9月12日(土) 6:00pm、13日(日) 2:00pm NHKホール

指揮：ファビオ・ルイーゼ

ヨハネ(テノール):ミヒャエル・ラウレンツ 神の声(バス):ダーヴィト・シュテフェンス
ソプラノ: 迫田美帆 メゾ・ソプラノ: 藤井麻美 テノール: 伊藤達人 バス: 加藤宏隆
オルガン: 新山恵理 合唱: 新国立劇場合唱団

2026年9月定期公演のプログラムについて

公演企画担当者から

終末の書を、音楽で読む

創立100年のシーズン開幕にお送りするのは[Aプログラム]の《7つの封印の書》。知られざる作曲家だったフランツ・シュミットの再評価に、首席指揮者のファビオ・ルイージは大きく貢献してきた。本公演は間違いなく、在任中のハイライトのひとつとなるだろう。

シュミットはバッハから新ウィーン楽派まで、幅広い時代の様式を取り入れて「ヨハネの黙示録」に記された出来事を表現した。彼は「普通の人間がわかる」作品を目指したというが、実際に曲を聴けば、それがどのようなシーンなのか、聴き手はすぐ理解できる作りになっている。殺戮や飢餓、疫病、自然災害といった、この世のあらゆる災厄が描かれるが、昨今の情勢を顧みれば、これらが絵空事とはとても思えない。曲の終盤では、第7のラッパによって、神の勝利が告げられる。四重フーガからハレルヤ・コーラスにいたる、この部分の音楽の流れは、圧倒的かつ感動的だ。

“ヨハネ”を歌うミハエル・ラウレンツは、元トランペット奏者というだけあって、滑らかなレガートを持ち味とする。“神の声”のダーヴィト・シュテフェンスもフレーズの作り方が自然で、ルイージは2人に厚い信頼を寄せている。

名手が照らす ロマン派の本質

ドイツ・ロマン派の名曲を集めた[Bプログラム]は、今年没後200年を迎えたウェーバーの序曲でスタートする。死の直前に初演された《オベロン》では、冒頭のホルンの響きだけで物語の世界に引き込まれるが、演奏会のオープニングとしても、その効果は絶大だ。短いながらも劇的要素の詰まった佳品で、オペラ指揮者・ルイージの個性が垣間見えよう。

ブラームス《ヴァイオリン協奏曲》を弾くアウグスティン・ハーデリヒは2024年2月以来の登場。前回の共演後、ヴァイオリン奏者たちから、口々に「また呼んで欲しい」と声を掛けられた。いちばん厳しいはずの同業者が手放しで絶賛するのは珍しい。それもそのはず、音色の美しさや滑らかなフレージング、全体構成の巧みさなど、どこを取っても間然するところがなく、現代最高峰のヴァイオリニストのひとりであることは疑いなかろう。

シューマン《交響曲第4番》は、作曲の10年後に大幅な改訂が施された。今日、一般的なのは改訂版で、ルイージもこの版を用いるが、以前の録音を聴くと、改訂によって補強された管楽器の厚みや、拡大したフィナーレ序奏部のドラマ性が強調されていて、こちらの版を使う理由が明確に出ているように感じられ

る。あまり演奏されないが、N響にとっては戦前の新響時代から比較的なじみの深い曲である。

ルイーゼが際立たせる 革新の原点

[Cプログラム]では4か月にわたり、ベートーヴェンの交響曲を集中的に演奏する。没後200年の2027年に先駆けての取り組みである。ゆかりの深い名指揮者たちと奏でるベートーヴェンは、100年の節目にふさわしい特別なものになるだろう。

ルイーゼが選んだのは、最も思い入れがあるという《交響曲第3番「英雄」》。第1楽章はショッキングな和音の連打で始まり、異常な長さの展開部とコーダを持つ。続く楽章に葬送

行進曲や変奏曲を導入したのも、前例のない試みだ。エネルギッシュなルイーゼの指揮で、ベートーヴェンが追い求めた自由・平等の精神に思いを巡らせてたい。

《第3番》の型破りの新しさは、少し前に書かれた《交響曲第1番》の古典的な装いと比べれば、よりはっきりするだろう。だが一見、ハイドンやモーツァルトを踏襲している《第1番》にも、ユニークなアイデアがちりばめられている。意表をついた和音で始まる導入部、メヌエットと言いつつ実質的にはスケルツォの、疾走感あふれる第3楽章等々。クラシカルな均整の中に秘められた遊び心を表現するのも、ルイーゼが得意とするところだ。

[西川彰一／NHK交響楽団 芸術主幹]

A 9/12 土
6:00pm
9/13 日
2:00pm
NHKホール

N響100年特別企画

フランツ・シュミット／オラトリオ「7つの封印の書」(日本語字幕付き)

指揮：ファビオ・ルイーゼ
ヨハネ(テノール)：ミハエル・ラウレンツ
神の声(バス)：ダーヴィト・シュテフェンス
ソプラノ：迫田美帆
メゾソプラノ：藤井麻美
テノール：伊藤達人
バス：加藤宏隆
オルガン：新山恵理
合唱：新国立劇場合唱団



B 9/17 木
7:00pm
9/18 金
7:00pm
サントリーホール

ウェーバー／歌劇「オベロン」序曲
ブラームス／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品77
シューマン／交響曲 第4番 二短調 作品120(改訂版)

指揮：ファビオ・ルイーゼ
ヴァイオリン：アウグスティン・ハーデリヒ



C 9/25 金
7:00pm
9/26 土
2:00pm
NHKホール

N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏1

ベートーヴェン／交響曲 第1番 八長調 作品21
ベートーヴェン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」
指揮：ファビオ・ルイーゼ



2026-27シーズン定期公演プログラム

PROGRAM

A

豪華指揮者陣が生み出す 壮大な祝祭空間
圧倒の体験をNHKホールで

NHKホール

土 6:00pm 日 2:00pm

Autumn

2026

09

September

第2069回

9/12 土 6:00pm

9/13 日 2:00pm

「危機の時代」にルイーダが問う 大戦前夜の不穏さを孕んだ大作

N響100年特別企画

フランツ・シュミット／オラトリオ「7つの封印の書」
(日本語字幕付き)

指揮: ファビオ・ルイーダ ヨハネ(テノール): ミハエル・ラウレンツ
神の声(バス): ダーヴィット・シュテフェンス ソプラノ: 迫田美帆
メゾ・ソプラノ: 藤井麻美 テノール: 伊藤達人 バス: 加藤宏隆
オルガン: 新山恵理 合唱: 新国立劇場合唱団



一般	ユースチケット
S ¥15,000	S ¥7,000
A ¥12,500	A ¥6,000
B ¥10,000	B ¥5,000
C ¥8,000	C ¥4,000
D ¥6,500	D ¥3,000
E ¥4,500	E ¥2,000

2026

10

October

第2072回

10/17 土 6:00pm

10/18 日 2:00pm

ブロムシュテットに導かれて到る
崇高なるものとの一体感、そして法悦へ

ブルックナー／交響曲 第5番 変ロ長調

指揮: ヘルベルト・ブロムシュテット
カバールコンダクター: マティアス・パーメルト



一般	ユースチケット
S ¥15,000	S ¥7,000
A ¥12,500	A ¥6,000
B ¥10,000	B ¥5,000
C ¥8,000	C ¥4,000
D ¥6,500	D ¥3,000
E ¥4,500	E ¥2,000

2026

11

November

第2074回

11/7 土 6:00pm

11/8 日 2:00pm

戦時にショスタコーヴィチがスコアに込めた
「叫び」をソヒエフが振り出す

プロコフィエフ／ヴァイオリン協奏曲 第1番 二長調 作品19
ショスタコーヴィチ／交響曲 第8番 ハ短調 作品65

指揮: トウガン・ソヒエフ
ヴァイオリン: 神尾真由子



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥3,600
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥1,900
E ¥3,300	E ¥1,600

Winter

2026

12

December

第2077回

11/28 土 6:00pm

11/29 日 2:00pm

デュトワ&アルゲリッチ 四半世紀の時を経てN響で再共演!

N響100年特別企画

ファリャ／バレエ組曲「三角帽子」第2番
ラヴェル／ピアノ協奏曲 ト長調
ベルリオーズ／幻想交響曲 作品14

指揮: シャルル・デュトワ
ピアノ: マルタ・アルゲリッチ



一般	ユースチケット
S ¥17,000	S ¥8,500
A ¥14,500	A ¥7,000
B ¥11,500	B ¥5,500
C ¥9,500	C ¥4,500
D ¥7,500	D ¥3,500
E ¥5,500	E ¥2,500

※12月定期公演Aプログラムは
11月に開催いたします。

2027

01

January

第2080回

1/16 土 6:00pm

1/17 日 2:00pm

ルイージ&\N響が満を持して挑む マラー最高峰の交響曲

マラー／交響曲 第9番 二長調

指揮:ファビオ・ルイージ



一般	ユースチケット
S ¥13,000	S ¥6,500
A ¥11,000	A ¥5,200
B ¥8,500	B ¥4,000
C ¥7,000	C ¥3,500
D ¥5,600	D ¥2,000
E ¥3,500	E ¥1,700

2027

02

February

第2082回

2/6 土 6:00pm

2/7 日 2:00pm

鬼才マナコルダとドイツ語圏音楽 300年の成り行きを俯瞰する

バッハ(ウェーベルン編)／

「音楽のささげもの」BWV1079—6声のリチェルカール

マラー／リュッケルトによる5つの歌

シェーンベルク／室内交響曲 第2番 作品38

シューベルト／交響曲 第7番 口短調 D. 759「未完成」

指揮:アントネッロ・マナコルダ

バリトン:アンドレ・シュエン



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

Spring

2027

04

April

第2084回

4/10 土 6:00pm

4/11 日 2:00pm

いざ、ルイージと行かん!

アルプスという名の「人生」を歩む旅へ

メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64

R. シュトラウス／アルプス交響曲 作品64

指揮:ファビオ・ルイージ

ヴァイオリン:ジェームズ・エーネス



一般	ユースチケット
S ¥13,000	S ¥6,500
A ¥11,000	A ¥5,200
B ¥8,500	B ¥4,000
C ¥7,000	C ¥3,500
D ¥5,600	D ¥2,000
E ¥3,500	E ¥1,700

2027

05

May

第2086回

5/8 土 6:00pm

5/9 日 2:00pm

バーヴォのイチ押し! 北欧・珠玉の名品たち

グリーグ／ピアノ協奏曲 イ短調 作品16

ステンハンマル／交響曲 第2番ト短調 作品34

指揮:バーヴォ・ヤルヴィ

ピアノ:デニス・コジュヒン



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥3,600
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥1,900
E ¥3,300	E ¥1,600

2027

06

June

第2088回

6/5 土 6:00pm

6/6 日 2:00pm

ソビエフ&\N響の初ブルックナーは

ワグナーに捧げられた意欲作

モーツァルト／交響曲 第35番 二長調 K. 385「ハフナー」

ブルックナー／交響曲 第3番 二短調「ワグナー」

(第3稿/1889)

指揮:トゥガン・ソヒエフ



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥3,600
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥1,900
E ¥3,300	E ¥1,600

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回)	一般	S ¥76,500	A ¥65,025	B ¥49,725	C ¥41,310	D ¥32,895
	ユースチケット	S ¥38,250	A ¥30,600	B ¥23,715	C ¥19,503	D ¥11,475
シーズン会員券(3回)	一般	S ¥26,850	A ¥22,824	B ¥17,454	C ¥14,499	D ¥11,547
	ユースチケット	S ¥13,425	A ¥10,740	B ¥8,325	C ¥6,849	D ¥4,029

2026-27シーズン定期公演プログラム

PROGRAM

B

豊潤なホールサウンドで味わう名匠たちの音作り
最高峰のソリストたちも集結

サントリーホール

木 7:00pm 金 7:00pm

Autumn

2026

09

September

第2070回

9/17 木 7:00pm

9/18 金 7:00pm

ルイーゼの道案内で分け入る ドイツ・ロマンの森

ウェーバー／歌劇「オベロン」序曲

ブラームス／ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品77

シューマン／交響曲 第4番 二短調 作品120(改訂版)

指揮:ファビオ・ルイーゼ

ヴァイオリン:アウグスティン・ハーデリヒ



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

2026

10

October

2026年10月Bプログラムは特別公演開催のため休止いたします。

2026

11

November

第2076回

11/19 木 7:00pm

11/20 金 7:00pm

北の大地のロマンティシズムと ファンタジーの極致

ラフマニノフ／ピアノ協奏曲 第2番 八短調 作品18

チャイコフスキー／

バレエ音楽「くるみ割り人形」作品71

(ソヒエフ・セレクション)

指揮:トウガン・ソヒエフ

ピアノ:アレクサンドル・カントロフ



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

Winter

2026

12

December

第2079回

12/10 木 7:00pm

12/11 金 7:00pm

オ人・エメリヤニチェフが命を吹き込む

100年記念作と《スコットランド》

モーツァルト／歌劇「魔笛」序曲

スルンカ／チェロ協奏曲

[NHK交響楽団100年記念委嘱作品／世界初演]

メンデルスゾーン／

交響曲 第3番 イ短調 作品56「スコットランド」

指揮:マキシム・エメリヤニチェフ チェロ:ニコラ・アルトシュテット



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥4,000
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥2,750

(以上、すべて税込)

2027

01

January

2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムはサントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。

2027

02

February

2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムはサントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。

Spring

2027

04

April

2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムはサントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。

2027

05

May

2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムはサントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。

2027

06

June

2027年1月、2月、4月、5月、6月のBプログラムはサントリーホールの改修工事に伴い休止いたします。

年間会員券(3回)	一般	S ¥30,600	A ¥25,500	B ¥20,400	C ¥16,575	D ¥14,025
	ユースチケット	S ¥15,300	A ¥12,750	B ¥10,200	C ¥8,286	D ¥7,011

※ Bプログラムではシーズン会員券の販売は行いません。

※ 2026-27シーズンのBプログラムは9月、11月、12月の全3回です。

同シーズン同プログラムの定期会員のみなさまは、2027-28シーズン(2027年9月~2028年6月、全9回予定)にご継続いただけます。

2026-27シーズン定期公演プログラム

PROGRAM

C

「楽聖200年祭」を祝う交響曲&ピアノ協奏曲シリーズ
古典の“いま”を聴く

NHKホール

金 7:00pm 土 2:00pm

Autumn

2026

09 September

第2071回

9/25 金 7:00pm

9/26 土 2:00pm

爆発する才気と 大胆不敵さ

N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏1

ベートーヴェン／交響曲 第1番 八長調 作品21

ベートーヴェン／交響曲 第3番 変ホ長調 作品55「英雄」

指揮:ファビオ・ルイーゼ



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥3,600
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥1,900
E ¥3,300	E ¥1,600

2026

10 October

第2073回

10/23 金 7:00pm

10/24 土 2:00pm

全曲を統べる 律動と生命力

N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏2

ベートーヴェン／[エグモント]序曲

ベートーヴェン／交響曲 第8番 へ長調 作品93

ベートーヴェン／交響曲 第5番 ハ短調 作品67「運命」

指揮:クリストフ・エッセンバッハ



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2026

11 November

第2075回

11/13 金 7:00pm

11/14 土 2:00pm

均整美、旋律美、そして自然への愛

N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏3

ベートーヴェン／序曲「コリオラン」

ベートーヴェン／交響曲 第2番 二長調 作品36

ベートーヴェン／交響曲 第6番 へ長調 作品68「田園」

指揮:トウガン・ソヒエフ



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥3,600
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥1,900
E ¥3,300	E ¥1,600

Winter

2026

12 December

第2078回

12/4 金 7:00pm

12/5 土 2:00pm

極限まで追求された リズムのポテンシャル

N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏4

ベートーヴェン／交響曲 第4番 変口長調 作品60

ベートーヴェン／交響曲 第7番 イ長調 作品92

指揮:シャルル・デュトフ

※ベートーヴェン《交響曲第9番「合唱つき」》は、
2026年末の「ベートーヴェン」第9「演奏会」で演奏予定です
(指揮:マレク・ヤノフスキ)。



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥3,600
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥1,900
E ¥3,300	E ¥1,600

2027

01

January

第2081回

1/22 金 7:00pm

1/23 土 2:00pm

「デンマークのペーターヴェン」ニルゼン最後のシンフォニー

ペーターヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏1

ゾレンセン／夕暮れの大地〔日本初演〕

ペーターヴェン／ピアノ協奏曲 第1番 八長調 作品15

ニルゼン／交響曲 第6番「シンフォニア・センブリーチエ」

指揮:ファビオ・ルイージ

ピアノ:アレッサンドロ・タヴェルナ



一般	ユースチケット
S ¥12,000	S ¥6,000
A ¥10,000	A ¥5,000
B ¥8,000	B ¥3,600
C ¥6,500	C ¥3,250
D ¥5,500	D ¥1,900
E ¥3,300	E ¥1,600

2027

02

February

第2083回

2/12 金 7:00pm

2/13 土 2:00pm

子が光を当てる父とその盟友の名作
そして超新星ピアニスト降臨!

ペーターヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏2

シューマン／歌劇「ゲノヴェーヴァ」序曲

ペーターヴェン／ピアノ協奏曲 第2番 変口長調 作品19

尾高尚忠／交響詩「蘆屋乙女」作品9

バスマフク／交響曲 第2番「悲歌」

指揮:尾高尚忠 ピアノ:イム・ユンチャン



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

Spring

2027

04

April

第2085回

4/23 金 7:00pm

4/24 土 2:00pm

若きカリスマ エリム・チャンが放つ圧倒的な躍動感

ペーターヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏3

ドヴォルザーク／交響詩「真昼の魔女」作品108

ペーターヴェン／ピアノ協奏曲 第3番 八短調 作品37

チン・ウンスク／スピト・コン・フォルツァ

ショスタコーヴィチ／交響曲 第9番 変小長調 作品70

指揮:エリム・チャン ピアノ:アリス・紗良・オット



一般	ユースチケット
S ¥10,000	S ¥5,000
A ¥8,500	A ¥4,000
B ¥6,500	B ¥3,100
C ¥5,400	C ¥2,550
D ¥4,300	D ¥1,500
E ¥2,200	E ¥1,000

2027

05

May

第2087回

5/21 金 7:00pm

5/22 土 2:00pm

こだわりのプログラムを携え 名匠ケント・ナガノ \響を初指揮

ペーターヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏4

リュリ／バレエ音楽「町人貴族」(抜粋)

ペーターヴェン／ピアノ協奏曲 第4番 変ト長調 作品58

R. シュトラウス／組曲「町人貴族」作品60

指揮:ケント・ナガノ

ピアノ:ティル・フェルナー



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

2027

06

June

第2089回

6/18 金 7:00pm

6/19 土 2:00pm

若き大物が \響と正面から取り組む 本格的独壇プログラム

ペーターヴェン没後200年 ピアノ協奏曲全曲演奏5

ペーターヴェン／

ピアノ協奏曲 第5番 変小長調 作品73「皇帝」

R. シュトラウス／交響詩「英雄の生涯」作品40

指揮:トーマス・グッガイス

ピアノ:キリル・ゲルシュタイン



一般	ユースチケット
S ¥11,000	S ¥5,500
A ¥9,500	A ¥4,500
B ¥7,600	B ¥3,500
C ¥6,000	C ¥2,800
D ¥5,000	D ¥1,800
E ¥3,000	E ¥1,400

(以上、すべて税込)

年間会員券(9回)	一般	S ¥76,500	A ¥65,025	B ¥49,725	C ¥41,310	D ¥32,895
	ユースチケット	S ¥38,250	A ¥30,600	B ¥23,715	C ¥19,503	D ¥11,475
シーズン会員券(3回)	一般	S ¥26,850	A ¥22,824	B ¥17,454	C ¥14,499	D ¥11,547
	ユースチケット	S ¥13,425	A ¥10,740	B ¥8,325	C ¥6,849	D ¥4,029

チケットのご案内(定期公演 2026年9月～2027年6月)

定期会員券

毎回同じ座席をご用意。1回券と比べて1公演あたり10～52%お得です！(一般料金の場合。ユースチケットでは最大63%お得です。割引率は公演や席種によって異なります)

発売開始日 (10:00amからの受付)	年間会員券、シーズン会員券(Autumn)	2026年7月5日[日](定期会員先行)／2026年7月12日[日](一般)
	シーズン会員券(Winter)	2026年10月13日[火](定期会員先行)／2026年10月16日[金](一般)
	シーズン会員券(Spring)	2027年2月10日[水](定期会員先行)／2027年2月14日[日](一般)

料金(税込)

年間会員券		S	A	B	C	D
Aプログラム Cプログラム (各9回)	一般	¥76,500(¥8,500)	¥65,025(¥7,225)	¥49,725(¥5,525)	¥41,310(¥4,590)	¥32,895(¥3,655)
	ユースチケット	¥38,250(¥4,250)	¥30,600(¥3,400)	¥23,715(¥2,635)	¥19,503(¥2,167)	¥11,475(¥1,275)
Bプログラム (3回)	一般	¥30,600(¥10,200)	¥25,500(¥8,500)	¥20,400(¥6,800)	¥16,575(¥5,525)	¥14,025(¥4,675)
	ユースチケット	¥15,300(¥5,100)	¥12,750(¥4,250)	¥10,200(¥3,400)	¥8,286(¥2,762)	¥7,011(¥2,337)
シーズン会員券		S	A	B	C	D
Aプログラム Cプログラム (各3回)	一般	¥26,850(¥8,950)	¥22,824(¥7,608)	¥17,454(¥5,818)	¥14,499(¥4,833)	¥11,547(¥3,849)
	ユースチケット	¥13,425(¥4,475)	¥10,740(¥3,580)	¥8,325(¥2,775)	¥6,849(¥2,283)	¥4,029(¥1,343)

()内は1公演あたりの単価

1回券

公演ごとにチケットをお買い求めいただけます。料金は公演によって異なります。各公演の情報をご覧ください。

発売開始日 (10:00amからの受付)	9・10・11月	2026年7月22日[水](定期会員先行)／2026年7月26日[日](一般)
	12・1・2月	2026年10月21日[水](定期会員先行)／2026年10月25日[日](一般)
	4・5・6月	2027年2月19日[金](定期会員先行)／2027年2月23日[火・祝](一般)

ユースチケット

29歳以下の方へのお得なチケットです。全席種が一般料金の半額以下、1公演1000円～で定期公演をお楽しみいただけます。1回券と定期会員券ともにご利用いただけます。料金は各公演の情報をご覧ください。

※ユースチケットはWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。

※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳しくはN響ホームページをご覧ください。

WEBチケットN響
https://nhkso.pia.jp



お申し込み

N響ガイド | TEL 0570-02-9502
営業時間：10:00am～5:00pm
定休日：土・日・祝日

- 東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業
- 発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業
- 電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

Please follow us on



N響ニュースレター

最新情報をメールでお届けします。
WEBチケットN響の「利用登録」からご登録ください。

特別公演

6/26(金) 7:00pm | N響シネマ・ミュージック feat. ジョン・ウィリアムズ

J:COMホール八王子(八王子市民会館)

指揮:原田慶太楼

—オール ジョン・ウィリアムズ プログラム—

オリンピック・スピリット 映画『スーパーマン』—マーチ 映画『E.T.』—フライング・テーマ

映画『ジュラシック・パーク』—テーマ 映画『シンドラーのリスト』—テーマ

映画『レイダース/失われたアーク《聖櫃》』—レイダース・マーチ オリピック・ファンファーレとテーマ

映画『ハリー・ポッター』—ヘドウィグのテーマ 映画『スター・ウォーズ』—メイン・タイトル、レイア姫のテーマ、
ルークとレイア、帝国のマーチ、ヨーダのテーマ、酒場のバンド、王座の間とエンド・タイトル

料金(税込):一般 | S席10,000円 A席8,600円 B席6,800円

ユースチケット(29歳以下) | S席5,000円 A席4,300円 B席3,400円

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 3月9日(月)10:00am

一般 | 3月13日(金)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

7/3(金) 7:00pm | Music Tomorrow 2026

東京オペラシティ コンサートホール

指揮:杉山洋一 ソプラノ:藤田果玲 トロンボーン:新田幹男(N響首席トロンボーン奏者)

我妻 英/管弦楽のための《祀》(2024) [第73回「尾高賞」受賞作品]

杉山洋一/夢へのきざし—オーケストラのための(2026) [N響100年記念委嘱作品・世界初演]

スペシャルトーク(ピローネ・自作を語る)

ピローネ/ボッカ・コスモイ—声、トロンボーンとオーケストラのための(2007) [日本初演]

※6:30pmより尾高賞授賞式・プレトークがございます(司会:白石美雪)

料金(税込):一般 | S席4,000円 A席3,000円 B席2,000円

ユースチケット(29歳以下) | S席2,000円 A席1,500円 B席1,000円

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 3月9日(月)10:00am

一般 | 3月13日(金)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団 共催:(公財)東京オペラシティ文化財団

助成:芸術文化振興基金/(公財)三菱UFJ信託芸術文化財団/(公財)ロームミュージックファンデーション



芸術文化振興基金助成事業



ロームミュージックファンデーション

7/6日 7:00pm | N響ウェルカム・コンサート

NHKホール

指揮:原田慶太楼 ヴァイオリン:中原梨衣紗 ハープ:早川りさこ(N響ハープ奏者) ナビゲーター:大林奈津子
ウェーバー/歌劇「オベロン」序曲から(9月定期公演)

ベートーヴェン/交響曲 第5番 ハ短調 作品67「運命」—第1楽章(10月定期公演)

ブラームス/交響曲 第4番 ホ短調 作品98—第3楽章(10月特別公演)

ニルセン/交響曲 第6番「シンフォニア・センブリーチェ」—第2楽章(1月定期公演)

メンデルスゾーン/ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64—第1楽章から(4月定期公演)

フランツ・シュミット/歌劇「ノートルダム」—「間奏曲」(4月東京芸術劇場シリーズ)

ランサン/ハープと管弦楽のための田園協奏曲—第2楽章(5月東京芸術劇場シリーズ)

ショスタコヴィチ/交響曲 第9番 変ホ長調 作品70—第1楽章(4月定期公演)

ファリャ/バレエ組曲「三角帽子」第2番—「終幕の踊り」(12月定期公演)

料金(税込):一般 2,000円/定期会員 1,700円/ユースチケット(29歳以下) 1,000円
ウェルカム・ベアチケット(2枚1組) 3,200円

チケット発売日:N響定期会員先行 | 4月20日(月)10:00am
一般 | 4月24日(金)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

7/17日 7:00pm | N響「夏」2026

NHKホール

指揮:ワシリー・ベトレンコ ピアノ:ツォトネ・ゼジニゼ

ラフマニノフ/ピアノ協奏曲 第3番 二短調 作品30

リムスキー・コルサコフ/交響組曲「シェエラザード」作品35

料金(税込):一般 | S席7,300円 A席5,300円 B席3,300円 C席2,100円

ユースチケット(29歳以下) | S席3,600円 A席2,600円 B席1,600円 C席1,000円

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 5月12日(火)10:00am
一般 | 5月15日(金)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

協賛:岩谷産業株式会社

8/2回3:30pm | 夏だ! 祭りだ!! N響ほっとコンサート

NHKホール

指揮:下野竜也 ホルン:アレッシオ・アレグリーニ ナビゲーター:加藤清史郎

[翔けよう! まほうの森と夢の世界]

ドリーブ/バレエ組曲「シルヴィア」—前奏曲と「狩りの女神」

モーツァルト/ホルン協奏曲 第2番 変ホ長調 K. 417

ハイドン/交響曲 第73番 二長調「狩り」—第4楽章

ヨハン・シュトラウスII世/ポルカ「狩り」作品373

メンデルスゾーン/「夏の夜の夢」の音楽から〜加藤清史郎といっしょに、シェークスピアのお話の森へ

料金(税込):一般 | S席5,500円 A席4,500円 B席3,000円 C席1,500円

ユースチケット(29歳以下) | S席4,000円 A席3,000円 B席2,000円 C席1,000円

小・中学生 | S席2,000円 A席1,500円 B席1,000円 C席500円

※定期会員はS・A・B各席の一般料金から10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 5月12日(火)10:00am

一般 | 5月15日(金)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

協賛:湖山医療福祉グループ

協力:株式会社グローバル/グローバル管楽器技術学院/株式会社ポケモン

8/21金 7:00pm | 東京芸術劇場

8/22土 3:30pm | 京都コンサートホール

8/23日 2:00pm | ザ・シンフォニーホール

8/24月 7:00pm | 福岡シンフォニーホール(アクロス福岡)

N響×ポケモン
クラシックコンサートツアー
(東京・京都・大阪・福岡)

指揮:横山 奏 MC:竹平晃子

[第1部]

『ポケットモンスター 赤・緑』より〜オープニング〜

グリーグ/「ペール・ギュント」組曲 第1番より「朝」

スメタナ/交響詩「モルダウ」

ストラヴィンスキー/バレエ組曲「火の鳥」より「こもり歌」〜「終曲」

[第2部]

ゲーム『ポケットモンスター』シリーズより

『ポケットモンスター ウインド・ウェーブ』よりメインテーマ

※ポケモンや映像・音響・照明による演出はございません。

料金(税込):一般 | S席13,000円 A席11,000円 B席9,000円 C席7,000円

小・中学生 | S席5,500円 A席4,500円 B席3,500円 C席2,500円

※N響定期会員の割引はございません

チケット発売日:N響年間会員・シーズン会員先行 | 5月14日(木)10:00am〜5月18日(月)11:59pm

先行抽選受付(WEBチケットN響限定) | 5月19日(火)10:00am〜5月26日(火)11:59pm

一般 | 6月7日(日)10:00am

※「N響年間会員・シーズン会員先行」発売期間中は予定枚数となり次第、受付を終了いたします。

主催:NHK交響楽団

企画協力:株式会社ポケモン

©2026 Pokémon. ©1995-2026 Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK inc.

ポケットモンスター・ポケモン・Pokémonは任天堂・クリエーターズ・ゲームフリークの商標です。

9/3(日) 7:00pm | 明電舎 presents N響名曲コンサート2026

サントリーホール

指揮:尾高忠明 ヴァイオリン:郷古 廉
シベリウス/アンダンテ・フェスティーヴォ
プロコフィエフ/ヴァイオリン協奏曲 第2番 ト短調 作品63
チャイコフスキー/交響曲 第5番 ホ短調 作品64

料金(税込):一般 | SS席9,000円 S席7,000円 A席5,500円 B席4,000円 C席3,000円
ユースチケット(29歳以下) | SS席4,500円 S席3,500円 A席2,750円 B席2,000円 C席1,500円
※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 5月12日(火) 10:00am
一般 | 5月15日(金) 10:00am

主催:NHK交響楽団 特別協賛:株式会社明電舎

10/3(日) 6:00pm

創立100年記念 マーラー《交響曲第2番「復活」》

10/4(月) 2:00pm

NHKホール

指揮:ファビオ・ルイーゼ ソプラノ:イン・ファン メゾ・ソプラノ:タマラ・マムフォード 合唱:新国立劇場合唱団
マーラー/交響曲 第2番 ハ短調「復活」

料金(税込):一般 | S席17,000円 A席13,500円 B席10,000円 C席7,500円 D席5,000円
ユースチケット(29歳以下) | S席8,500円 A席6,750円 B席5,000円 C席3,750円 D席2,500円
※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 7月22日(水) 10:00am
一般 | 7月26日(日) 10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

10/30(金) 7:00pm

巨匠たちによるブラームス交響曲全曲演奏

10/31(土) 4:00pm

東京芸術劇場

10/30(金) | 指揮:ヘルベルト・ブロムシュテット
ブラームス/交響曲 第2番 二長調 作品73、交響曲 第4番 ホ短調 作品98

10/31(土) | 指揮:クリストフ・エッセンバッハ
ブラームス/交響曲 第3番 へ長調 作品90、交響曲 第1番 ハ短調 作品68

料金(税込):セット券 | 一般 | S席30,000円 A席24,600円 B席21,200円 C席14,000円
セット券 | ユースチケット(29歳以下) | S席15,000円 A席12,300円 B席10,600円 C席7,000円
1回券 | 一般 | S席17,000円 A席14,000円 B席12,000円 C席8,000円
1回券 | ユースチケット(29歳以下) | S席8,500円 A席7,000円 B席6,000円 C席4,000円
※定期会員は一般料金の10%割引(ただしセット券はのぞく)

チケット発売日:[セット券]7月12日(日) 10:00am [1回券]N響定期会員先行 | 7月22日(水) 10:00am
一般 | 7月26日(日) 10:00am

※セット券での販売を行います。セット券はN響定期会員の先行販売はございません。

主催:NHK/NHK交響楽団

12/17(木) 7:00pm

12/18(金) 7:00pm

12/19(土) 2:00pm

12/20(日) 2:00pm

12/22(火) 7:00pm

ベートーヴェン「第9」演奏会

NHK ホール

N響100年特別企画 ベートーヴェン交響曲全曲演奏5

指揮:マレク・ヤノフスキ

ソプラノ:森谷真理 メゾ・ソプラノ:杉山由紀 テノール:村上公太 バス・バリトン:トマシュ・コニエチュニー

合唱:東京オペラシンガーズ

ベートーヴェン／交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般 | S席17,000円 A席13,500円 B席10,000円 C席7,500円 D席5,000円

ユースチケット(29歳以下) | S席8,500円 A席6,750円 B席5,000円 C席3,750円 D席2,500円

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 9月1日(火) 10:00am

一般 | 9月6日(日) 10:00am

※12月22日はNHK／NHK厚生文化事業団主催のチャリティコンサートです。プログラムは他の日程と同一です。お問合せ:NHK厚生文化事業団 TEL(03)3476-5955

主催:NHK・NHK交響楽団／NHK・NHK厚生文化事業団(22日公演のみ)

協賛:はごろもフーズ株式会社／株式会社明電舎

12/23(水) 7:00pm | かんぼ生命 presents N響第九 Special Concert

サントリーホール

指揮:マレク・ヤノフスキ

ソプラノ:森谷真理 メゾ・ソプラノ:杉山由紀 テノール:村上公太 バス・バリトン:トマシュ・コニエチュニー

合唱:東京オペラシンガーズ オルガン:勝山雅世*

バッハ／「高き天よりわれは来れり」によるカノン風変奏曲 BWV 769*

ベートーヴェン／交響曲 第9番 二短調 作品125「合唱つき」

料金(税込):一般 | S席20,000円 A席16,500円 B席13,000円 C席9,000円

ユースチケット(29歳以下) | S席10,000円 A席8,200円 B席6,500円 C席4,500円

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 9月1日(火) 10:00am

一般 | 9月6日(日) 10:00am

主催:NHK交響楽団 特別協賛:株式会社かんぼ生命保険

2027/1/10(日) 3:00pm

ルイーヂ指揮 N響ニューイヤーコンサート

2027/1/11(月) 3:00pm

NHKホール

指揮:ファビオ・ルイーヂ ソプラノ:カミラ・ニールンド* テノール:クラウス・フロリアン・フォクト*
ワーグナー/歌劇「リエンチ」序曲

ワーグナー/楽劇「ワルキューレ」—ジークムントの愛の歌「冬の嵐は過ぎ去り」*

ワーグナー/楽劇「ワルキューレ」—「きみこそは春」*

ワーグナー/歌劇「ローエングリン」—聖杯の物語「はるかな国に」*

ワーグナー/歌劇「タンホイザー」—「おごそかなこの広間よ」*

ワーグナー/楽劇「トリスタンとイゾルデ」—「愛の夜よ、とばりを降ろせ」**

J. シュトラウスII世/喜歌劇「こうもり」—序曲、チャールダーシュ「ふるさとの調べよ」*

レハール/喜歌劇「ほほえみの国」—「きみはわが心のすべて」*

レハール/喜歌劇「メリー・ウィドー」—「ヴェリアの歌」*

カールマーン/喜歌劇「伯爵夫人マリーツァ」—「ウィーンによるしく」*

J. シュトラウスII世/皇帝円舞曲 作品437

レハール/喜歌劇「ほほえみの国」—「私たちの心に誰が愛を沈めたのか」**

料金(税込):一般 | S席15,000円 A席12,000円 B席9,500円 C席7,500円 D席6,000円

ユースチケット(29歳以下) | S席7,500円 A席6,000円 B席4,750円 C席3,750円 D席3,000円

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 9月1日(火)10:00am

一般 | 9月6日(日)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

2027/2/20(土) 3:00pm

初演300年記念 コープマンの《マタイ受難曲》

2027/2/21(日) 2:00pm

NHKホール

指揮:トン・コープマン 福音史家、テノール:ティルマン・リヒディ イエス:調整中 ソプラノ:森 麻季

カウンターテナー:マールテン・エンヘルチェス バス・バリトン:クラウス・メルテンス

合唱:アムステルダム・バロック合唱団 児童合唱:東京少年少女合唱隊 ほか

※当初発表より、配役の変更および出演者の追加が生じています。

バッハ/マタイ受難曲 BWV 244

料金(税込):一般 | S席15,000円 A席12,000円 B席9,500円 C席7,500円 D席6,000円

ユースチケット(29歳以下) | S席7,500円 A席6,000円 B席4,750円 C席3,750円 D席3,000円

※定期会員は一般料金の10%割引

チケット発売日:N響定期会員先行 | 10月21日(水)10:00am

一般 | 10月25日(日)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

2027/4/15木 7:00pm

東京芸術劇場

2027/4/16金 7:00pm

指揮:ファビオ・ルイーヂ チェロ:辻本 玲*

フランツ・シュミット/歌劇「ノートルダム」―「間奏曲と謝肉祭の音楽」

ヒンデミット/バレエ組曲「気高い幻想」

R. シュトラウス/交響詩「ドン・キホーテ」作品35*

2027/5/13木 7:00pm

東京芸術劇場

2027/5/14金 7:00pm

指揮:沖澤のどか ハープ:早川りさこ

ドビュッシー/牧神の午後への前奏曲

ランサン/ハープと管弦楽のための田園協奏曲

タイユフェール/小組曲

ラヴェル/バレエ組曲「ダフニスとクロエ」第1番、第2番

2027/6/10木 7:00pm

東京芸術劇場

2027/6/11金 7:00pm

指揮:トゥガン・ソヒエフ オーボエ:中村周平 クラリネット:松本健司 ファゴット:宇賀神広宣 ホルン:今井仁志

プロコフィエフ/古典交響曲 作品25

モーツァルト/4つの管楽器と管弦楽のための協奏交響曲 変ホ長調 K. 297b

ストラヴィンスキー/バレエ音楽「春の祭典」

料金(税込):セット券 | 一般 | S席29,400円 A席24,600円 B席19,500円 C席15,900円

セット券 | ユースチケット(29歳以下) | S席14,700円 A席12,300円 B席9,600円 C席7,800円

1回券 | 一般 | S席12,000円 A席10,000円 B席8,000円 C席6,500円

1回券 | ユースチケット(29歳以下) | S席6,000円 A席5,000円 B席4,000円 C席3,200円

※定期会員は一般料金の10%割引(ただしセット券はのぞく)

チケット発売日: [セット券] Bプログラム定期会員先行 | 11月24日(火)10:00am

N響定期会員先行 | 11月28日(土)10:00am

一般 | 12月2日(水)10:00am

[1回券] N響定期会員先行 | 12月16日(水)10:00am

一般 | 12月20日(日)10:00am

主催:NHK/NHK交響楽団

お申し込み

WEBチケットN響

<https://nhkso.pia.jp>



N響ガイド | TEL 0570-02-9502

営業時間: 10:00am～5:00pm

定休日: 土・日・祝日

●東京都内での主催公演開催日は曜日に関わらず10:00am～開演時刻まで営業

●発売初日の土・日・祝日は10:00am～3:00pmの営業

●電話受付のみの営業

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。

各地の公演

6/22(月) 3:00pm | 森のホール21 CLASSICS vol. 9 NHK交響楽団 松戸特別演奏会

森のホール21 (松戸市文化会館) 大ホール

指揮:尾高忠明 ヴァイオリン:HIMARI

シベリウス/アンダンテ・フェスティーヴォ

シベリウス/ヴァイオリン協奏曲 二短調 作品47

ラフマニノフ/交響曲 第3番 イ短調 作品44

主催:(公財)松戸市文化振興財団 お問い合わせ:森のホール21チケットセンター TEL(047)384-3331

6/27(日) 3:00pm | 原田慶太楼 指揮 NHK交響楽団〜ジョン・ウィリアムズの世界〜

グランシップ 大ホール・海

指揮:原田慶太楼

一オール・ジョン・ウィリアムズ

オリンピック・スピリット 映画『スーパーマン』—マーチ 映画『E. T.』—フライング・テーマ

映画『ジュラシック・パーク』—テーマ 映画『シンドラーのリスト』—テーマ

映画『レイダース/失われたアーク《聖櫃》』—レイダース・マーチ オリンピック・ファンファーレとテーマ

映画『ハリー・ポッター』—ヘドウィグのテーマ 映画『スター・ウォーズ』—メイン・タイトル、レイア姫のテーマ、

ルークとレイア、帝国のマーチ、ヨーダのテーマ、酒場のバンド、王座の間とエンド・タイトル

主催:(公財)静岡県文化財団、静岡県 お問い合わせ:グランシップチケットセンター TEL(054)289-9000

7/10(金) 7:00pm | NHK交響楽団 創立100年記念コンサート

山形テルサ

指揮:広上淳一 ピアノ:牛田智大

ショパン/ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 作品11

ドヴォルザーク/スラヴ舞曲 第1集 作品46

主催:山形市 お問い合わせ:山形テルサ TEL(023)646-6677

7/11(土) 5:00pm | 青森朝日放送開局35周年記念 NHK交響楽団演奏会

supported by SGC (青森公演)

リンクステーションホール青森

出演者・曲目は7月10日と同じ

主催:青森朝日放送/サンライズプロモーション/青森市文化観光振興財団 お問い合わせ:サンライズプロモーション TEL(0570)00-3337

7/12 回 5:30pm | NHK交響楽団演奏会 supported by SGC(栃木公演)

宇都宮市文化会館 大ホール

出演者・曲目は7月10日と同じ

主催:(公財)うつのみや文化創造財団/下野新聞社/サンライズプロモーション お問い合わせ:サンライズプロモーション TEL(0570)00-3337

7/19 回 6:00pm | 第28回 NHK交響楽団松山定期演奏会

愛媛県県民文化会館 メインホール

指揮:ワシーリ・ペトレンコ ピアノ:ツトネ・ゼジニゼ

ラフマニノフ/ピアノ協奏曲 第3番 二短調 作品30

リムスキー・コルサコフ/交響組曲「シェエラザード」作品35

主催:NHK松山放送局/愛媛新聞社/NHK交響楽団 お問い合わせ:N響ガイド TEL(0570)02-9502

7/26 回 5:00pm | シンフォニア岩国 開館30周年記念 特別公演 NHK交響楽団 岩国公演

シンフォニア岩国

指揮:ドミートリ・マトヴィエンコ ヴァイオリン:ティモシー・チューイ

モーツァルト/歌劇「ドン・ジョヴァンニ」序曲

ブルッフ/ヴァイオリン協奏曲 第1番 短調 作品26

ベートーヴェン/交響曲 第7番 長調 作品92

主催:指定管理者サントリーパブリシティサービスグループ お問い合わせ:シンフォニア岩国 TEL(0827)29-1600

8/3 回 7:00pm | フェスタ サマーミュージア KAWASAKI 2026

ミュージア川崎シンフォニーホール

指揮:下野竜也 ホルン:アレッシオ・アレグリーニ

ハイドン/交響曲 第73番 二長調「狩り」

R. シュトラウス/ホルン協奏曲 第2番 変ホ長調 K. 417

メンデルスゾーン/「夏の夜の夢」の音楽—「序曲」「スケルツォ」「間奏曲」「夜想曲」「結婚行進曲」

主催:川崎市/ミュージア川崎シンフォニーホール(川崎市文化財団グループ) お問い合わせ:ミュージア川崎シンフォニーホール TEL(044)520-0200

8/28 回 6:30pm | NHK交響楽団演奏会 土岐公演

土岐市文化プラザ サンホール

指揮:キンボー・イシイ ヴァイオリン:クロエ・チュア

ドビュッシー(ビュセール編)/小組曲

モーツァルト/ヴァイオリン協奏曲 第5番 長調 K. 219「トルコ風」

ビゼー/「カルメン」組曲(キンボー・イシイ版)

主催:NHK岐阜放送局/NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL(050)5541-8600

8/29(土) 4:30pm | NHK交響楽団演奏会 福井公演

福井県立音楽堂 ハーモニーホールふくい 大ホール

出演者・曲目は8月28日と同じ

主催: NHK福井放送局 / NHK交響楽団 お問い合わせ: ハローダイヤル TEL (050) 5541-8600

8/30(日) 4:00pm | NHK交響楽団演奏会 刈谷公演

刈谷市総合文化センター アイリス 大ホール

出演者・曲目は8月28日と同じ

主催: NHK名古屋放送局 / NHK交響楽団 お問い合わせ: ハローダイヤル TEL (050) 5541-8600

9/5(土) 3:00pm | 仙台市市民文化事業団設立40周年記念 NHK交響楽団特別演奏会

仙台銀行ホール イズミティ21 大ホール

指揮: 尾高忠明 ヴァイオリン: 郷古 廉

シベリウス / アンダンテ・フェスティヴォ

プロコフィエフ / ヴァイオリン協奏曲 第2番 ト短調 作品63

チャイコフスキー / 交響曲 第5番 ホ短調 作品64

主催: (公財)仙台市市民文化事業団 お問い合わせ: 仙台市市民文化事業団 音楽振興課 TEL (022) 727-1872

9/6(日) 3:00pm | NHK交響楽団 郡山公演

けんしん郡山文化センター 大ホール

出演者・曲目は9月5日と同じ

主催: (公財)郡山市・文化学び振興公社(郡山市民文化センター指定管理者)

お問い合わせ: けんしん郡山文化センター(郡山市民文化センター) TEL (024) 934-2288

9/20(日) 3:00pm | 第28回NHK交響楽団 足利定期公演

あしかがフラワーパークプラザ(足利市民プラザ)・文化ホール

指揮: ファビオ・ルイーヂ ヴァイオリン: アウグスティン・ハーデリヒ

ウェーバー / 歌劇「オベロン」序曲

ブラームス / ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品77

シューマン / 交響曲 第4番 二短調 作品120(改訂版)

主催: (公財)足利市みどり文化・スポーツ財団 お問い合わせ: あしかがフラワーパークプラザ(足利市民プラザ) TEL (0284) 72-8511

9/21(月祝) 2:00pm | NHK交響楽団演奏会 高崎公演

高崎芸術劇場 大劇場

出演者・曲目は9月20日と同じ

主催: 高崎芸術劇場((公財)高崎財団) お問い合わせ: 高崎芸術劇場チケットセンター TEL (027) 321-3900

10/10^土 4:00pm

N響100周年 & サントリーホール40周年

10/12^{月祝} 4:00pm

ファビオ・ルイーゼ指揮 プッチーニ:オペラ『トスカ』(演奏会形式)

サントリーホール

指揮:ファビオ・ルイーゼ トスカ:エレナ・スティッキーナ カヴァラドッシ:リッカルド・マッシ
スカルピア男爵:アンブロジーオ・マエストリ アンジェロツェティ:妻屋秀和 教会の番人:井出壮志朗
スポレッタ:糸賀修平

合唱:東京オペラシンガーズ 児童合唱:NHK東京児童合唱団
プッチーニ/歌劇「トスカ」(演奏会形式)

チケット発売日:サントリーホール・メンバーズ・クラブ & N響定期会員先行 | 5月13日(水) 10:00am ~ 5月19日(火)
一般 | 5月20日(水) 10:00am

※チケットの詳細はホームページをご覧ください

主催:サントリーホール 共催:NHK交響楽団 お問い合わせ:サントリーホール チケットセンター TEL (0570) 55-0017

11/3^火 4:30pm | NHK交響楽団 浦安特別公演2026

浦安市文化会館 大ホール

指揮:阿部加奈子 ギター:岡本拓也
リムスキー・コルサコフ/スペイン奇想曲 作品34
ロドリゴ/アランフェス協奏曲
チャイコフスキー/イタリア奇想曲 作品45
ストラヴィンスキー/バレエ組曲「火の鳥」(1919年版)

主催:(公財)うらやす財団 お問い合わせ:浦安市文化会館 TEL (047) 353-1121

11/22^日 3:00pm | NHK音楽祭2026

NHKホール

指揮:トゥガン・ソヒエフ ピアノ:アレクサンドル・カントロフ
ラフマニノフ/ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18
チャイコフスキー/バレエ音楽「くるみ割り人形」作品71 (ソヒエフ・セレクション)

主催:NHK/NHKプロモーション 共催:NHK交響楽団 お問い合わせ:ハローダイヤル TEL (050) 5541-8600

オーチャード定期

Bunkamura オーチャードホール

6/28 回 **3:30pm**

出演者・曲目は6月27日と同じ

横浜みなとみらいホール 大ホール

11/23 月祝 **3:30pm**

出演者・曲目は11月22日と同じ

主催・お問合せ: Bunkamura TEL (03) 3477-3244

西村理

Osamu Nishimura

最終回

N響と放送

もうひとつの
活動領域

〈後編〉

リレー連載

N響百年

複合的視座

今年創立100年を迎えるN響。100年という

大きな歴史のなかから、ひとつのトピックに

視点を定めることで、時代の変遷がみえてく

る——。リレー連載の最終回では「放送」に

焦点をあてた論考の〈後編〉をお届けします。

創立以来、N響の活動は、定期公演を中心とした「演奏会」に加えて、放送局と密接な関係を築きながらスタジオで演奏する「放送」の領域でも展開してきた。前編では、放送に軸を置いて、「指揮者」と「演奏する場所」が今日のあり方に至るまでの過程を振り返った。本稿の後編では、同じく放送に軸を置きつつも、N響の「放送を目的とした」演奏に注目する。

「純粹ラヂオ芸術」の模索

放送開始当初からの課題

現在、N響の「放送を目的とした」演奏といえば、NHK「大河ドラマ」オープニングのテーマ音楽や『名曲アルバム』が思い浮かぶであろう。1965(昭和40)年放映の第3作『太閤記』以降、N響は「大河ドラマ」のテーマ音楽のほとんどを演奏してきた。また1976(昭和51)年4月から放送が開始された5分間の音楽番組『名曲アルバム』でも、曲にゆかりのある国内外の各地の映像とともに、N響を含むさまざまな演奏家による演奏が放送され続けている。その他にも、戦前の『国民歌謡』から戦後の『ラジオ歌謡』そして『みんなのうた』など放送を目的として作曲された作品や演奏が数多く存在し、N響はその演奏の一翼を担ってきた。

1925年からラジオ放送が始まり、1930年代になると番組制作者たちは、ラジオという新しいメディアの特性を活かした「純粹ラヂオ芸術」もしくは「ラヂオ芸術」の確立を目指し模索した。そのなかで、『国民歌謡』も含めて放送を目的とした作品が生み出されていった。

日本放送協会(現NHK)の前身の東京放

送局の初代放送部長の服部^{よしお}愿夫は山田耕筰率いる日本交響楽協会を支援する一方で、ドラマも重視していた。1925(大正14)年7月12日に愛宕山の放送局からラジオの本放送が開始され、8月13日に初めて「ラヂオ・ドラマ」と銘打たれて『炭鉱の中』が放送された。『日本放送協会史』(1939年)で、「ラヂオ・ドラマ」は「既存芸術の領域とは別個な独自の純粹ラヂオ芸術」の一部門として位置づけられているが、1930年代にオーケストラも用いながら「ミュージカル・ドラマ」や「詩の朗読」などが、「純粹ラヂオ芸術」の番組として制作されていく。その「純粹ラヂオ芸術」の一部門に「ラヂオ音楽」が挙げられ、「独自のラヂオ音楽創造の第一歩を踏み出した」と位置づけられたのが、1934(昭和9)年3月28日に山田耕筰の編曲と指揮で初放送された「交響長唄楽」である。

交響長唄楽の誕生

交響長唄楽は、東京中央放送局(日本放送協会の関東支部)の文芸課長の久保田万太郎の発案により長唄とオーケストラの融合を試みたもので、山田耕筰、長唄の吉住^{こさざう}小三蔵、三味線の稀^{きね}音家^{やろくじ}六治によって具現化された。この交響長唄楽は、音量を調整することによって日本の楽器と西洋の楽器のバランスをとることができるというラジオ放送の特性を活かしているために「独自のラヂオ音楽」と位置づけられたと考えられる。

3月28日には交響長唄楽として、『吾妻八景』と『越後獅子』が、編曲した山田耕筰の指揮による日本放送交響楽団(N響の前身の新交響楽団の放送出演時の名称)、小三蔵と六治ほかで新交響楽団荏原町練習場から放送された。その日の『読売新聞』によれば、『吾妻八景』は「在来の長唄を原形のまま生かしそれ

に管絃楽による額縁をつくつたもの」であったのに対して、『越後獅子』は「長唄の旋律を洋楽器に移しただ囃しをもそのまま使つたもの」であった。ただ、3月30日の『東京朝日新聞』に掲載された須永克己の批評では、『越後獅子』はオーケストラだけの編曲であった1927(昭和2)年の旧作に「今回即座に唄、三味線とはやしとを加へたもの」であったようだ。また同日の『読売新聞』に掲載された伊庭孝の批評では「当夜の放送効果の指揮は極めて悪く、演奏を一層引立てぬものにした。かういふ冒險的演奏には、プロに名は出さずとも、然る可き人の放送指揮を仰ぐ可きである」と指摘され、放送で音のバランスが良くなかったと考えられる。とはいえ、N響は「独自のラヂオ音楽創造の第一歩」となる作品を演奏したのである。なお、『吾妻八景』は、2日後の3月30日に「日米通商条約締結80周年記念 日米交換放送」でも演奏された。

その後、1934(昭和9)年8月30日には、再び同じ出演者を軸として、山田耕筰編曲の交響長唄楽である『鶴亀』が、新交響楽団荏原町練習場から放送された。『鶴亀』は、放送当日の『読売新聞』によれば「管絃楽は長唄の額縁」とし、「長唄全体を独奏楽器に見做し管弦楽を伴奏とする協奏曲の形式」をとっている。つまり、『吾妻八景』と同様の編曲の仕方だったようだ。同紙には前回の伊庭の批評での指摘に応えるかのように、「尚今回は演奏効果に大事をとり昨日二回の放送テストをして万全を期してゐる」とも記されている。吉住小三蔵は『胡蝶』『老松』『秋色種』の交響長唄楽への編曲を山田にお願いしていると語っていたが(『読売新聞』1934年8月30日)、実現には至らなかった。

「純粋ラヂオ芸術」創出

「純粋ラヂオ芸術」、つまりラジオ放送の特性を活かした音楽創作が1930年代に試みられてきたものの、日本放送協会音楽部副部長の有坂愛彦は、1941(昭和16)年に「放送の為につくられた、特別の音響的の条件をもった音楽などといふものは、ありさうなもので、現在のところ殆んど皆無である。おそらく十年、二十年の後に、日本の作曲や、演奏の技術が、想像すべからざる進歩をとげた暁になつても、放送音楽の大部分は実演用として書かれたものが演奏されることであらうし、さういふ機械的の方面から見た放送音楽の特殊性などは、理屈で考へるほどに発展するものではあるまい」(「放送音楽の特殊性」『放送研究』1941年10月号)と述べた。つまり、有坂はラジオ放送の特性を活かした特別な音響をもった音楽は発展せず、放送の大部分は実演のために書かれた音楽であり続けるだろうと予測した。

有坂の予測通り、放送の大部分は実演用として書かれた音楽であり続けた。一方、ラジオ放送の特性を活かした音楽として、1950年代に電子音響音楽が作曲されるようになる。1955(昭和30)年11月27日にNHKは、日本初の電子音楽である黛敏郎の《素数の比系列による正弦波の音楽》ほかを文部省主催の第10回芸術祭の音楽部門への参加作品として放送した。「純粋ラヂオ芸術」の究極のかたちが「電子音楽」の登場によって可能になったのだ。そして有坂の予測とは裏腹にこの音楽も盛んに作曲されていく。

芸術祭には、1955年の黛の作品のような電子音楽のみならず、放送による音楽も参加できた。NHKは芸術祭のために日本人作曲家に「放送を目的とした」新曲を委嘱し、その演奏をN響が担った。電子音楽は、演奏会場

での演奏を想定しない作品と言える。一方で、芸術祭に参加できる「放送による音楽」には、演奏会場でも演奏できる作品が含まれていた。

芸術祭とN響

芸術祭と「放送による音楽」

N響も演奏を通して参加することになる芸術祭は、戦後の復興を背景に生まれた。終戦の年の1945(昭和20)年12月31日に文部省社会教育局に芸術課が設置され、その初代課長に作家の今日出海が起用された。今の発案で、1946(昭和21)年9月から10月に芸術祭が文部省主催で「舞楽」「能楽」「人形浄瑠璃」「演劇」「歌劇」「舞踊」「音楽」の7部門で開催された。

芸術祭は1947(昭和22)年度から1949(昭和24)年度まで予算上の制約で主催公演を開催することができず、参加公演制を採用し、優秀な公演に文部大臣賞を授与することにした。以降、参加公演や参加作品で優秀なものに対して、「芸術祭賞」「芸術奨励賞」など名称は時期によって異なるものの、贈賞が行われていく。1951(昭和26)年度から主催公演と参加公演の2本立てによる開催が確立され、1968(昭和43)年、文化庁の設置に伴い、主催が同庁へ引き継がれたが、2022(令和4)年度を最後に長年維持された参加公演制が廃止された。

開催部門は時代によって変化していくが、本稿に関わる放送を軸に参加公演の部門を整理する。1948(昭和23)年度から放送部門が加えられた一方で、1949(昭和24)年度から音楽部門に放送でも参加することができるよう

になり、1963(昭和38)年度からは音楽部門は「公演によるもの」と「放送によるもの」とに分けられた。1969(昭和44)年度から音楽部門は公演のみになり、放送による音楽はラジオ部門に含まれることになった。

その後、細かな変更はあるものの、この大枠は維持されてきた。しかし1985(昭和60)年度から舞台芸術の「演劇」「音楽」「舞踊」「演芸」の4部門に統合され、『芸術祭五十年』の分類によれば、映画、ラジオ、レコードの「媒体芸術」の分野は廃止された。これらの分野に対して、新たに「芸術作品賞」が設けられたが、ラジオ部門は「ドラマの部」と「ドキュメンタリーの部」のみとなり、「放送による音楽」は参加できなくなった。なお、その後、「芸術作品賞」のうち映画は文化庁の賞として独立し、ラジオ部門、テレビ部門、レコード部門は再び芸術祭の参加部門となった。

「放送による音楽」での参加は、NHKだけではなく民間放送も放送劇、音楽劇、電子音楽等で参加し、受賞を目指してさまざまな番組が制作された。芸術祭参加作品も含めNHKを中心とした電子音響による作品は、川崎弘二の大作『NHKの電子音楽』にまとめられている。ここでは「放送による音楽」でN響が演奏を通して参加した作品を見ていきたい。

N響の演奏を通じた参加

芸術祭の開始の2年後の1948(昭和23)年度からNHKは11月3日「文化の日」を中心に「放送芸能祭」という特集番組を開始し、その中の番組を芸術祭の参加作品とした。音楽部門に放送でも参加できるようになった1949(昭和24)年11月2日に深井史郎の《交声曲「平和への祈り」》がN響の演奏によって放送された。この作品は終戦4年を記念して

NHKが委嘱して同年8月15日にN響が放送初演した曲であった。1950(昭和25)年度は、文部省とNHKが共催で、放送劇と管弦楽の懸賞を行い、管弦楽曲に清水脩の《インド旋律による4楽章》が入選、11月1日に放送初演された。

1951(昭和26)年度の参加作品はNHKが委嘱した2作品であったが、1952(昭和27)年度から1955(昭和30)年度までNHKがオーケストラ曲の懸賞を行い、その入選曲が「放送芸能祭」の一環として放送初演された。なかでも1953(昭和28)年度の諸井誠の《管弦楽のためのコンポジション》は芸術祭賞、エリーザベト王妃国際音楽コンクール第7位、1954(昭和29)年度の三善晃の《ピアノと管弦楽のための協奏交響曲》は芸術祭奨励賞、尾高賞を受賞した。なお、「放送芸能祭」は1960(昭和35)年度まで実施されたが、1956(昭和31)年度以降放送による音楽で芸術祭に参加していない。

1957(昭和32)年度以降、NHKは日本人作曲家に放送を目的としたオーケストラ作品を委嘱し、その多くがN響によってスタジオ録音され、放送初演された。全体的に見れば、演奏会場でも演奏できる作品が多いものの、新しい放送技術を活かした作品も芸術祭に出品された。新しい放送技術のひとつに、立体放送がある。立体放送とは、第1放送と第2放送で同時に放送される番組を、2台の受信機を左右に並べてその間で聴くことで立体感を得ることができる放送のことである。1952(昭和27)年12月20日(東京ローカル)の初めての立体放送には、山田和男(後に「夏精」→「一雄」と改名)指揮のN響ほかが出演した。放送当日の『朝日新聞』には「奥行を感じずの音色／NHKで立体放送の試み」という見出しで、聴取者に向けて受信機の設置について次のように説明し、新しい放送技術への注目度の高さが見て

取れる。「二つのラジオは、左に第一放送右に第二放送とする。間隔は最低一メートルぐらい、いずれも正面を向けるか、あるいは多少内側へ向けてもよいが向き合い過ぎるとよくない。聴く場所は、二つのラジオを二つの頂点とした正三角形のもう一つ頂点より、更に後の方がよい」。

1954(昭和29)年11月13日から「立体放送」の定時番組『立体音楽堂』が開始され、立体放送が次第に定着していく。芸術祭にも1954年以降、NHKは音楽物語、ミュージック・コンクレート、電子音楽等の立体放送の番組で参加していくが、N響の最初の出演は1962(昭和37)年度であった。メシアンの《トゥランガリラ交響曲》と別宮貞雄の《音楽物語「大男の庭」》の2作品である。

N響による立体放送

メシアンメシアンの《トゥランガリラ交響曲》は、NHKの招聘によって初来日したメシアンメシアンの監修のもとで7月4日に東京文化会館での特別演奏会で小澤征爾の指揮、イヴォンヌ・ロリオのピアノ、本荘玲子のオンド・マルトノで日本初演された。その際の演奏会の収録は、7月9日にラジオ第2とFMで同時に放送され、7月22日には教育テレビで放映された。それとは別に行われたスタジオ録音スタジオ録音が芸術祭への参加作品となった。『NHK年鑑1963年版』によれば「演奏会后、とくに5日間にわたり、NHK交響楽団スタジオにおいて、小沢[ママ]征爾指揮のN響の演奏で、世界ではじめての立体録音を行ない、立体放送の技術の高さを内外に示した」。この「NHK交響楽団スタジオ」とは、同年3月16日に落成したN響演奏所の第1演奏室のことである。第1演奏室は、「本格的なラジオ・スタジオと同じような構造」をもち、「日

常の練習に使用するばかりではなく、録音および放送にも使用することができるように放送用機器設備も整備」され、調整室も隣接していた(『フィルハーモニー』1962年7・8月号)。

小澤征爾は、メシアンが演奏練習と録音合わせて15日にもわたり毎日立ち会ったN響の演奏について次のように述べている。「棒の振り方ひとつひとつが全部音になって出たということ。それは、やっぱり練習たくさんやったからでしょうが、それからメシアンさんがついていたから、みんながそういう責任感をもって弾いて、初日から15日終わるまで、すき間なくやった」(『フィルハーモニー』同前)。この録音は芸術祭で賞を受けることはなかったものの、1986(昭和61)年にキングレコードから発売された『NHK交響楽団〜輝ける60年の軌跡』(LP26枚組)に収められた。

立体放送によるもうひとつの番組で演奏された別宮貞雄の《音楽物語「大男の庭」》では、電子音も用いられ、ラジオ放送の特性が活かされた作品であった。立体放送という新しいラジオの効果を活かした「ステレオ音楽作品」の委嘱をNHKは1964(昭和39)年度から始め、その初演をN響が担ったのである。その作品のひとつである三善晃の《ソプラノとオーケストラのための「決闘」》に加えて、同作曲家の《管弦楽のための協奏曲》も芸術祭の音楽部門(放送によるもの)に出品された。なお、この三善の作品も含め芸術祭参加作品として放送された武満徹、黛敏郎、入野義朗の作品はすべて「オリンピック東京大会記念・NHK交響楽団特別演奏会」のためにNHKから委嘱され、10月に初演されたものであった。

1964(昭和39)年度に「ステレオ音楽作品」として委嘱され、1965(昭和40)年3月21日にFMで放送初演された間宮芳生の《オペラ「ニホンザル・スキトオリメ」》は、「ステレオ音楽に

おけるオペラの自由な展開を試みた」(『NHK年鑑 1966』)もので、1965(昭和40)年度の芸術祭で奨励賞を得た。

また、1954(昭和29)年から続いていた『立体音楽堂』は、1963(昭和38)年12月22日からFMでも放送されるようになり、FM受信機の普及が進むなか、翌1965(昭和40)年4月12日からFMのみになり、1966(昭和41)年4月2日で番組は終了した。そして、1968(昭和43)年度以降、芸術祭への放送での参加作品はすべてステレオでの放送となった。芸術祭に放送による音楽で参加できる1984(昭和59)年度まで、NHKが放送したのは、ラジオ放送の特性を活かした作品というよりも、演奏会場でも演奏できる作品がほとんどであった。こうした傾向は放送技術の進展とともに放送でも演奏会場と近い聴取が可能になり、ラジオ放送というメディアを意識せずに作曲されるようになったからかもしれない。

放送を目的とした作品のN響による初演が減っていくなかで、1988(昭和63)年特別公演「N響MIF(Music in Future)」の開始によって、N響は大きな転機を迎える。年1回開催されるこの特別公演は初回から尾高賞受賞作、日本人作曲家への委嘱作、海外の作曲家の日本初演作という3本の柱を特徴とするプログラムで、1993(平成5)年から「Music Tomorrow」へと名称を変更した。初回の「N響MIF」での委嘱作(一柳慧「ピアノ協奏曲第2番「冬の肖像」」)は、NHKによるものだったが、1989(平成元)年以降は、N響による委嘱作となった。つまり、日本人作曲家への委嘱はN響によって行われ、演奏会で初演するかたちになり、N響による日本人作曲家の新作初演は、放送の領域から演奏会の領域へと移ったのである(なお、2022年以降、「Music Tomorrow」での委嘱作は他団体との共同によるものも含め、海外の作曲家にも広がっている)。

新作初演は放送の領域から演奏会の領域へ

芸術祭の参加作品に加え、NHKは1956(昭和31)年からイタリア放送協会(RAI)が主催する国際番組コンクール「イタリア賞」にラジオ音楽ばかりではなくテレビ音楽でも参加するために、日本人作曲家に委嘱してきた。N響は1963(昭和38)年から1982(昭和57)年までそれらの作品をいくつも演奏してきた。N響は、戦前からラジオ放送の特性を活かした音楽を模索してきた放送局とともに活動し、1980年代半ばまで放送を目的として作曲された日本人作曲家の数多くの新作を放送によって世に送り出してきたのであった。

参考・引用資料

- ・NHK編「NHK放送100年史」(NHK出版、2025年)
- ・川崎弘二著「NHKの電子音楽」(フィルムアート社、2025年)
- ・国立音楽大学附属図書館入野義朗書誌作成グループ編「入野義朗」(日外アソシエーツ、1988年)
- ・榎崎洋子編著「日本の管弦楽作品表：1912～1992」(日本交響楽振興財団、1994年)
- ・日本放送協会編「日本放送協会史」(日本放送協会、1939年)
- ・日本放送協会放送史編修室編「日本放送史」(上・下)(日本放送出版協会、1965年)
- ・文化庁監修「芸術祭五十年 戦後日本の芸術文化史」(ぎょうせい、1995年)
- ・文部省社会教育局芸術課編「芸術祭十五年史」(文化庁、1961年)
- ・文部省社会教育局芸術課編「芸術祭十五年史 資料編」(文化庁、1962年)
- ・文化庁文化部芸術課編「芸術祭三十年史 資料編」(上・下)(文化庁、1976年)
- ・文化庁文化部芸術課編「芸術祭三十年史 本文編」(文化庁、1976年)
- ・洋楽放送70年史プロジェクト「洋楽放送70年史：1925～1995」(ミュージアム図書、1997年)
- ・「NHK年鑑」
- ・「フィルハーモニー」
- ・「放送研究」
- ・「朝日新聞クロスサーチ」(朝日新聞)
- ・「毎楽」(毎日新聞)
- ・「ヨミダス」(読売新聞)

表 | N響が演奏を通して参加した芸術祭(放送に限る)

*放送初演

年度・回・部門	放送日	作曲家・作品名・演奏者
1949年度 第4回 音楽部門	11月2日 NHKラジオ第1放送	深井史郎／交声曲「平和への祈り」(詞:大木惇夫) 指揮:山田和男、ソプラノ:大熊文子、アルト:川崎静子、テノール:木下保、バス:秋元清一、 合唱:東京放送合唱団
1950年度 第5回 音楽部門	11月1日 NHKラジオ第1放送	清水脩／インド旋律による4楽章*[NHK懸賞管弦楽曲入選] 指揮:尾高尚忠
1951年度 第6回 音楽部門	11月2日 NHKラジオ第2放送	入野義朗／室内協奏曲* N響メンバー
	11月4日 NHKラジオ第1放送	池内友次郎／交響的2楽章* 指揮:山田和男
1952年度 第7回 音楽部門	11月3日 NHKラジオ第1放送	石桁真礼生／組曲*[NHK懸賞管弦楽曲入選] 指揮:クルト・ウェス
1953年度 第8回 音楽部門	11月1日 NHKラジオ第1放送	諸井誠／管弦楽のためのコンポジション(コンポジション第1番)* [NHK懸賞管弦楽曲入選、芸術祭賞] 指揮:ジャン・マルティン
1954年度 第9回 音楽部門	10月31日 NHKラジオ第1放送	三善晃／ピアノと管弦楽のための協奏交響曲* [NHK懸賞管弦楽曲入選、芸術祭奨励賞、尾高賞] 指揮:ニクラウス・エッシュバッハー、ピアノ:高良芳枝
1955年度 第10回 音楽部門	11月2日 NHKラジオ第1放送	杉浦正嘉／シンフォニエッタ*[NHK懸賞管弦楽曲入選] 指揮:ニクラウス・エッシュバッハー 入野義朗／二重協奏曲* 指揮:ニクラウス・エッシュバッハー、ヴァイオリン:岩淵龍太郎、ピアノ:田村宏
1957年度 第12回 音楽部門	11月24日 NHKラジオ第2放送	間宮芳生／管弦楽のための2つのタブロー(「帆」)* 指揮:ウィルヘルム・ロイブナー 黛敏郎／カンパノロジー(混聲交響曲 第1楽章)* 指揮:ウィルヘルム・ロイブナー
1958年度 第13回 音楽部門	11月9日 NHKラジオ第2放送	別宮貞雄／万葉集による3つの歌* 指揮:岩城宏之、バトン:大橋国一、合唱:二期会合唱団、東京混声合唱団 武満徹／管弦楽のためのソリチュード・ソノール*[芸術祭奨励賞] 指揮:岩城宏之
1959年度 第14回 音楽部門	11月29日 NHKラジオ第2放送	松平頼則／舞楽のための序曲と終曲(ダンス・サクレとダンス・フィナル) 指揮:岩城宏之
1960年度 第15回 音楽部門	11月30日 NHKラジオ第2放送	諸井誠／コンポジション第4番「母音」*(詞:アルチュール・ランボー) 指揮:岩城宏之、朗読:水島弘、ソプラノ:古沢淑子、オンド:マルトノ:本莊玲子、 合唱:東京混声合唱団、シュプレヒ・コール:二期会合唱団
1961年度 第16回 音楽部門	11月29日 NHKラジオ第1放送	外山雄三／ピアノ協奏曲(ピアノ協奏曲第1番)* 指揮:外山雄三、ピアノ:賀集裕子
1962年度 第17回 音楽部門	11月4日 NHKラジオ第2放送	三善晃／ピアノ協奏曲[芸術祭賞、尾高賞] 指揮:森正、ピアノ:本莊玲子
	11月23日 NHKラジオ第1放送・ 第2放送(立体放送)	メシアン／トゥランガリラ交響曲 指揮:小澤征爾、ピアノ:イヴォンヌ・ロリオ、オンド:マルトノ:本莊玲子
	11月25日 NHKラジオ第1放送・ 第2放送(立体放送)	別宮貞雄／音楽物語「大男の庭」*(原作:オスカー・ワイルド、作:岩田宏) 指揮:森正、語り手:立岡光、大男:水島弘、少年:広村芳子、オンド:マルトノ:高橋悠治、 合唱:東京混声合唱団
1963年度 第18回 音楽部門 (放送によるもの)	10月10日 NHKラジオ第1放送	小林秀雄／管弦楽のための変奏曲* 指揮:若杉弘

年度・回・部門	放送日	作曲家・作品名・演奏者
1964年度 第19回 音楽部門 (放送によるもの)	11月1日 NHKラジオ第2放送	武満徹 / テクスチャーズ 指揮:岩城宏之 黛敏郎 / 音楽の誕生 指揮:岩城宏之
	11月2日 NHKラジオ第2放送	入野義朗 / 交響曲 第2番 指揮:若杉弘 三善見 / 管弦楽のための協奏曲 [芸術祭賞、尾高賞] 指揮:外山雄三
	11月21日 NHKラジオ第1放送・ 第2放送(立体放送)	三善見 / ソプラノとオーケストラのための「決闘」*(詞:萩原朔太郎) [NHK作曲賞] 指揮:外山雄三、ソプラノ:瀬山詠子
1965年度 第20回 音楽部門 (放送によるもの)	11月3日 NHKラジオ第1放送・ 第2放送(立体放送)	端山貢明 / 打楽器群とオーケストラのための協奏曲* 指揮:若杉弘
	11月7日 NHKラジオ第2放送	三善見 / ヴァイオリン協奏曲* [芸術祭賞、NHK作曲賞] 指揮:森正、ヴァイオリン:江藤俊哉
	11月23日 NHKラジオ第1放送・ 第2放送(立体放送)	間宮芳生 / オペラ「ニホンザル・スキトオリメ」(作:木島始) [芸術祭奨励賞] 指揮:若杉弘、徳丸聡子、木:平野忠彦、男:日下武史、女王ザル:滝沢三重子、オトモザル:友竹正則、スキトオリメ:金谷良三、ソトオリメ:中村義春、合唱:東京混声合唱団
1966年度 第21回 音楽部門 (放送によるもの)	11月3日 NHKラジオ第1放送・ 第2放送(立体放送)	芥川也 寸志 / 弦楽合奏のための陰画* 指揮:岩城宏之 松村禎三 / 音楽詩劇「煩惱の笛」*(原作:監修:小泉文夫、補作:岡本一彦) 指揮:森正、独唱:栗林義信、合唱:東京放送合唱団 / 東京混声合唱団、能管:福原百之助、 竜笛:芝祐靖
	11月23日 NHKラジオ第2放送	石桁真礼生 / 歌劇「コシヤマイン記」*(作:鶴田知也、脚色:高橋英郎) 指揮:若杉弘、瀬棚の酋長コシヤマイン:田島好一、その少年時代:二村忍、 その母シラリカ:栗本尊子、遊楽部の酋長イコトイ:高橋修一、その娘ムビナ:瀬山詠子、 場所請負人:金谷良三 / 沢田文彦 / 中村義春 / 河瀬柳史 / 渡辺明 / 山田純彦、 女声合唱:東京混声合唱団
	11月27日 NHKラジオ第1放送	諸井誠 / ピアノ協奏曲* [芸術祭奨励賞] 指揮:森正、ピアノ:小林仁
1967年度 第22回 音楽部門 (放送によるもの)	10月26日 NHKラジオFM放送	松村禎三 / 最高峰*(作:北杜夫) 指揮:森正、語り手:宮部昭夫、独唱:増田むつみ / 丹羽勝海、東洋楽器:宮下伸 / 堀井小二朗、 合唱:日本合唱協会
	11月3日 NHKラジオ第1放送	佐藤真 / 奇跡の手*(作:木村嘉良) 指揮:森正、独唱:中村健 / 伊藤京子 / 田島好一
	11月3日 NHKラジオFM放送	武満徹 / ノヴェンバー・ステップス 第2番(グリーン)* [芸術祭奨励賞] 指揮:森正
1968年度 第23回 音楽部門 (放送によるもの)	11月5日 NHKラジオ第1放送	矢代秋雄 / ピアノ協奏曲* [芸術祭奨励賞、尾高賞] 指揮:若杉弘、ピアノ:中村紘子
	11月7日 NHKラジオFM放送	松村禎三 / 管弦楽のための前奏曲* [尾高賞] 指揮:森正 諸井誠 / 交響曲* 指揮:森正
	11月6日 NHKラジオFM放送	端山貢明 / ピアノと管弦楽のための交響的変容* [芸術祭優秀賞] 指揮:森正、ピアノ:小林仁 三善見 / 赤き死の仮面*(原作:エドガー・アラン・ポー、作:芦屋和) 指揮:若杉弘、声:水島弘
1969年度 第24回 ラジオ部門 (ラジオ音楽の部)	11月13日 NHKラジオFM放送	別宮貞雄 / ヴィオリン協奏曲 [芸術祭優秀賞] 指揮:若杉弘、ヴァイオリン:黒沼ユリ子

年度・回・部門	放送日	作曲家・作品名・演奏者
1970年度 第25回 ラジオ部門 (音楽の部)	10月29日 NHKラジオ FM放送	佐藤眞 / 管弦楽のための変奏曲* 指揮:若杉弘 諸井誠 / わが出雲*(詞:入沢康夫) 指揮:森正、バリトン:中村義春、アルト:伊原直子、声:曾我栄子 / 三輪勝恵、 合唱:二期会合唱団
	10月30日 NHKラジオ FM放送	間宮芳生 / ピアノ協奏曲 第2番*[芸術祭優秀賞、尾高賞] 指揮:森正、ピアノ:野島稔 野田暉行 / オーケストラと声による断章「子供部屋」*(詞:谷川俊太郎) 指揮:若杉弘、ソプラノ:瀬山詠子、バリトン:平野忠彦、日本合唱協会
1971年度 第26回 ラジオ部門 (音楽の部)	10月28日 NHKラジオ FM放送	七つ矢博資 / タゴールの詩による電子音響・声・管弦楽のための「経」* 指揮:森正、声:バーニ・ディロイ 別宮貞雄 / ヴィオラ協奏曲*[芸術祭優秀賞、尾高賞] 指揮:若杉弘、ヴィオラ:今井信子
	11月4日 NHKラジオ FM放送	小倉朗 / ヴァイオリン協奏曲* 指揮:森正、ヴァイオリン:小栗まゆ絵
1972年度 第27回 ラジオ部門 (ラジオ音楽の部)	11月15日 NHKラジオ FM放送	湯浅譲二 / クロノプラスチック*[芸術祭大賞、尾高賞] 指揮:岩城宏之
1973年度 第28回 ラジオ部門 (ラジオ音楽の部)	11月4日 NHKラジオ FM放送	松村禎三 / ピアノ協奏曲(ピアノ協奏曲第1番)*[芸術祭優秀賞] 指揮:岩城宏之、ピアノ:野島稔
	11月11日 NHKラジオ FM放送	柴田南雄 / コンソート・オブ・オーケストラ[尾高賞] 指揮:岩城宏之 佐藤眞 / ソプラノと管弦楽のための交響的瞑想「死の淵より」*(詩:高見順) 指揮:森正、ソプラノ:伊藤京子
1974年度 第29回 ラジオ部門 (音楽の部)	10月19日 NHKラジオ FM放送	外山三保子 / アルト詩曲* 指揮:若杉弘、アルト:戸嶋由美 三木稔 / 箏とオーケストラのための協奏曲(箏協奏曲 第1番「破の曲」)* 指揮:秋山和慶、箏:野坂恵子
	10月26日 NHKラジオ FM放送	諸井誠 / 第2協奏交響曲「交感」* 指揮:森正、ピアノ:園田高弘、鼓:藤倉呂悦
	11月2日 NHKラジオ FM放送	池辺晋一郎 / 同質二像(タイモルフィズム)ーオルガンとオーケストラのために*[芸術祭優秀賞] 指揮:若杉弘、オルガン:広野嗣雄
1975年度 第30回 ラジオ部門 (ラジオ音楽の部)	10月26日 NHKラジオ FM放送	端山貞明 / 6人の打楽器奏者とオーケストラのための「道(DAO)」* 指揮:森正 佐藤眞 / 交響的変容* 指揮:山田一雄、オルガン:島田麗子
1976年度 第31回 ラジオ部門 (ラジオ音楽の部)	10月10日 NHKラジオ FM放送	篠原真 / 25の楽器のためのエガリザシオン* 指揮:小松和彦 近藤譲 / オーケストラのための「鳥楽器の役割」* 指揮:秋山和慶
	10月30日 NHKラジオ FM放送	野田暉行 / ピアノ協奏曲*[芸術祭優秀賞、尾高賞] 指揮:尾高忠明、ピアノ:神谷郁代 別宮貞雄 / 交響曲第2番* 指揮:山田一雄
1978年度 第33回 ラジオ部門 (ラジオ音楽の部)	10月8日 NHKラジオ FM放送	石井眞木 / ヴァイオリン協奏曲「失われた響きⅢ」*[芸術祭優秀賞] 指揮:岩城宏之、ヴァイオリン:前橋汀子
	10月22日 NHKラジオ FM放送	佐藤眞 / 管弦楽のためのラブソフィー* 指揮:小松一彦
	10月29日 NHKラジオ FM放送	間宮芳生 / 管弦楽のための協奏曲*[芸術祭優秀賞] 指揮:岩城宏之

年度・回・部門	放送日	作曲家・作品名・演奏者
1979年度 第34回 ラジオ部門 (ラジオ音楽の部 <合唱曲を含む>)	11月1日 NHKラジオFM放送	坪能克裕 / オークストラのためのIの像* 指揮: 山田一雄、合唱: 日本合唱協会 下山一二三 / 管弦楽のための彩響*[芸術祭優秀賞] 指揮: 尾高忠明
1980年度 第35回 ラジオ部門 (ラジオ音楽の部)	11月6日 NHKラジオFM放送	佐藤晴明 / 2台のハープ、打楽器と弦楽オーケストラのための「リラ」*[芸術祭優秀賞] 指揮: 黒岩英臣 田中利光 / 管弦楽のための「群像」* 指揮: 森正
1981年度 第36回 ラジオ部門 (ラジオ音楽の部)	10月18日 NHKラジオFM放送	近藤譲 / 時の形* 指揮: 黒岩英臣、ピアノ: 高橋アキ 一柳慧 / ピアノとオーケストラのための「空間の記憶」* (ピアノ協奏曲第1番「空間の記憶」)[芸術祭優秀賞、尾高賞] 指揮: 岩城宏之、ピアノ: 木村かをり
1982年度 第37回 ラジオ部門 (ラジオ音楽の部)	11月4日 NHKラジオFM放送	市川都志春 / ヴァイオリン協奏曲* 指揮: 森正、ヴァイオリン: 堀正文
	11月11日 NHKラジオFM放送	石井真木 / 打楽器とオーケストラのための協奏曲「ブラック・イン・テンションV」* (アフロ・コンチェルト)[芸術祭優秀賞] 指揮: 岩城宏之、打楽器: 百瀬和紀、マリンバ: 山口多嘉子 萩久保和明 / 交響曲* 指揮: 外山雄三
1983年度 第38回 ラジオ部門 (ラジオ音楽の部 <合唱曲を含む>)	10月23日 NHKラジオFM放送	佐藤真 / ピアノ協奏曲*[芸術祭大賞] 指揮: 森正、ピアノ: 神野明
	11月6日 NHKラジオFM放送	湯浅譲二 / 管弦楽のための透視図法*[芸術祭大賞] 指揮: 岩城宏之
1984年度 第39回 ラジオ部門 (ラジオ音楽の部 <合唱曲を含む>)	11月14日 NHKラジオFM放送	下山一二三 / チェロと管弦楽のための協奏曲*[芸術祭優秀賞] 指揮: 森正、チェロ: 木越洋 丹羽明 / ヴァイオリン協奏曲第2番「アドヴァイタ」* 指揮: 外山雄三、ヴァイオリン: 数住岸子

参加作品一覧は、「NHK年鑑」および芸術祭の年史を中心に調査してまとめ、放送初演についての情報は基本的に檜崎洋子編著「日本の管弦楽作品表: 1912～1992」に基づいている。

文・表作成

西村 理 | にしむら・おさむ

大阪音楽大学教授。博士(音楽学)。研究テーマはメディアを軸とした音楽文化。論文に「戦前・戦中におけるJOBKの放送オーケストラ——番組制作の観点から」、「大正末から昭和初期における大阪の音楽隊のレパートリー——大大阪記念博覧会とラジオ放送を中心に」、監修書に「厳選CD100曲 よくわかる クラシックの基本」など。

曲目解説執筆者

太田峰夫(おおた みねお)

京都市立芸術大学教授。おもな研究領域は20世紀ハンガリー音楽史、とりわけバルトークの音楽。音楽専門誌への寄稿のほか、著書に『バルトーク 音楽のプリミティヴィズム』、共訳書に『バルトーク音楽論選』、論文に『ハックプレットからツインバロムへ——近世中欧の社会における打弦楽器の位置付けについて——』など。

神保夏子(じんぼう なつこ)

お茶の水女子大学基幹研究院人文科学系助教。博士(音楽学)。専門分野は近代フランス音楽史、演奏文化史。著書に『マルグリット・ロン——近代フランス音楽を創ったピアニスト』、共編著書に『コンクール文化論——競技としての芸術・表現活動を問う』、共訳書に『モリス・ラヴェル——海賊と時計職人』など。

増田良介(ますだ りょうすけ)

専門はショスタコーヴィチをはじめとするロシア・ソ連音楽と後期ロマン派音楽。音楽専門誌や演奏会プログラム、各社ライナーノートなどへの寄稿のほか、共著書に『究極のオーケストラ超名曲徹底解剖66』など。

(五十音順、敬称略)

N響の出演番組

定期公演や特別公演の様子が放送されるほか、大河ドラマのテーマ音楽や「名曲アルバム」の演奏なども行っています。NHKの番組を通じてN響の演奏をお楽しみください。

クラシック音楽館(N響定期公演ほか)

Eテレ 日曜9:00~11:00pm

ベストオブクラシック

FM 7:35~9:15pm

N響演奏会

FM 土曜4:00~5:50pm(不定期)

クラシックTV(クラシック全般の話題を取り上げます)

Eテレ 木曜9:00~9:30pm
月曜2:00~2:30pm(再放送)

これらの番組は放送終了後も「NHK ONE」(「NHKプラス」「らじる★らじる」)で1週間何度でも視聴いただけます。出演番組について、詳しくはNHKやN響のホームページをご覧ください。

特別支援・特別協力・賛助会員

Corporate Membership

特別支援

岩谷産業株式会社	代表取締役 社長兼CEO 間島 寛
三菱地所株式会社	執行役社長 中島 篤
株式会社 みずほ銀行	頭取 加藤勝彦
公益財団法人 渋谷育英会	理事長 小丸成洋
東日本旅客鉄道株式会社	代表取締役社長 喜勢陽一
NTT東日本株式会社	代表取締役社長 澁谷直樹
東京海上ホールディングス株式会社	取締役社長 グループCEO 小池昌洋
株式会社ポケモン	代表取締役社長 石原恒和

特別協力

BMW ジャパン	代表取締役社長 上野金太郎
全日本空輸株式会社	代表取締役社長 平澤寿一
ヤマハ株式会社	代表執行役社長 山浦 敦
びあ株式会社	代表取締役社長 矢内 廣

賛助会員

・ 常陸宮	・ 有限責任 あずさ監査法人 理事長 山田裕行	・ (株)インターネットイニシアティブ 代表取締役 会長執行役員 鈴木幸一
・ (株)アートレイ 代表取締役 小森活美	・ アットホーム(株) 代表取締役社長 鶴森康史	・ 内 聖美
・ (株)アイシン 取締役社長 吉田守孝	・ イーソリューションズ(株) 代表取締役社長 佐々木経世	・ 内山貴史
・ (株)アインホールディングス 代表取締役社長 大谷喜一	・ EY新日本有限責任監査法人 理事長 松村洋季	・ SMBC日興証券(株) 代表取締役社長 吉岡秀二
・ 葵設備工事(株) 代表取締役社長 安藤正明	・ (株)井口一世 代表取締役 井口一世	・ (株)NHKアート 代表取締役社長 石原 勉
・ (株)あ佳音 代表取締役社長 遠山信之	・ 池上通信機(株) 代表取締役社長 清森洋祐	・ NHK営業サービス(株) 代表取締役社長 手島一宏
・ AXLBIT(株) 代表取締役 長谷川章博	・ (-財)ITOH 代表理事 伊東忠俊	・ (株)NHK エデュケーショナル 代表取締役社長 有吉伸人
・ アサヒグループホールディングス(株) 代表執行役社長 Group CEO 勝木敦志	・ 井村屋グループ(株) 取締役社長 大西安樹	・ (株)NHK エンタープライズ 代表取締役社長 有吉伸人
・ (株)朝日工業社 代表取締役社長 高須康有	・ (有)IL VIOLINO MAGICO 代表取締役 山下智之	・ (学)NHK学園 理事長 荒木美弥子
・ 朝日信用金庫 理事長 伊藤康博	・ 岩田地崎建設(株) 代表取締役社長 岩田圭剛	・ (株)NHK グローバルメディアサービス 代表取締役社長 松岡 烈

- ・(株)NHK出版
代表取締役社長 | 江口貴之
- ・(株)NHKテクノロジーズ
代表取締役社長 | 山口太一
- ・(株)NHK ビジネススクリエイト
代表取締役社長 | 梶 健一郎
- ・(株)NHKプロモーション
代表取締役社長 | 見郵便一
- ・NGK(株)
代表取締役社長 | 小林 茂
- ・(株)NTTドコモ
代表取締役社長 | 前田義晃
- ・(株)NTTファシリティーズ
代表取締役社長 | 川口 晋
- ・ENEOS ホールディングス(株)
代表取締役 社長執行役員 | 宮田知秀
- ・荏原冷熱システム(株)
代表取締役 | 加藤恭一
- ・MN インターファッション(株)
代表取締役社長 | 吉本一心
- ・(株)エレクトク
代表取締役 | 間部恵造
- ・大崎電気工業(株)
代表取締役会長 | 渡辺佳英
- ・(株)大塚商会
代表取締役社長 | 大塚裕司
- ・大塚ホールディングス(株)
代表取締役社長兼CEO | 井上 眞
- ・(株)大林組
代表取締役社長 | 佐藤俊美
- ・オールニッポンヘリコプター(株)
代表取締役社長 | 寺田 博
- ・岡崎悦子
- ・岡崎耕治
- ・小田急電鉄(株)
取締役社長 | 鈴木 滋
- ・陰山建設(株)
代表取締役 | 陰山正弘
- ・鹿島建設(株)
代表取締役会長 兼 社長 | 押味至一
- ・(株)加藤電気工業所
代表取締役 | 加藤浩章
- ・(株)金子製作所
代表取締役 | 金子晴房
- ・カルチャー・エンタテインメント グループ(株)
代表取締役 社長執行役員 | 中西一雄
- ・(株)関電工
取締役社長 | 田母神博文
- ・(株)かんぼ生命保険
取締役兼代表執行役社長 | 谷垣邦夫
- ・キッコーマン(株)
代表取締役社長CEO | 中野祥三郎
- ・(株)教育芸術社
代表取締役 | 市川かおり
- ・(株)共栄サービス
代表取締役 | 半沢治久
- ・(株)共同通信会館
代表取締役専務 | 小淵敏郎
- ・(一社)共同通信社
社長 | 沢井俊光
- ・キリンホールディングス(株)
代表取締役会長CEO | 磯崎功典
- ・(学)国立音楽大学
理事長 | 重盛次正
- ・京王電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
都村智史
- ・京成電鉄(株)
代表取締役社長 社長執行役員
天野貴夫
- ・KDDI(株)
代表取締役社長CEO | 松田浩路
- ・(医)社団 恒仁会
理事長 | 伊藤恒道
- ・(株)構造計画研究所ホールディングス
代表執行役 | 服部正太
- ・(株)コーポレートディレクション
代表取締役 | 小川達大
- ・コグニティブリサーチラボ(株)
代表取締役 | 苔米地英人
- ・(医)財団 湖聖会
理事長 | 湖山泰成
- ・小林弘信
- ・佐川印刷(株)
代表取締役会長 | 木下寧久
- ・佐藤弘康
- ・サフラン電機(株)
代表取締役 | 藤崎貴之
- ・(株)サンセイ
代表取締役 | 富田佳佑
- ・サントリーホールディングス(株)
代表取締役社長 | 鳥井信宏
- ・(株)ジェイ・ウィル・コーポレーション
代表取締役社長 | 佐藤雅典
- ・JCOM(株)
代表取締役社長 | 岩木陽一
- ・(株)シグマクシス・ホールディングス
代表取締役社長 | 太田 寛
- ・(株)ジャパン・アーツ
代表取締役社長 | 二瓶純一
- ・(株)集英社
代表取締役社長 | 林 秀明
- ・(株)小学館
代表取締役社長 | 相賀信宏
- ・(株)商工組合中央金庫
代表取締役社長 | 関根正裕
- ・庄司勇次朗・恵子
- ・(株)ショットビジョン
代表取締役 | 森 昇平
- ・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
- ・(株)白川プロ
代表取締役 | 白川亜弥
- ・(有)新赤坂健康管理協会
代表取締役社長 | 小池 学
- ・信越化学工業(株)
代表取締役社長 | 斉藤恭彦
- ・新角卓也
- ・新菱冷熱工業(株)
代表取締役社長 | 加賀美 猛
- ・スカパー JSAT(株)
代表取締役 執行役員社長 | 米倉英一
- ・(株)菅原
代表取締役会長 | 古江訓雄
- ・鈴木誠一郎
- ・(株)スターファイア
代表取締役 | 加藤智也
- ・住友商事(株)
代表取締役 社長執行役員 CEO
上野真吾
- ・住友電気工業(株)
社長 | 井上 治
- ・セイコーグループ(株)
代表取締役会長兼グループCEO
兼グループCCO | 服部真二
- ・聖徳大学
理事長・学長 | 川並弘純
- ・西武鉄道(株)
代表取締役社長 | 小川周一郎
- ・清和綜合建物(株)
代表取締役社長 | 大串桂一郎
- ・関野商事(株)
代表取締役会長 | 関 正夫
- ・(株)セノン
代表取締役社長 | 澤本 泉

- ・(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント
代表取締役社長グループCEO | 岩上敦宏
- ・損害保険ジャパン(株)
取締役社長 | 石川耕治
- ・第一三共(株)
代表取締役会長 | 眞鍋 淳
- ・第一生命保険(株)
代表取締役社長 | 隅野俊亮
- ・大成建設(株)
代表取締役社長 | 相川善郎
- ・大日コーポレーション(株)
代表取締役社長兼グループCEO
鈴木忠明
- ・高砂熱学工業(株)
代表取締役社長 | 小島和人
- ・(株)ダク
代表取締役 | 福田浩二
- ・(株)竹中工務店
取締役執行役員社長 | 丁野成人
- ・(株)竹中土木
取締役社長 | 竹中祥悟
- ・田中貴金属工業(株)
代表取締役社長執行役員
田中浩一朗
- ・田原 昇
- ・(株)ダブルスタンダード
代表取締役 | 清水康裕
- ・チャンネル銀河(株)
代表取締役社長 | 前田鎮男
- ・中央日本土地建物グループ(株)
代表取締役社長 | 三宅 潔
- ・中外製薬(株)
代表取締役社長 | 奥田 修
- ・(株)電通
代表取締役 社長執行役員 | 松本千里
- ・(株)テンポブリモ
代表取締役 | 中村聡武
- ・東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)
代表取締役会長 | 石田建昭
- ・東海旅客鉄道(株)
代表取締役社長 | 丹羽俊介
- ・東急(株)
取締役社長 社長執行役員 | 堀江正博
- ・(株)東急コミュニティー
代表取締役社長 | 速川智行
- ・(株)東急文化村
代表取締役 | 嶋田 創
- ・東信地所(株)
代表取締役 | 堀川利通
- ・東武鉄道(株)
取締役社長 | 都筑 豊
- ・桐朋学園大学
学長 | 辰巳明子
- ・(株)東北新社
代表取締役社長 | 小坂恵一
- ・東北電力(株)
代表取締役社長 | 石山一弘
- ・(株)外川ビル
代表取締役 | 外川信晃
- ・鳥取末広座(株)
代表取締役 | 西川八重子
- ・(-財)TOPPAN三幸会
代表理事 | 金子真吾
- ・トヨタ自動車(株)
執行役員社長 CEO | 近 健太
- ・内外施設工業グループホールディングス(株)
代表取締役社長 | 林 克昌
- ・中銀グループ
代表 | 渡辺蔵人
- ・中山武之
- ・日鉄興和不動産(株)
代表取締役社長 | 三輪正浩
- ・日東紡績(株)
取締役会長 | 辻 裕一
- ・(株)日本アーティスト
代表取締役 | 幡野菜穂子
- ・(株)日本ヴァイオリン
代表取締役 | 中澤創太
- ・(株)日本カस्टディ銀行
代表取締役社長 | 土屋正裕
- ・(株)日本国際放送
代表取締役社長 | 前田浩志
- ・(株)日本政策投資銀行
代表取締役会長 | 太田 充
- ・日本たばこ産業(株)
代表取締役社長 | 筒井岳彦
- ・日本運通(株)
代表取締役社長 | 竹添進二郎
- ・日本通信(株)
代表取締役社長兼CEO
福田尚久
- ・日本電気(株)
取締役 代表執行役社長兼CEO
森田隆之
- ・日本BCP(株)
代表取締役社長 | 角谷育則
- ・(-財)日本放送協会共済会
理事長 | 竹添賢一
- ・日本みらいホールディングス(株)
代表取締役社長 | 安嶋 明
- ・日本郵政(株)
取締役兼代表執行役社長 | 根岸一行
- ・(株)ニトリホールディングス
代表取締役会長兼CEO | 似鳥昭雄
- ・(株)ニフコ
代表取締役社長 | 柴尾雅春
- ・野田浩一
- ・野村ホールディングス(株)
代表執行役社長 | 奥田健太郎
- ・パナソニック ホールディングス(株)
代表取締役 社長執行役員 グループCEO
楠見雄規
- ・原田清朗
- ・(株)原田武夫国際戦略情報研究所
代表取締役 | 原田武夫
- ・(有)パルフェ
代表取締役 | 伊藤良彦
- ・びあ(株)
代表取締役社長 | 矢内 廣
- ・(株)フォトロン
代表取締役 | 瀧水 隆
- ・福島小松フォークリフト(株)
代表取締役 | 四家英彦
- ・福田三千男
- ・富士通(株)
代表取締役社長 | 時田隆仁
- ・古川宣一
- ・ベプチドリーム(株)
代表取締役社長CEO | リード・パトリック
- ・(株)朋栄ホールディングス
代表取締役 | 清原克明
- ・(株)放送衛星システム
代表取締役社長 | 角 英夫
- ・(公)放送文化基金
理事長 | 濱田純一
- ・ホクト(株)
代表取締役 | 水野雅義
- ・ボラリス・キャピタル・グループ(株)
代表取締役社長 | 木村雄治
- ・前田工織(株)
代表取締役社長 | 前田尚宏

- ・牧 寛之
 - ・町田優子
 - ・松本満里子
 - ・丸紅(株)
代表取締役社長 | 大本晶之
 - ・溝江建設(株)
代表取締役 | 溝江 弘
 - ・三井住友海上火災保険(株)
代表取締役 | 海山 裕
 - ・(株)三井住友銀行
頭取 | 福留朗裕
 - ・三井住友信託銀行(株)
取締役社長 | 米山学朋
 - ・三井住友トラストクラブ(株)
代表取締役社長 | 山口信明
 - ・三菱商事(株)
代表取締役社長 | 中西勝也
 - ・三橋産業(株)
代表取締役会長 | 三橋洋之
 - ・三橋洋之
 - ・三原穂積
 - ・(株)ミロク情報サービス
代表取締役社長 | 是枝周樹
 - ・(学)武蔵野音楽学園 武蔵野音楽大学
理事長 | 福井直昭
 - ・明治ホールディングス(株)
代表取締役社長 CEO | 松田克也
 - ・(株)明電舎
代表取締役 執行役員社長 | 井上晃夫
 - ・メットライフ生命保険(株)
代表執行役 会長 社長 最高経営責任者
ディルク・オステイン
 - ・(株)目の眼
社主 | 櫻井 恵
 - ・(株)森エンジニアリング
代表取締役 | 森 豊洋
 - ・森ビル(株)
代表取締役社長 | 辻 慎吾
 - ・森平舞台機構(株)
代表取締役 | 森 健輔
 - ・山田産業(株)
代表取締役 | 山田裕幸
 - ・(株)ヤマハミュージックジャパン
代表取締役社長 | 松岡祐治
 - ・ユニオンツール(株)
代表取締役会長 | 片山貴雄
 - ・米澤文彦
 - ・(株)読売広告社
代表取締役社長 | 菊地英之
 - ・(株)読売旅行
代表取締役社長 | 岩上秀憲
 - ・リコージャパン(株)
代表取締役 社長執行役員 CEO | 笠井徹
 - ・料亭 三長
代表 | 高橋千善
 - ・(株)リンレイ
代表取締役社長 | 鈴木信也
 - ・(有)ルナ・エンタープライズ
代表取締役 | 白鳥正美
 - ・ローム(株)
代表取締役社長 社長執行役員 | 東 克己
 - ・(株)ワールド航空サービス
代表取締役社長 | 菊間陽介
 - ・YKアクロス(株)
代表取締役社長 | 堀内博人
- (五十音順、敬称略)

NHK交響楽団への ご寄付について

NHK交響楽団は多くの方々の貴重なご寄付に支えられて、積極的な演奏活動を展開しております。定期公演の充実をはじめ、著名な指揮者・演奏家の招聘、意欲あふれる特別演奏会の実現、海外公演の実施など、今後も音楽文化の向上に努めてまいりますので、みなさまのご支援をよろしくお願い申し上げます。

「賛助会員」入会のご案内

NHK交響楽団は賛助会員制度を設け、上記の方々にご支援をいただいております。当団の経営基盤を支える大きな柱となっております。会員制度の内容は次の通りです。

■当団は「公益財団法人」として認定されています。

当団は芸術の普及向上を行うことを主目的とする法人として「公益財団法人」の認定を受けているため、当団に対する寄付金は税制上の優遇措置の対象となります。

1. 会費：一口50万円(年間)
2. 期間：入会は随時、年会費をお支払いいただいたときから1年間
3. 入会の特典：「フィルハーモニー」、「年間パンフレット」、「『第9』演奏会プログラム」等にご芳名を記載させていただきます。
N響主催公演のご鑑賞や会場リハーサル見学の機会を設けます。

遺贈のご案内

資産の遺贈(遺言による寄付)を希望される方々のご便宜をお図りするために、NHK交響楽団では信託銀行が提案する「遺言信託制度」をご紹介します(三井住友信託銀行と提携)。相続財産目録の作成から遺産分割手続の実施まで、煩雑な相続手続を信託銀行が有償で代行いたします。まずはN響寄付担当係へご相談ください。

お問い合わせ

公益財団法人 NHK交響楽団「寄付担当係」

TEL：03-5793-8120

「N響100年」特別賛助会員

株式会社アイシン

株式会社あ佳音

朝日信用金庫

イーソリューションズ株式会社

岩谷産業株式会社

内 聖美

株式会社NHK テクノロジーズ

NGK株式会社

NTT東日本株式会社

カルチュア・エンタテインメント グループ株式会社

医療法人社団 恒仁会

小林 弘侑

佐藤 弘康

株式会社ジェイ・ウィル・コーポレーション

JCOM株式会社

信越化学工業株式会社

新菱冷熱工業株式会社

株式会社菅原

セイコーグループ株式会社

株式会社セノン

全日本空輸株式会社

東信地所株式会社

桐朋学園大学

一般財団法人 TOPPAN 三幸会

日東紡績株式会社

日本通信株式会社

日本みらいホールディングス株式会社

東日本旅客鉄道株式会社

古川 宣一

株式会社朋栄ホールディングス

ホクト株式会社

株式会社みずほ銀行

三菱地所株式会社

三橋産業株式会社

三橋 洋之

株式会社目の眼

米澤 文彦

株式会社読売旅行

料亭 三長

株式会社リンレイ

有限会社ルナ・エンタープライズ

YCC株式会社

(五十音順、敬称略)

「N響100年」個人サポーター

青木 恒雄
東 則仁
阿部 直子
阿部 直子
飯田 陽介
井口 一世
池田 太朗
石井 育子
石崎 隆
磯上 樹
板倉 由美子
市橋 敏行
出石 直
稲吉 務
今泉 美輪
歌川 博之
内山 その
内山 貴史
榎本 悠介
大川 啓太
大木 千秋
大谷 淳
大谷 明
大矢 菜穂子
岡井 良祐
岡本 誠
小川 芳幸
尾澤 勉
尾島 大樹

影井 良貴
加藤 充子
門脇 昌子
鎌谷 朝之
神谷 久寛
唐木田 信也
刈谷 敦子
川北 晃彦
川崎 昭久
川名 庸一
川鍋 義章
川原 真理子
川村 哲也
簡 妙芬
冠 和宏
岸 道郎
北見 欣一
亀徳 忠正
貴布根 弘篤
木村 達央
木村 素子
清谷 直樹
蔵並 慧
黒木 憲太郎
黒田 真二
河野 太
古賀 信行
湖口 和幸
小島 美智恵

児矢野 昌敬
小山 豊
今野 恵一郎
坂井 康柄
阪本 信次
櫻澤 仁
佐宗 孝樹
佐藤 圭子
佐藤 治彦
三戸 淳一
柴田 理佳子
白取 洋
新保 和浩
鈴木 忠明
鈴木 宏治
曾我 健
大門 匡
高木 功介
高田 康裕
高橋 正好
高原 俊二
田島 大輔
立石 知宏
田中 治郎
田中 伸幸
田中 正彦
張 嘉淵
津久井 秀郎
津々木 孝

恒川 雄三
時岡 明弘
轟 晴美
富永 純子
富永 龍太郎
長尾 公彦
中川 幸子
中村 秀哉
中村 幸雄
根本 昌代
根本 佳則
野島 浩司
野田 広
野武 一郎
野中 明人
配島 一善
林 尚美
原田 清朗
疋田 和代
檜山 隆
福井 真哉
福本 出
藤沼 竜也
藤森 博昭
船井 勝仁
古川 澄兄
真木 太郎
牧 廣美
町田 優子

松澤 和男
松信 正志
三井田 健
水上 慶太
三橋 祐太
三村 啓
宮崎 宏史
村井 暁子
村井 正浩
村上 純子
本 敬之
森山 雅一郎
柳原 隆司
藪下 真平
山口 剛史
山崎 雅彦
山下 史雄
山本 英一
横尾 順
四元 俊英
渡邊 貴子
渡邊 健
渡辺 徹郎

(五十音順、敬称略)

みなさまの声をお聞かせください！

インターネットアンケートにご協力ください

ご鑑賞いただいた公演のご感想や、N響の活動に対するみなさまのご意見を、ぜひお寄せください。ご協力をお願いいたします。

アクセス方法

STEP

1



スマートフォンで右のQRコードを読み取る。
またはURLを入力
<https://www.nhkso.or.jp/enquete.html>



STEP

2



開いたリンク先からアンケートサイトに入る

STEP

3



アンケートに答えて(約5分)、
「送信」を押して完了！

ほかにもご意見・ご感想がありましたらお寄せください。

定期公演会場の主催者受付にお持ちいただくか、

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49 NHK交響楽団 フィルハーモニー編集までお送りください。

ふりがな		年齢	歳
お名前		TEL	

個人情報の取り扱いについて

ご提供いただいた個人情報は、必要な場合、ご記入者様への連絡のみに使用し、他の目的に使用いたしません。

NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

Chief Conductor: Fabio Luisi

Music Director Emeritus: Charles Dutoit

Honorary Conductor Laureate: Herbert Blomstedt

Conductor Laureate: Vladimir Ashkenazy

Honorary Conductor: Paavo Järvi

Permanent Conductors: Tadaaki Otaka, Tatsuya Shimono

First Concertmaster: Sunao Goko, Kota Nagahara

Guest Concertmaster: Yosuke Kawasaki

1st Violins

- Shirabe Aoki
- Ayumu Iizuka
- Kyoko Une
- Yuki Oshika
- Ryota Kuratomi
- Ko Goto
- Tamaki Kobayashi
- Toshihiro Takai
- Taiga Tojo
- Yuki Naoi
- Yumiko Nakamura
- Takao Furihata
- Hiroyuki Matsuda
- Haruhiko Mimata
- Nana Miyagawa
- Tsutomu Yamagishi
- Koichi Yokomizo

2nd Violins

- ◎ Rintaro Omiya
- ◎ Masahiro Morita
- Maiko Saito
- Keiko Shimada
- Reika Shimizu
- Atsushi Shirai
- Akiko Tanaka
- Kirara Tsuboi
- Yosuke Niwa
- Kazuhiko Hirano
- Yoko Funaki
- Kenji Matano
- Ryuto Murao
- Masaya Yazu
- Yoshikazu Yamada
- Masamichi Yokoshima
- Yuka Yoneda

* Yui Yuhara

Violas

- ◎ Ryo Sasaki
- ◎ Junichiro Murakami
- ☆ Shotaro Nakamura
- Shigetaka Obata
- Eri Kuribayashi
- Gentaro Sakaguchi
- Mayumi Taniguchi
- Hiroto Tobisawa
- Hironori Nakamura
- Naoyuki Matsui
- Rachel Yui Mikuni
- # Yuya Minorikawa
- Ryo Muramatsu
- * Shiiori Wada

Cellos

- ◎ Rei Tsujimoto
- ◎ Ryoichi Fujimori
- Hiroya Ichi
- Yukinori Kobatake
- Miho Naka
- Ken'ichi Nishiyama
- Shunsuke Fujimura
- Koichi Fujimori
- Hiroshi Miyasaka
- Yuki Murai
- Yusuke Yabe
- Shunsuke Yamanouchi
- Masako Watanabe

Contrabasses

- ◎ Shu Yoshida
- Masanori Ichikawa
- Eiji Inagawa
- Jun Okamoto
- Takashi Konno
- Shinji Nishiyama
- Tatsuro Honma
- Yoko Yanai

Flutes

- ◎ Masayuki Kai
- ◎ Hiroaki Kanda
- Maho Kajikawa
- # Junji Nakamura

Oboes

- ◎ Shuhei Nakamura
- ◎ Yumi Yoshimura
- Shoko Ikeda
- Izumi Tsuboike
- Hitoshi Wakui

Clarinets

- ◎ Kei Ito
- ◎ Kenji Matsumoto
- * Hiroki Domen
- Takashi Yamane

Bassoons

- ◎ Hironori Ugajin
- ◎ Kazusa Mizutani
- Shusuke Ouchi
- Yuki Sato
- Itaru Morita

Horns

- ◎ Hitoshi Imai
- Naoki Ishiyama
- Yasushi Katsumata
- Hiroshi Kigawa
- Yudai Shoji
- Kazuko Nomiyama

◇ Nobuaki Fukukawa

Trumpets

- ◎ Kazuaki Kikumoto
- ◎ Tomoyuki Hasegawa

Tomoki Ando
Kotaro Fujii
Eiji Yamamoto

Trumpbones

- ◎ Hikaru Koga
- ◎ Mikio Nitta
- Ko Ikegami
- Hiroyuki Kurogane

Tuba

Yukihiro Ikeda

Timpani

- ◎ Shoichi Kubo
- ☆ Toru Uematsu

Percussion

Tatsuya Ishikawa
Hidemitsu Kuroda
Satoshi Takeshima

Harp

Risako Hayakawa

Stage Manager

Masaya Tokunaga

Librarians

Akane Oki
Hideyo Kimura

(◎ Principal, ◇ Guest Principal, ☆ Acting Principal, ○ Vice Principal, □ Acting Vice Principal, # Inspector, * Intern)

PROGRAM

A

Concert No. 2067

NHK Hall

June

13 (Sat) 6:00pm

14 (Sun) 2:00pm

conductor Jaap van Zweden

piano Conrad Tao

concertmaster Kota Nagahara

Richard Wagner
Die Meistersinger von Nürnberg—Vorspiel (The Mastersingers of Nuremberg—Prelude)
[9']

Wolfgang Amadeus Mozart
Piano Concerto No. 17 G Major
K. 453 [31']

- I Allegro
- II Andante
- III Allegretto

— intermission (20 minutes) —

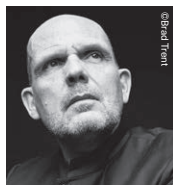
Béla Bartók
Concerto for Orchestra [40']

- I Introduzione: Andante non troppo – Allegro vivace
- II Giuoco delle coppie: Allegretto scherzando
- III Elegia: Andante non troppo
- IV Intermezzo interrotto: Allegretto
- V Finale: Pesante – Presto

- All performance durations are approximate.

Artist Profiles

Jaap van Zweden, conductor



Born in Amsterdam, Jaap van Zweden was appointed at age 19 the youngest-ever concertmaster of Amsterdam's Royal Concertgebouw Orchestra and began his conducting career almost twenty years later. He is currently Music Director of the Seoul Philharmonic Orchestra, Artist-in-Residence of Taiwan's Evergreen Symphony Orchestra, and Music Director-Designate of the Orchestre Philharmonique de Radio France, after serving as Music Director of the New York Philharmonic for six seasons and of the

Hong Kong Philharmonic Orchestra for twelve seasons. He remains Conductor Emeritus of the Antwerp Symphony Orchestra and Honorary Chief Conductor of the Netherlands Radio Philharmonic Orchestra.

He has guest conducted the Orchestre de Paris, Royal Concertgebouw Orchestra, Gewandhausorchester Leipzig, Berliner Philharmoniker, Staatskapelle Berlin, Orchestra dell'Accademia Nazionale di Santa Cecilia, London Symphony Orchestra and others. This season has seen a deepening of his relationship with the Chicago Symphony Orchestra in Chicago and on a European tour. His presence as leading light in the Asian classical music scene has been underscored this season by appearances with orchestras in Beijing, Shanghai and Guangzhou.

His long-awaited NHK Symphony Orchestra debut will enable us to enjoy a program around Bartók's *Concerto for Orchestra* that he conducted in Chicago, New York and at his debut with the Berliner Philharmoniker. As for the *Prelude* from *Die Meistersinger von Nürnberg* with which he will open today's concert, he famously excels as a Wagner conductor. Indeed, he led the Hong Kong Philharmonic Orchestra in first-ever performances in Hong Kong of the composer's *Ring Cycle*. His acclaimed performances of *Lohengrin*, *Die Meistersinger von Nürnberg*, and *Parsifal* – the last of which earned him the prestigious Edison Award for Best Opera Recording in 2012 – are also available on CD and DVD.

A

13 & 14 JUNE 2026

Conrad Tao, piano



Born in 1994, Conrad Tao is an American pianist and composer celebrated for his boundary-defying artistry as well as his powerful performances of traditional repertoire. Recipient of the Avery Fisher Career Grant and the Gilmore Young Artist Award, he was extolled by *New York Magazine* as “the kind of musician who is shaping the future of classical music,” and by *The New York Times* for his “probing intellect and open-hearted vision.”

In the current season he performs with the Chicago Symphony Orchestra under Karina Canellakis, the Los Angeles Philharmonic under Marin Alsop, and the New York Philharmonic under Santtu-Matias Rouvali; he also joins Matthias Pintscher and the Konzerthausorchester Berlin for Pintscher's *NUR*. Recent highlights include his return to Carnegie Hall with Debussy's *12 Études* and his original composition *Keyed In*, as well as appearances with the Boston Symphony Orchestra, Cleveland Orchestra, Seoul Philharmonic Orchestra, and Philadelphia Orchestra. In 2024, he toured Europe with Pintscher and the Kansas City Symphony to mark the 100th anniversary of *Rhapsody in Blue*.

As a composer, his orchestral work *Everything Must Go* premiered with Jaap van Zweden conducting the New York Philharmonic.

This is his first collaboration with the NHK Symphony Orchestra, alongside van Zweden who praises his talent and frequently collaborates with him.

Richard Wagner (1813–1883)

Die Meistersinger von Nürnberg—Vorspiel ***(The Mastersingers of Nuremberg—Prelude)***

German Romantic composer Richard Wagner founded Musikdrama (music drama) as represented by his four-part *Der Ring des Nibelungen* (*The Ring of the Nibelung*). In this operatic genre for which he wrote both libretto and music, the drama and the music are indissolubly united on an unprecedented level, especially by the scrupulous use of the numerous leitmotifs (recurrent melodic or/and harmonic elements associated with certain character, feeling, setting or so).

Premiered in 1868 in Munich, *Die Meistersinger von Nürnberg* (*The Mastersingers of Nuremberg*) is the only comedy among Wagner's music dramas, although it far exceeds the genre taking the tradition and innovation of the art as its subject on a heroic scale. It took two decades for him to complete it since he worked on the first draft of the libretto in 1845.

Mastersingers are German craftsmen from the 15th and 16th centuries who were also amateur but masterful poet-composer-singers. Set in the mid-16th century and based in historical facts, the story features Nuremberg's mastersingers including humane shoemaker Hans Sachs (1494–1576), and reaches its climax with their song-creating contest. Overall the music is diatonic compared to Wagner's music drama *Tristan und Isolde* (1859) well-known for its chromatic, tonally ambiguous harmony.

The *Prelude* of *Die Meistersinger* reveals several important leitmotifs from the music drama proper. The opening melody in C major is the majestic Motif of the Mastersingers, and soon we hear the brassy and bouncy Motif of the Mastersingers' March from the scene of their arrival at the contest (Act 3). These motifs will be splendidly restated in a contrapuntal (polyphonic) way towards the end of this optimistic *Prelude*.

Wolfgang Amadeus Mozart (1756–1791)

Piano Concerto No. 17 G Major K. 453

An independent mind, Wolfgang Amadeus Mozart blazed a trail for the new lifestyle of musicians when he went freelance in 1781 after serving the Salzburg court. During the last decade of his short life before his death in 1791, he, now based in Vienna, earned his daily bread by composing, performing concerts, giving private lessons and having his works published.

Concerto for piano solo was the most important genre for Mozart to shine in the city's music scene both as a composer and pianist (since he was a wunderkind, piano was the instrument he excelled at the most). He wrote in Vienna as many as six numbered piano concertos (No. 14 K. 449 – No. 19 K. 459) only in 1784 and six more (No. 20 K. 466 – No. 25 K. 503) in 1785–86 to stylistically perfect the Classical piano concerto. They will be followed sporadically by No. 26 K. 537 *Coronation* (1788) and No. 27 K. 595

(1791), his last piece of the genre.

Except for No. 4 K. 41, an arrangement of other composers' pieces, No. 17 K. 453 is Mozart's only numbered piano concerto written in G major. It was composed as a commission from Barbara Ployer (1765–1811), one of his favorite piano-composition pupils. This teenage talented pianist supposedly first performed it in 1784 at the residence of her uncle Gottfried Ignaz von Ployer, the Salzburg court's agent in Vienna.

The most frequently mentioned of this concerto is the last movement. Instead of being in rondo form as was customary, this finale is written as the theme and its five variations. Especially, the dim fourth variation and the bright fifth variation make a sharp contrast, prior to an operatic coda. The cheerful staccato theme, given at the beginning of the movement, has repeatedly reminded commentators of the musical character of lovable Papageno the Bird-Catcher from Mozart's opera *Die Zauberflöte* (*The Magic Flute*) (1791). There is an anecdote that one month after composing No. 17, Mozart got a starling which was able to sing this theme and cherished it for three years.

Béla Bartók (1881–1945)

Concerto for Orchestra

Hungarian composer Béla Bartók was also an accomplished pianist and a leading ethnomusicologist who collected and analyzed numerous folk melodies mainly of Eastern Europe. He, although not Jewish, left Europe in 1940 to protest the Nazis. On the east coast of America, his new home, he ended up becoming terminally ill and enduring the hardships of poverty. The progressive works he had composed in Europe weren't in high favor with the American music world, he couldn't gain piano performance engagements sufficiently, and the war prevented him from receiving royalties from Europe. After a battle with leukemia, he passed away in New York in September 1945.

Despite the difficulties, a handful of his compositions from this period are incredibly inspiring. Among those who rendered a generous help to Bartók was the American Society of Composers, Authors and Publishers (ASCAP). Although he was not a member, the ASCAP bore his medical expenses and saw to it that he could recover and compose at Saranac Lake in New York State and Asheville in North Carolina.

Another figure who offered his help was Serge Koussevitzky, then the Conductor of the Boston Symphony Orchestra. Hearing from Hungarian violinist Joseph Szigeti about Bartók, Koussevitzky visited the composer in hospital in May 1943 and requested him to write a new work with an exceptionally large amount of commission fees. Driven by creative enthusiasm, Bartók composed the *Concerto for Orchestra* at Saranac Lake at an inconceivable speed. It had the warmly-received world premiere in December 1944 in Boston with Koussevitzky conducting his orchestra. Attending the event, Bartók found the coda to be abrupt, which would be his main concern at the revision of the piece in 1945.

In the *Concerto for Orchestra*, each section of the orchestra plays a soloistic role rather than focusing on accompanying a single solo instrument, in the tradition of the works of the same title by Paul Hindemith (1925) and Zoltán Kodály (1940). Bartók's takes a symmetrical five-movement structure, and according to his program note, the work's mood

A

13 & 14 JUNE 2026

gradually progresses from the “sternness” of the first movement *Introduzione (Introduction)* and the “lugubrious death-song” of the central third movement *Elegia (Elegy)*, to the “life-assertion” of the fifth movement *Finale*. Opened and closed by a side drum (without snares), the scherzo-like second movement *Giuoco delle coppie (Game of Pairs)* has different pairs of wind instruments perform one after the other as the title suggests. The fourth movement *Intermezzo interrotto (Interrupted intermezzo)* famously quotes, during the cynical central “interruption” section, the march theme of “invasion” from Dmitri Shostakovich’s Symphony No. 7 *Leningrad*. The symphony had a high popularity then in the United States following the broadcasted American premiere given by Arturo Toscanini conducting the NBC Symphony Orchestra in July 1942.

A

13 & 14, JUNE, 2026

Kumiko Nishi

English-French-Japanese translator based in the USA. Holds a MA in musicology from the University of Lyon II, France and a BA from the Tokyo University of the Arts (Geidai).

B

Concert No.2066

Suntory Hall

June

4 (Thu) 7:00pm

5 (Fri) 7:00pm

conductor

Stéphane Denève

mezzo soprano

Gaëlle Arquez

concertmaster

Julien Szulman♦

♦ **Julien Szulman:** Julien Szulman began playing the violin at the age of 5. In 2006, he obtained his DFS from the Conservatoire National Supérieur de Musique et de Danse de Paris (CNSMDP), with unanimous acclaim, and continued his studies with Jean-Jacques Kantorow and Pierre-Laurent Aimard in the advanced cycle at the CNSMDP. After a Konzerexamen at the Hochschule für Musik Hanns Eisler Berlin in Stephan Picard's class, he obtained his doctorate in "Research and Practice" from the CNSMDP-Sorbonne Université in 2024. As concertmaster, he has played with numerous international orchestras, including the London Symphony Orchestra, the Mito Chamber Orchestra, the Orchestre de la Suisse Romande and the Orchestre de Paris. He is currently a violin professor at the CNSMDP.

Arthur Honegger***Pastorale d'été*, symphonic poem*****(Summer Pastoral)*** [8']**Hector Berlioz*****Les nuits d'été*, songs Op. 7*****(Summer Nights)*** [31']

- I Villanelle
- II Le Spectre de la rose
- III Sur les lagunes
- IV Absence
- V Au cimetière
- VI L'île inconnue

— intermission (20 minutes) —

Jacques Ibert***Escales (Ports of Call)*** [14']

- I Rome – Palermo
- II Tunis – Nefta
- III Valencia

Claude Debussy***La mer*, three symphonic sketches*****(The Sea)*** [25']

- I De l'aube à midi sur la mer
- II Jeux des vagues
- III Dialogue du vent et de la mer

- All performance durations are approximate.

Stéphane Denève, conductor



French conductor Stéphane Denève is Music Director of the St. Louis Symphony Orchestra, Artistic Director of the New World Symphony and Principal Guest Conductor of the Netherlands Radio Philharmonic Orchestra. He previously served as Principal Guest Conductor of The Philadelphia Orchestra, Chief Conductor of the Brussels Philharmonic, Chief Conductor of the SWR Symphonieorchester and Music Director of the Royal Scottish National Orchestra.

A graduate of the Paris Conservatoire, he worked closely in his early career with Sir Georg Solti, Georges Prêtre and Seiji Ozawa.

Recent engagements include appearances with the Berliner Philharmoniker, Symphonieorchester des Bayerischen Rundfunks, Wiener Symphoniker, Royal Concertgebouw Orchestra, BBC Symphony Orchestra (BBC Proms), Royal Stockholm Philharmonic Orchestra (2020 Nobel Prize concert), Orchestre national de France and the Orchestre philharmonique de Radio France. He made his Carnegie Hall debut with the Boston Symphony Orchestra, and subsequently conducted the annual gala with The Philadelphia Orchestra, John Williams and Yo-Yo Ma. In 2022, he led the official 90th Birthday Gala for John Williams at the Kennedy Center with the National Symphony Orchestra. In 2023, he conducted the Saito Kinen Orchestra of the Seiji Ozawa Matsumoto Festival at Tokyo's Suntory Hall alongside John Williams.

In the field of opera, he has led productions at the Royal Opera House, Opéra national de Paris, Teatro alla Scala, Deutsche Oper Berlin, Dutch National Opera (including a new production of *Pelléas et Mélisande* with the Royal Concertgebouw Orchestra for the Holland Festival).

Since his 2015 debut, he has deepened his relationship with the NHK Symphony Orchestra. This time, the expert of his homeland's music will conduct the French program featuring Berlioz, Debussy, Honegger and Ibert.

Gaëlle Arquez, mezzo soprano



French mezzo-soprano Gaëlle Arquez is one of the most prominent opera stars. After graduating from the Paris Conservatoire, she made her debut at the Opéra national de Paris in Michael Haneke's production of *Don Giovanni* (Zerlina) under the direction of Philippe Jordan. She has since established herself on the international stage, performing in leading opera houses including the Metropolitan Opera, Teatro alla Scala,

Royal Opera House, Staatsoper Berlin, Theater an der Wien, Wiener Staatsoper and the Opéra national de Paris.

She has earned international acclaim for the breadth and versatility of her repertoire, with particular distinction in her signature role of Carmen. In the current season, she made her debut at the Grand Théâtre de Genève as Isabella in Julien Chavaz' new production of *L'Italiana in Algeri* under the baton of Michele Spotti.

Recent concert highlights include Chausson's *Poème de l'amour et de la mer* with

the Wiener Symphoniker, Ravel's *Scheherazade* with the Orchestre Philharmonique de Monte-Carlo, and Iphigénie in Gluck's *Iphigénie en Tauride* in a semi-staged production at the Elbphilharmonie in Hamburg under Thomas Hengelbrock.

At her highly anticipated Japanese debut with the NHK Symphony Orchestra conducted by her compatriot Stéphane Denève, she will sing Berlioz's French song cycle *Les nuits d'été*.

Program Notes

Arthur Honegger (1892–1955)

***Pastorale d'été*, symphonic poem (*Summer Pastoral*)**

Born to Swiss parents in northern France, Arthur Honegger studied music in German-speaking Zurich, Switzerland, and at the Paris Conservatoire. Together with Darius Milhaud (1892–1974), Francis Poulenc (1899–1963) and others, young Honegger formed in 1916 “Les Six (The Six)”, the Parisian avant-garde group worshipping Satie's simple language against all sorts of German late-Romantic excess. Nevertheless, Honegger's individual taste and style partly due to his dual Swiss-French identity made him stand out as unique: he professed his admiration for Richard Wagner – an enemy of “Les Six” – , besides owing a great deal to Richard Strauss and, above all, J. S. Bach.

Honegger is well-known for his large-scale works such as the incidental music *Le roi David (The King David)* (1921), modernist *Pacific 231* (1923), mystic oratorio *Jeanne d'Arc au bûcher (Joan of Arc at the Stake)* (1935) and the serious Symphony No. 3 *Liturgique (Liturgical)* (1946). Smaller-scale and Impressionistic, the symphonic poem *Pastorale d'été (Summer Pastoral)* from Honegger's early years presents us another side to his style. It was written in the summer of 1920 when the twenty-eight-year-old composer spent his vacation at the picturesque Alpine village Wengen in Switzerland.

The score is headed with “J'ai embrassé l'aube d'été (I embraced the summer dawn)”, a quote from French poet Arthur Rimbaud's poem *Aube (Dawn)*. The music in A–B–A' form first gives a bucolic tune on a horn, and the central B section, marked “lively and joyous”, starts with the winds singing a danceable folkish melody.

Hector Berlioz (1803–1869)

***Les nuits d'été*, songs Op. 7 (*Summer Nights*)**

Born in south-eastern France and trained at the Paris Conservatoire, Hector Berlioz laid the groundwork for Romanticism in music. For him, music was inseparably linked to the poetic, the dramatic and the programmatic. His *Symphonie fantastique (Fantastic Symphony)* (1830) pioneered the symphonic (tone) poem, a Romantic genre that Franz Liszt (1811–1886) would soon invent. Berlioz's novel works would also pave a path for the Musikdrama (music drama) and leitmotifs of Richard Wagner (1813–1883).

Originally, Berlioz composed *Les nuits d'été* (*Summer Nights*) for voice and piano in 1840–1841. This delicate song cycle comprises six settings of poems from the collection *La comédie de la mort* (*The Comedy of Death*) by Théophile Gautier (1811–1872), one of the French Romantic poets whom the composer deepened a friendship with. Berlioz, the author of a historical orchestration treatise (1843), orchestrated the fourth song “Absence” in 1843 for French-Spanish singer Marie Recio (his future second wife) so she could sing it during his important German tour from December 1842 to May 1843. For publication as a set, he arranged the remainder for voice and orchestra in 1855–1856.

I Villanelle celebrates the return of spring, “the month blessed by lovers.” **Dimmer, II Le Spectre de la rose** (*The Specter of the Rose*) has a rose’s wraith talk to a maiden on whose breast he has found his tomb. **III Sur les lagunes** (*On the Lagoons*) is a lament by a sailor whose sweetheart is dead. “Over me the immense night spreads out like a shroud. I sing my romance that heaven alone hears”. **IV Absence** is about lost love. A man grieves over the absence of his ex-lover and the distance between their hearts. **V Au cimetière** (*At the Cemetery*) describes a pale dove, sad and lonely, singing a plaintive song at sunset at the white tomb. Contrastive, **VI L’île inconnue** (*The Unknown Isle*) is a friendly barcarole inviting a young beauty to sail: “Take me, says the beauty, to the faithful shore where love lasts forever!”

Jacques Ibert (1890–1962)

Escales (Ports of Call)

Born in Paris during the Belle Époque, Jacques Ibert entered the Paris Conservatoire in 1910 where his counterpoint and orchestration teacher André Gedalge (who had trained Ravel) influenced him greatly. It was in Gedalge’s class that Ibert met Darius Milhaud (1892–1974) and above-mentioned Arthur Honegger (1892–1955); with Francis Poulenc (1899–1963) and three other composers, Milhaud and Honegger would soon form “Les Six (The Six).” While this forward-thinking circle livened up Paris until the early 1920s, Ibert was mostly absent from the capital. During the First World War, he went to the front as a nurse first, before being sent to the French northern coast as a naval officer. Then immediately after the war, he won the Prix de Rome (a prestigious scholarship) in 1919 to stay in Rome from 1920 to 1923.

A product of this Italian sojourn, *Escales (Ports of Call)* (1922) was premiered in Paris by the Orchestre Lamoureux in 1924 to high praise. Inspired by the composer’s Mediterranean cruise, this vivid orchestral triptych sets sail from Rome for Sicily, first (**I Rome – Palermo**): muted violins and a flute commence a Debussyan waterscape, and a trumpet subsequently announces the lively Italian folk dance “tarantella.” **II Tunis – Nefta** reproduces an Arabic “desertscape” with the oboe’s snake-charmer-like meandering tune. **III Valencia** describes a festive scene of the Iberian port town with the rhythms of the Spanish folk dance “seguidilla” as well as castanets and guitar-inspired string effects.

***La mer*, three symphonic sketches (*The Sea*)**

By leaving the traditional language in terms of harmony, form and tone color, French composer Claude Debussy had a great influence on music history in the 20th century. His *La mer* (*The Sea*) is often described as a representative example of Impressionist music, despite his dislike of the label. As a reaction against excessively emotional music of the late Romantic period, Impressionism in music is characterized by more objective approaches and suggestion of atmosphere or feeling.

A great lover of the ocean, Debussy confessed in a letter, “I was destined for the lovely career of a sailor, and only a quirk of fate led me to another path.” Completed in 1905, *La mer* paints a vivid picture of a mighty ocean changing every moment as the subtitle (“Three Symphonic Sketches”) hints. Nevertheless, this music rises above descriptive, programmatic music. Indeed, the novelty of the work resides in its rigid but unconventional structure with cyclic themes (mentioned below) and a minute motivic manipulation, which is the reason why it is often compared to a modern three-movement symphony.

I *De l’aube à midi sur la mer* (*From Dawn to Noon on the Sea*) has a harmonically ambiguous introduction where two cyclic themes (recurrent elements unifying the whole work) are heard: a sliding-upward motif of two notes repeated by cellos at the beginning, and a fanfare-like sinuous melody revealed softly by English horn and trumpet. The main section in D-flat major becomes animated gradually and reaches its climax with brilliant brass. **II** *Jeux de vagues* (*Play of the Waves*) is an intricately constructed yet jolly scherzo, fitful like water in constant change. **III** *Dialogue du vent et de la mer* (*Dialogue of the Wind and the Sea*) is a turbulent dialogue of which the main theme, a chromatically rising motif, is introduced by low strings at the start. In addition, this movement recalls the two cyclic themes in different ways with different instrumentation. The triptych ends at a high volume, which is unusual for Debussy, with the magnificent coda animated by the cyclic themes.

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 84

PROGRAM

C**Concert No. 2068****NHK Hall****June****19 (Fri) 7:00pm****20 (Sat) 2:00pm**

conductor Tadaaki Otaka**violin** HIMARI**concertmaster** Kota Nagahara

Jean Sibelius
Andante festivo [5']**Jean Sibelius**
Violin Concerto D Minor Op. 47
[35']

- I Allegro moderato
- II Adagio di molto
- III Allegro, ma non tanto

— intermission (20 minutes) —

Sergei Rakhmaninov
Symphony No. 3 A Minor Op. 44
[41']

- I Lento – Allegro moderato
- II Adagio ma non troppo – Allegro vivace
- III Allegro

- All performance durations are approximate.

Artist Profiles

Tadaaki Otaka, conductor

Long esteemed as one of Japan's finest conductors, Tadaaki Otaka has been Permanent Conductor of the NHK Symphony Orchestra since 2010. He is currently Music Director of the Osaka Philharmonic Orchestra, Laureate Conductor of the Sapporo Symphony Orchestra, Conductor Laureate of the Tokyo Philharmonic Orchestra, Honorary Guest Conductor of the Yomiuri Nippon Symphony Orchestra and Honorary Conductor Laureate of the Kioi Hall Chamber Orchestra.

Born as a son of composer and conductor Hisatada Otaka, he studied with Hideo Saito in Tokyo before honing his skills in Vienna. He made his professional broadcasting debut in 1971 with the NHK Symphony Orchestra with which he toured China in 2012 to commemorate forty

years of the normalization of diplomatic ties between Japan and China.

A familiar figure on podiums throughout the world, he is particularly known in the UK with a distinguished tenure as Principal Conductor of the BBC National Orchestra of Wales from 1987 to 1995. After making his Proms debut in 1988, he was awarded the CBE in 1997 and became the first Japanese ever to receive the prestigious Elgar Medal from the Elgar Society in 2000. He has received invitations to the London Symphony Orchestra, Rundfunk-Sinfonieorchester Berlin, hr-Sinfonieorchester Frankfurt, Bamberger Symphoniker, Oslo Philharmonic and others.

This time, he and the NHK Symphony Orchestra will perform Rakhmaninov's Symphony No. 3 for the first time. Known as a leading specialist of Sibelius, he will also conduct the composer's Violin Concerto alongside the teenage virtuoso HIMARI as the soloist.

HIMARI, violin



Born in 2011 in Japan, HIMARI has been described as a once-in-a-generation talent, for her incredible technique, playful and imaginative interpretations, and ability to convey emotional depth. She became the youngest student admitted to the prestigious Curtis Institute of Music in Philadelphia, where she studies with Ida Kavafian.

Last season, she received widespread acclaim for her European debut with the Berliner Philharmoniker. In the current season, she debuts at the Ravinia Festival with the Chicago Symphony Orchestra, and with the London Philharmonic Orchestra at the Royal Festival Hall.

She has won top prizes in numerous international competitions, including the Lipinski & Wieniawski International Violin Competition (Grand Prix), Arthur Grumiaux International Violin Competition, Andrea Postacchini International Violin Competition, and the Schelkunchik International Music Competition. She became the youngest performer at the Salzburg Festival in 2019, and won the Public Award at the Mini Violini in Montreal in 2023.

She made her sensational debut with the NHK Symphony Orchestra in 2023 playing Paganini's Violin Concerto No. 1. For her reunion with the orchestra, she will serve as the soloist of Sibelius's Violin Concerto that she performed with the Orchestre de la Suisse Romande led by Jonathan Nott during their 2025 Japanese tour.



19 & 20 JUNE 2026

Jean Sibelius (1865–1957)

Andante festivo

Finnish composer Jean Sibelius left his double mark on music history, as an important symphonist following the pan-European tradition and as the establisher of the Finnish national identity in music. He left us seven completed symphonies and one concerto (discussed below), while in the field of the symphonic (tone) poem, he derived inspiration from the country's nature, history or literature to create masterpieces including *Four Legends from the Kalevala (Lemminkäinen Suite)* premiered in 1896 and *Finlandia* (1899/1900).

Sibelius established his international reputation during his lifetime and passed away in 1957 at age 91. Unexpectedly, his last major work *Tapiola* was composed as early as in 1926. He then bowed himself out of full-blown creative activities for thirty odd years, during which he famously burned the manuscript of his unfinished Symphony No. 8 through self-criticism.

Performed today, the version for string orchestra (with timpani as an option) of *Andante festivo (Festive Andante)* dates from this retreat period. It was originally a string quartet written in 1922 as a commission to mark the anniversary of a sawmill in Finland. He re-orchestrated the work for string orchestra in 1938 to conduct it the following year for a radio broadcast (Sibelius's only existing recording of his own work). This single-movement piece is, contrary to the title, of awe-inspiring solemnity. The placid main theme given at the start in G major recurs in various forms, and the piece concludes in a plagal "Amen" cadence like a hymn.

Jean Sibelius

Violin Concerto D Minor Op. 47

Sibelius bloomed relatively late as a composer. Born in Finland, then a part of the Russian Empire, he received only a few piano lessons when he was around 7 and began to get violin training at age 15. He soon formed a trio at home with his siblings and started to play in a string quartet. The young violinist made quick progress, whilst a harmony book given to sixteen-year-old Sibelius as a gift in the summer of 1882 led to the composition of one of his earliest works.

Sibelius studied violin further at the Helsinki Music Institute from 1885 to 1889, taking private composition lessons. He then honed his composition skills in Berlin and Vienna. According to a well-known anecdote, he didn't pursue a concert violinist career because of, besides his blossoming talent for composition, an intense stage fright he suffered from.

The Violin Concerto in D minor is the only concerto the prolific composer left us. It was completed in 1904 between the Symphony No. 2 (1901) and No. 3 (1907). Following the 1904 premiere conducted by the composer and some additional performances receiving mixed reviews, he revised it in 1905.

Sibelius' Violin Concerto is abundant in unconventional approaches to the genre. Not surprisingly, the capable-violinist composer fills the solo part with highly demanding techniques such as the double or triple stops (playing two or three notes simultaneously). Meanwhile, Sibelius attaches the same weight to the soloist and the orchestra to create a finely designed symphonic architecture. The first movement of considerable length is in flexible sonata form with three themes. Against our expectation, the soloist doesn't give a grand cadenza (a virtuosic solo without orchestra) towards the end but in the middle of the movement immediately after the exposition of the themes. The lyrical second movement in A-B-A form is followed by the finale, a vigorously folkish rondo with the rhythmical main theme introduced by the violin solo at the beginning.

Sergei Rakhmaninov (1873–1943)

Symphony No. 3 A Minor Op. 44

Russian composer Sergei Rakhmaninov passed away in exile in California, USA, in 1943 during the height of World War II. His reliance on the Western 19th-century Romantic idioms was always unswerving until his final compositional phase, as shown in his last work *Symphonic Dances* (1940). In fact, he followed the footsteps of his idol Peter Ilich Tchaikovsky (1840–1893) who trained Anton Arensky (1861–1906), Rakhmaninov's harmony teacher. Music history textbooks have often contrasted Rakhmaninov with his two progressive compatriots, Alexander Scriabin (1872–1915), his schoolfellow who created the so-called "mystic chord", and Igor Stravinsky (1882–1971) whose different styles were invariably ahead of the curve.

Born into a Russian noble family, Rakhmaninov composed the Symphony No. 1 (1895) and No. 2 (1907) before he bid an eternal farewell to his motherland following the 1917 Bolshevik Revolution. Like the cliché, his life was stranger than fiction. With all his possessions left behind and at the risk of his life, he departed Petrograd (Saint Petersburg) for good with his wife, two daughters and only a few scores. They arrived in Stockholm via Finland, and then lived in Copenhagen for some time. Having a family to support abroad, from then he devoted himself to appear on concert stages going back and forth between Europe and USA as one of the greatest pianists of the century.

The Symphony No. 3 is hence one of only six opus-numbered works the busy piano virtuoso wrote during a quarter of a century of his life in exile. It was composed in 1935–1936 mostly at the Villa Senar that he built on Lake Lucerne, Switzerland, and named so after the couple's names **Sergei** and **Natal'ya Rakhmaninov**. It is not hard to imagine that the stunning view and the silence the villa offered to him greatly inspired his pen. The piece had its premiere in 1936 in Philadelphia, USA, under the direction of Leopold Stokowski.

The Symphony No. 3 is profoundly Romantic as with Rakhmaninov's two pre-exile symphonies. However, it also shows his pursuit of rhythmical vibrancy characteristic of his later compositions. Before the main sonata vigorously bursts into, the opening movement has a brief melancholic introduction revealing a motif reminiscent of the *Dies Irae* (*Day of*

C

19 & 20 JUNE 2026

Wrath) melody (mentioned later). This motif will be reused at pivotal points of the entire work as a unifying element. The symphony is atypically in three movements, notwithstanding the slow second movement in C-sharp minor has the scherzo-like section with buoyant rhythms midway. Commonly known is that during the valiant final movement, the *Dies Irae* melody from the Catholic Mass for the Dead is heard more distinctly. Symbolic of death and/or resurrection, the melody is famously present in the composer's many works including the Symphonies No. 1 and No. 2.

C

19 & 20 JUNE 2026

Kumiko Nishi

For a profile of Kumiko Nishi, see p. 84

The Subscription Concerts Program 2026–27

2026 09	A	Concert No. 2069	NHKSO 100th Anniversary	Ordinary	Youth
		September	Franz Schmidt <i>Das Buch mit sieben Siegeln</i> , oratorio (<i>The Book with Seven Seals</i>)	S 15,000	S 7,000
		12 (Sat) 6:00pm 13 (Sun) 2:00pm	Fabio Luisi, conductor Michael Laurenz, tenor (Johannes) David Steffens, bass (Voice of God) Miho Sakoda, soprano Asami Fujii, mezzo soprano Tatsundo Ito, tenor Hirotaka Kato, bass Eri Niiyama, organ New National Theatre Chorus, chorus	A 12,500 B 10,000 C 8,000 D 6,500 E 4,500	A 6,000 B 5,000 C 4,000 D 3,000 E 2,000
		NHK Hall			
	B	Concert No. 2070	Weber <i>Oberon</i> , opera – Overture	Ordinary	Youth
		September	Brahms Violin Concerto D Major Op. 77	S 12,000	S 6,000
		17 (Thu) 7:00pm 18 (Fri) 7:00pm	Schumann Symphony No. 4 D Minor Op. 120 (Revised Version)	A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750
		Suntory Hall	Fabio Luisi, conductor Augustin Hadelich, violin		
	C	Concert No. 2071	NHKSO 100th Anniversary: Beethoven Symphony Cycle 1	Ordinary	Youth
		September	Beethoven Symphony No. 1 C Major Op. 21	S 12,000	S 6,000
		25 (Fri) 7:00pm 26 (Sat) 2:00pm	Beethoven Symphony No. 3 E-flat Major Op. 55, <i>Eroica</i> (<i>Heroic Symphony</i>)	A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500 E 3,300	A 5,000 B 3,600 C 3,250 D 1,900 E 1,600
		NHK Hall	Fabio Luisi, conductor		
2026 10	A	Concert No. 2072	Bruckner Symphony No. 5 B-flat Major	Ordinary	Youth
		October		S 15,000	S 7,000
		17 (Sat) 6:00pm 18 (Sun) 2:00pm	Herbert Blomstedt, conductor Matthias Bamert, cover conductor	A 12,500 B 10,000 C 8,000 D 6,500 E 4,500	A 6,000 B 5,000 C 4,000 D 3,000 E 2,000
		NHK Hall			
	B	There will be no subscription concerts of Program B in October due to special concerts.			
	C	Concert No. 2073	NHKSO 100th Anniversary: Beethoven Symphony Cycle 2	Ordinary	Youth
		October	Beethoven <i>Egmont</i> , incidental music Op. 84 – Overture	S 11,000	S 5,500
		23 (Fri) 7:00pm 24 (Sat) 2:00pm	Beethoven Symphony No. 8 F Major Op. 93 Beethoven Symphony No. 5 C Minor Op. 67	A 9,500 B 7,600 C 6,000 D 5,000 E 3,000	A 4,500 B 3,500 C 2,800 D 1,800 E 1,400
		NHK Hall	Christoph Eschenbach, conductor		
2026 11	A	Concert No. 2074	Prokofiev Violin Concerto No. 1 D Major Op. 19	Ordinary	Youth
		November	Shostakovich Symphony No. 8 C Minor Op. 65	S 12,000	S 6,000
		7 (Sat) 6:00pm 8 (Sun) 2:00pm	Tugan Sokhiev, conductor Mayuko Kamio, violin	A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500 E 3,300	A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 1,900 E 1,600
		NHK Hall			
	B	Concert No. 2076	Rakhmaninov Piano Concerto No. 2 C Minor Op. 18	Ordinary	Youth
		November	Tchaikovsky <i>The Nutcracker</i> , ballet Op. 71 (Selected by Tugan Sokhiev)	S 12,000	S 6,000
		19 (Thu) 7:00pm 20 (Fri) 7:00pm	Tugan Sokhiev, conductor Alexandre Kantorow, piano	A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500	A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 2,750
		Suntory Hall			
	C	Concert No. 2075	NHKSO 100th Anniversary: Beethoven Symphony Cycle 3	Ordinary	Youth
		November	Beethoven <i>Coriolan</i> , overture Op. 62	S 12,000	S 6,000
		13 (Fri) 7:00pm 14 (Sat) 2:00pm	Beethoven Symphony No. 2 D Major Op. 36 Beethoven Symphony No. 6 F Major Op. 68, <i>Pastoral</i>	A 10,000 B 8,000 C 6,500 D 5,500 E 3,300	A 5,000 B 4,000 C 3,250 D 1,900 E 1,600
		NHK Hall	Tugan Sokhiev, conductor		

The Subscription Concerts Program 2026–27

2026 12	A	<p>Concert No. 2077</p> <p>November</p> <p>28 (Sat) 6:00pm 29 (Sun) 2:00pm</p> <p>Program A of the December subscription concerts will be held in November.</p> <p>NHK Hall</p>	<p>NHKSO 100th Anniversary</p> <p>Falla <i>El sombrero de tres picos</i>, ballet suite No. 2 (<i>The Three-Cornered Hat</i>)</p> <p>Ravel Piano Concerto G Major</p> <p>Berlioz <i>Symphonie fantastique</i>, Op. 14 (<i>Fantastic Symphony</i>)</p> <p>Charles Dutoit, conductor Martha Argerich, piano</p>	<p>Ordinary Youth</p> <p>S 17,000 S 8,500 A 14,500 A 7,000 B 11,500 B 5,500 C 9,500 C 4,500 D 7,500 D 3,500 E 5,500 E 2,500</p>
		<p>Concert No. 2079</p> <p>December</p> <p>10 (Thu) 7:00pm 11 (Fri) 7:00pm</p> <p>Suntory Hall</p>	<p>Mozart <i>Die Zauberflöte</i>, opera K. 620 – Overture (<i>The Magic Flute</i>)</p> <p>Srnka Cello Concerto [NHKSO 100th Anniversary Commissioned Work / World Premiere]</p> <p>Mendelssohn Symphony No. 3 A Minor Op. 56, <i>Scottish</i></p> <p>Maxim Emelyanychev, conductor Nicolas Altstaedt, cello</p>	<p>Ordinary Youth</p> <p>S 12,000 S 6,000 A 10,000 A 5,000 B 8,000 B 4,000 C 6,500 C 3,250 D 5,500 D 2,750</p>
2027 01	A	<p>Concert No. 2078</p> <p>December</p> <p>4 (Fri) 7:00pm 5 (Sat) 2:00pm</p> <p>NHK Hall</p>	<p>NHKSO 100th Anniversary: Beethoven Symphony Cycle 4</p> <p>Beethoven Symphony No. 4 B-flat Major Op. 60</p> <p>Beethoven Symphony No. 7 A Major Op. 92</p> <p>Charles Dutoit, conductor</p> <p>- Beethoven's Symphony No. 9 <i>Choral</i> is scheduled to be performed at the "Beethoven '9th' Symphony Concert" at the end of 2026 (conductor: Marek Janowski).</p>	<p>Ordinary Youth</p> <p>S 12,000 S 6,000 A 10,000 A 5,000 B 8,000 B 3,600 C 6,500 C 3,250 D 5,500 D 1,900 E 3,300 E 1,600</p>
		<p>Concert No. 2080</p> <p>January</p> <p>16 (Sat) 6:00pm 17 (Sun) 2:00pm</p> <p>NHK Hall</p>	<p>Mahler Symphony No. 9 D Major</p> <p>Fabio Luisi, conductor</p>	<p>Ordinary Youth</p> <p>S 13,000 S 6,500 A 11,000 A 5,200 B 8,500 B 4,000 C 7,000 C 3,500 D 5,600 D 2,000 E 3,500 E 1,700</p>
2027 02	B	<p>There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renovation of Suntory Hall.</p>		
		<p>Concert No. 2081</p> <p>January</p> <p>22 (Fri) 7:00pm 23 (Sat) 2:00pm</p> <p>NHK Hall</p>	<p>The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 1</p> <p>Sørensen <i>Evening Land</i> [Japan Premiere]</p> <p>Beethoven Piano Concerto No. 1 C Major Op. 15</p> <p>Nielsen Symphony No. 6, <i>Sinfonia semplice</i></p> <p>Fabio Luisi, conductor Alessandro Taverna, piano</p>	<p>Ordinary Youth</p> <p>S 12,000 S 6,000 A 10,000 A 5,000 B 8,000 B 3,600 C 6,500 C 3,250 D 5,500 D 1,900 E 3,300 E 1,600</p>
		<p>Concert No. 2082</p> <p>February</p> <p>6 (Sat) 6:00pm 7 (Sun) 2:00pm</p> <p>NHK Hall</p>	<p>Bach / Webern <i>Musikalisches Opfer</i>, BWV 1079 – <i>Ricercar à 6 voci</i> (<i>The Musical Offering</i> – 6 Voice Fugue)</p> <p>Mahler 5 <i>Lieder nach Texten von Friedrich Rückert</i> (5 <i>Songs after Friedrich Rückert</i>)</p> <p>Schönberg Chamber Symphony No. 2 Op. 38</p> <p>Schubert Symphony No. 7 B Minor D. 759, <i>Unvollendete</i> (<i>Unfinished Symphony</i>)</p> <p>Antonello Manacorda, conductor André Schuen, baritone</p>	<p>Ordinary Youth</p> <p>S 10,000 S 5,000 A 8,500 A 4,000 B 6,500 B 3,100 C 5,400 C 2,550 D 4,300 D 1,500 E 2,200 E 1,000</p>
<p>Concert No. 2083</p> <p>February</p> <p>12 (Fri) 7:00pm 13 (Sat) 2:00pm</p> <p>NHK Hall</p>	<p>The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 2</p> <p>Schumann <i>Genoveva</i>, opera Op. 81 – Overture</p> <p>Beethoven Piano Concerto No. 2 B-flat Major Op. 19</p> <p>Hisatada Otaka <i>Ashiya Otome</i>, symphonic poem Op. 9</p> <p>Panufnik Symphony No. 2, <i>Sinfonia Elegiaca</i></p> <p>Tadaaki Otaka, conductor Yunchan Lim, piano</p>	<p>Ordinary Youth</p> <p>S 10,000 S 5,000 A 8,500 A 4,000 B 6,500 B 3,100 C 5,400 C 2,550 D 4,300 D 1,500 E 2,200 E 1,000</p>		

A **NHK Hall**
Sat. 6:00pm (doors open at 5:00pm)
Sun. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

B **Suntory Hall**
Thu. 7:00pm (doors open at 6:20pm)
Fri. 7:00pm (doors open at 6:20pm)

C **NHK Hall**
Fri. 7:00pm (doors open at 6:00pm)
Sat. 2:00pm (doors open at 1:00pm)

2027
04

A Concert No. **2084**
April
10 (Sat) 6:00pm
11 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Mendelssohn Violin Concerto E Minor Op. 64
R. Strauss *Eine Alpensinfonie* Op. 64 (*An Alpine Symphony*)

Fabio Luisi, conductor
James Ehnes, violin

Ordinary	Youth
S 13,000	S 6,500
A 11,000	A 5,200
B 8,500	B 4,000
C 7,000	C 3,500
D 5,600	D 2,000
E 3,500	E 1,700

B

There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renovation of Suntory Hall.

C Concert No. **2085**
April
23 (Fri) 7:00pm
24 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 3
Dvořák *The Noon Witch*, symphonic poem Op. 108
Beethoven Piano Concerto No. 3 C Minor Op. 37
Unsuk Chin *Subito con forza*
Shostakovich Symphony No. 9 E-flat Major Op. 70

Elim Chan, conductor
Alice Sara Ott, piano

Ordinary	Youth
S 10,000	S 5,000
A 8,500	A 4,000
B 6,500	B 3,100
C 5,400	C 2,550
D 4,300	D 1,500
E 2,200	E 1,000

2027
05

A Concert No. **2086**
May
8 (Sat) 6:00pm
9 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Grieg Piano Concerto A Minor Op. 16
Stenhammar Symphony No. 2 G Minor Op. 34

Paavo Järvi, conductor
Denis Kozhukhin, piano

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 3,600
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 1,900
E 3,300	E 1,600

B

There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renovation of Suntory Hall.

C Concert No. **2087**
May
21 (Fri) 7:00pm
22 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 4
Lully *Le bourgeois gentilhomme*, ballet
(*The Bourgeois Gentleman*/Excerpts)
Beethoven Piano Concerto No. 4 G Major Op. 58
R. Strauss *Der Bürger als Edelmann*, suite Op. 60
(*The Bourgeois Gentleman*)

Kent Nagano, conductor
Till Fellner, piano

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

2027
06

A Concert No. **2088**
June
5 (Sat) 6:00pm
6 (Sun) 2:00pm
NHK Hall

Mozart Symphony No. 35 D Major K. 385, *Haffner*
Bruckner Symphony No. 3 D Minor, *Wagner-Symphonie*
(Third Version / 1889)

Tugan Sokhiev, conductor

Ordinary	Youth
S 12,000	S 6,000
A 10,000	A 5,000
B 8,000	B 3,600
C 6,500	C 3,250
D 5,500	D 1,900
E 3,300	E 1,600

B

There will be no subscription concerts of Program B in January, February, April, May, and June due to renovation of Suntory Hall.

C Concert No. **2089**
June
18 (Fri) 7:00pm
19 (Sat) 2:00pm
NHK Hall

The 200th Anniversary of Beethoven's Death: Piano Concerto Cycle 5
Beethoven Piano Concerto No. 5 E-flat Major Op. 73, *Emperor*
R. Strauss *Ein Heldenleben*, symphonic poem Op. 40 (*A Hero's Life*)

Thomas Guggeis, conductor
Kirill Gerstein, piano

Ordinary	Youth
S 11,000	S 5,500
A 9,500	A 4,500
B 7,600	B 3,500
C 6,000	C 2,800
D 5,000	D 1,800
E 3,000	E 1,400

(tax included)

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

Special Concerts 2026–27

2026/10 | 100th Anniversary Commemoration: Mahler Symphony No. 2 *Resurrection* NHK Hall

10/3 Sat. 6:00pm
10/4 Sun. 2:00pm
Mahler Symphony No. 2 C Minor *Auferstehung (Resurrection)*
Fabio Luisi, conductor Ying Fang, soprano Tamara Mumford, mezzo soprano
New National Theatre Chorus, chorus

2026/10 | Brahms Symphony Cycle Conducted by Two Great Conductors Tokyo Metropolitan Theatre

10/30 Fri. 7:00pm
Brahms Symphony No. 2 D Major Op. 73 / Symphony No. 4 E Minor Op. 98
Herbert Blomstedt, conductor

10/31 Sat. 4:00pm
Brahms Symphony No. 3 F Major Op. 90 / Symphony No. 1 C Minor Op. 68
Christoph Eschenbach, conductor

2027/01 | NHKSO New Year Concerts 2027 NHK Hall

1/10 Sun. 3:00pm
1/11 Mon. 3:00pm
Wagner *Rienzi*, opera—Overture
Wagner *Die Walküre*, opera—Siegmunds Liebeslied: *Winterstürme wichen dem Wonnemond*
(*Winter Storms Have Waned in the Moon of May*) ♦
Wagner *Die Walküre*, opera—*Du bist der Lenz (Thou Art the Spring)**
Wagner *Lohengrin*, opera—Grail Narration: *In fernem Land (In a Far-off Land)* ♦
Wagner *Tannhäuser*, opera—*Dich, teure Halle, grüss ich wieder (Dear Hall, I Greet Thee Once Again)**
Wagner *Tristan und Isolde*, opera—*O sink' hernieder, Nacht der Liebe (Descend, O Night of Love)* ♦♦
J. Strauss II *Die Fledermaus*, operetta—Overture, Csárdás: *Klänge der Heimat (The Bat—Sounds of My Homeland)**
Lehár *Das Land des Lächelns*, operetta—*Dein ist mein ganzes Herz (The Land of Smiles—Yours Is My Heart Alone)* ♦
Lehár *Die lustige Witwe*, operetta—*Vilja-Lied (The Merry Widow—Vilja Song)**
Kálmán *Gräfin Mariza*, operetta—*Grüss mir mein Wein (Countess Maritza—Vienna Mine)* ♦
J. Strauss II *Kaiser-Walzer*, Op. 437 (*Emperor Waltz*)
Lehár *Das Land des Lächelns*, operetta—*Wer hat die Liebe uns in Herz gesenkt (The Land of Smiles—Who Has Placed Love in Our Hearts)* ♦♦

Fabio Luisi, conductor Camilla Nylund, soprano* Klaus Florian Vogt, tenor♦

2027/02 | The 300th Anniversary of the Premiere of Bach's *Matthäus-Passion* NHK Hall

2/20 Sat.
3:00pm

Bach *Matthäus-Passion* BWV 244 (*St. Matthew Passion*)

2/21 Sun.
2:00pm

Ton Koopman, conductor Evangelist / Tenor: **Tilman Lichdi** Jesus: TBA **Maki Mori**, soprano
Maarten Engeltjes, countertenor **Klaus Mertens**, bass-baritone **Amsterdam Baroque Choir**, chorus
The Little Singers of Tokyo, children's chorus etc.

2027/04–06 | Tokyo Metropolitan Theatre Series Tokyo Metropolitan Theatre

4/15 Thu.
7:00pm

Franz Schmidt *Notre Dame*, opera—*Zwischenspiel und Karnevalsmusik* (*Intermezzo and Carnival Music*)

4/16 Fri.
7:00pm

Hindemith *Nobilissima visione*, ballet suite (*The Noblest Vision*)
R. Strauss *Don Quixote*, symphonic poem Op. 35*

Fabio Luisi, conductor **Rei Tsujimoto**, cello*

5/13 Thu.
7:00pm

Debussy *Prélude à l'après-midi d'un faune* (*Prelude to the Afternoon of a Faun*)

5/14 Fri.
7:00pm

Lancén *Concerto champêtre* for Harp and Orchestra

Tailleferre *Petite suite*

Ravel *Daphnis et Chloé*, Suites Nos. 1 & 2

Nodoka Okisawa, conductor **Risako Hayakawa**, harp

6/10 Thu.
7:00pm

Prokofiev *Symphonie classique*, Op. 25

6/11 Fri.
7:00pm

Mozart *Symphonie concertante* for 4 Winds and Orchestra E-flat Major K. 297b

Stravinsky *The Rite of Spring*, ballet

Tugan Sokhiev, conductor **Shuhei Nakamura**, oboe **Kenji Matsumoto**, clarinet
Hironori Ugajin, bassoon **Hitoshi Imai**, horn

All performers and programs are subject to change or cancellation depending on the circumstances.

N響関連のお知らせ



「N響100年」
記念ページは
こちらから



N響ホームページ
「N響100年」
記念ページ

<https://www.nhkso.or.jp/100th/>

N響100年を記念するおもな公演・事業や首席指揮者ファビオ・ルイーゼのメッセージが紹介されているほか、N響のこれまでの歩みをまとめた年表や読み物をご覧ください。また「演奏記録アーカイブ／資料アーカイブ」では、N響100年の全演奏会の記録、そしてN響が所蔵する歴史的資料の目録の一部をデータベースとして公開。検索にも対応します。


特別
展示

NHK交響楽団—放送と歩んだ100年

2026年4月17日(金)～8月30日(日) | NHK放送博物館(港区
愛宕) | 入場無料



N響100年の歩みを、貴重な資料・写真でたどり、放送とともに刻まれた歴史をふりかえります。館内シアターでは、過去の番組から選び抜いた名演も上映します。詳しくは博物館のホームページをご覧ください。



NHK放送博物館の
ホームページ

WEB
連載

NHK交響楽団の あゆみ 1945—2026 岩野裕一

THE HISTORY OF
NHK SYMPHONY ORCHESTRA, TOKYO

WEB連載
「NHK交響楽団のあゆみ」は
こちらから



2026年の「N響100年」に向けて、ホームページで「NHK交響楽団のあゆみ」を連載中です。執筆は、「王道楽土の交響楽」日本のピアノ100年」などの著書でも知られる、音楽評論家・編集者の岩野裕一氏。終戦後の「NHK交響楽団」への改称から、創立100年となる2026年までのN響の歴史を追いかけます。 https://www.nhkso.or.jp/news/HistoricalOverview_contents.html

伝えるチカラ



- ◎ 公共メディアNHKを社会へ
- ◎ 社会貢献事業で、次世代の未来を応援!

NHK財団は、
子法人の「NHK交響楽団」と共に、
社会貢献事業を進めています。



NHK財団の最新情報はこちらから

音楽は人々を元気づけ、ひとときの安らぎを与えてくれます。N響はコンサートホールを飛び出して、さまざまな場所、さまざまな人たちに美しい音色をお届けし、広く社会に貢献していきます。

子どもたちの未来を育む

子どもと大人が夏休みに名曲を楽しめる「N響ほっとコンサート」、N響練習所のある東京都港区の保育園児を招いてN響メンバーがじかに音楽の楽しさを伝える「N響といっしょ！音を楽しむ!!」などを開催。また折にふれて全国各地の小学校、中学校、高校を訪れてコンサートや指導を行い、近年はリモート技術を活用したクリニックなども開催しています。音楽や音楽家に身近に接してもらうことで豊かな心を育む取り組みに、これからも力を入れていきます。

優れた音楽家を育てる

1950年代、指揮を実践的に学ぶ場として設けたのが「指揮研究員」の制度です。有望な若手指揮者をオーケストラの現場に迎え入れ、国内外の巨匠たちとの音楽づくりに携わる機会を提供。日本のクラシック音楽界を担う人材を数多く輩出しています。また2003年に創設された「N響アカデミー」では、オーディションで選抜された受講生が、楽員からのレッスン、リハーサルや公演の参加などを通じてトレーニングを積んでいます。修了生はN響をはじめ国内外のオーケストラで活躍しています。

指揮研究員

井手 奏、佐久山修太

N響アカデミー在籍者

ヴァイオリン：下野園ひな子、遠井彩花、中井楓梨
クラリネット：白井宏典 打楽器：菊池幸太郎
(2026年6月1日現在)

地域の人たちとつながる

全国のさまざまな団体、自治体から要請を受けて、クラシック音楽の普及や文化振興のお手伝いをしてい

ます。幼稚園、コミュニティ施設などで演奏したり、生徒たちにレッスンをするなど、地元に着した活動を行っています。最近では各地の放送局のイベントに参加して演奏する機会も増えていきます。NHKのテレビとラジオで日曜のお昼に放送される「NHKのど自慢」では、審査の結果を伝える「鐘」をN響の打楽器奏者が担当することもあります。

病院や福祉施設、被災地に届ける

病院や高齢者施設を楽員が訪れてミニコンサートを開き、入院する患者さん、看病するご家族、お年寄りの方たちに安らぎのひとときをお届けしています。また被災地にも出向き、演奏を通じて現地の人たちの応援にも力を入れています。2024年1月に起きた能登半島地震では、翌月にN響の楽員15人が石川県を訪問し、4地域・6か所の避難所でミニコンサートを開きました。

国際交流の輪を広げる

1960年の「世界一周演奏旅行」以来、海外での演奏にも力を入れてきました。近年は2025年5月にオランダ・アムステルダムでの「マラー・フェスティバル」に参加するなど、世界最高峰の舞台に招かれることが増えています。一方国内では、首都圏の大学などと連携して、私たちが主催する公演への外国人留学生招待にも取り組んでいます。

異なる分野の専門家と連携する

デジタル活用や医療などの新しい課題に、異なる分野の人たちと手をたずさえて取り組んでいます。2022年11月の「NTT東日本 N響コンサート」では、離れていても同じ場所にいるように感じられるような映像・音声接続を実現する「IOWN APN 関連技術」の検証実験に協力。リアルタイム・リモート演奏を成功させました。一方コロナウイルスへの対策がまだ手探りだった2020年7月、業界団体が行った「演奏中の飛沫」を調べる実験に多くの楽員や職員を派遣。これにより舞台上の安全な楽器配置などがわかり、業界の統一したマニュアル作りに役立ちました。

役員等・団友

役員等

理事長	中野谷公一							
常務理事	三溝敬志	大曾根 聡子						
理事	相川直樹	内永ゆか子	岡田知之	杉山博孝	銭谷眞美	田辺雅泰	團 宏明	毛利 衛
監事	春原雄策		濱村和則					
評議員	井上樹彦	江頭敬明	樺山絃一	菅原 直	清野 智	田中宏暁	檀 ふみ	坪井節子
	根本拓也	前田昭雄	三浦 惺	山名啓雄	渡邊 修			

事務局

演奏制作部	企画プロモーション部	経営管理部	技術主幹	芸術主幹				
岩渕一真	沖 あかね	上原 静	森下文典	黒川大亮	野村 歩	吉田麻子	尾澤 勉	西川彰一
丸山千絵	内山弥生	木村英代	猪股正幸	三浦七菜子	浅田武志	杉山真知子		
石井 康	徳永匡哉	小倉康平	吉賀亜希		目黒重治	長津紗寿		
高木かおり	高橋 啓		宮崎則匡		山本能寛			

団友

	公門俊之	中竹英昭	宮本明恭	トランペット	百瀬和紀	事務局
	齋藤真知亜	三原征洋				
	酒井敏彦	村山 弘	オーボエ	井川明彦	ピアノ	稲川 洋
名誉コンサート マスター	清水謙二	山田雄司	青山聖樹	来馬 賢		入江哲之
	鈴木弘一		北島 章	関山幸弘	本荘玲子	金沢 孝
堀 正文	田淵 彰	チェロ	浜 道晃	津堅直弘		小林文行
	田中 裕		茂木大輔	橋本浩規	理事長	清水永一郎
	鶴我裕子	岩井雅音		福井 功		中馬 究
コンサートマスター	中瀬裕道	木越 洋	クラリネット	坂坂咲千生	曾我 健	出口修平
	永峰高志	齋藤鶴吉			田畑和宏	利光敬司
海野義雄	根津昭義	三戸正秀		トロンボーン	野島直樹	芳賀由明
川上久雄	堀江 悟	銅銀久弥	磯部周平		日向英実	望戸一男
篠崎史紀	前澤 均	丹羽経彦	加藤明久	伊藤 清	木田幸紀	諸岡 淳
徳永二男	宮里親弘	平野秀清	横川晴児	神谷 敏	森 茂雄	吉田博志
堀 伝	武藤伸二	藤本英雄		栗田雅勝	今井 環	渡辺 克
山口裕之	村上和邦	茂木新緑	ファゴット	三輪純生	根本佳則	渡辺克己
	横山俊朗			吉川武典	今村啓一	
ヴァイオリン	蓬田清重	コントラバス	岡崎耕治	テューバ	役員	
			霧生吉秀			
板橋 健	ヴィオラ	井戸田善之	菅原恵子			
梅澤美保子		志賀信雄		多戸幾久三	加納民夫	
大澤 淨	大久保淑人	佐川裕昭	ホルン	原田元吉	唐木田信也	
大林修子	小野 聡	新納益夫			斎藤 滋	
大松八路	小野富士		大野良雄	打楽器	原 武	
川上朋子	梯 孝則	フルート	中島大之		山崎大樹	
木全利行	菅沼準二		樋口哲生	有賀誠門		
窪田茂夫	店村眞積	菅原 潤	松崎 裕	岡田知之		
黒柳紀明	田淵雅子	細川順三	山田桂三	瀬戸川 正		

フィルハーモニー2026年6月号 | 第98巻 第5号
2026年6月1日発行 ISSN 1344-5693

公益財団法人NHK交響楽団

〒108-0074 東京都港区高輪2-16-49
TEL: (03) 5793-8111 / FAX: (03) 3443-0278
発行人◎三溝敬志 / 編集人◎猪股正幸

企画・編集: (一) 助NHK財団
取材・編集: (株)アルテスパブリッシング
表紙・本文デザイン: 寺井恵司

印刷: 佐川印刷株式会社

©無断転載・複製を禁ず



ご存知ですか？

海外出張、海外旅行を計画されている方へ

海外で、ニュース・情報番組の
同時配信と見逃し配信が、
無料で視聴可能！



*視聴可能は毎日5時間程度

海外にいる日本人のみなさまの安全・安心のため、
ニュース・情報番組は、NHKのウェブサイトで、無料で
同時配信と見逃し配信を行っています。

特に見逃し配信は、海外でも時差を気にせず、NHKニュース
をご覧いただけます。

視聴方法
はこちら▶▶



*日本国内では視聴することができません。
海外にいらっしゃる間に視聴できます。

海外にお住まいの方には

NHKのニュースや情報番組、ドラマ、子ども番組、
音楽番組などを24時間編成で有料で放送
しています。世界のおよそ80の国・地域の
約2,400万世帯以上で視聴できます。

[エリア][国/地域]の順に選択の上、お住まい
の地域で見られる放送事業者を検索して
ください。



利用できるサービスを探す

お住まいの国/地域を選択

エリア ▼

国 ▼

NHK WORLD-JAPAN is the international
service of Japan's public media organization.
It provides a global audience with information
about Japan and Asia on TV, radio, and
online. Content is available in English and
other languages.



Disaster and safety-related information is updated instantly,
via emergency alert screens on the website and push notifications
on the app.



Get real-time alerts from our app.

■ Earthquake, Tsunami, and Weather Emergency Warnings
Available in: English, Chinese, French, Hindi, Indonesian,
Korean, Portuguese, Russian, Spanish, Thai, Vietnamese

■ Breaking News (English)

(iPhone, Android)

▲ Download here. ※App settings are required.

いつでも どこでも あなたのそばに

NHK ONE



©NHK-dwarf

番組の同時配信、見逃し・聴き逃し配信、ニュースの記事や動画などの情報を
テレビ※やスマホ・タブレット、パソコンで

※インターネット接続に対応したテレビ

WEBサイト (HP)



NHK ONE



NHKプラス



NHK ONE
ニュース-防災



NHK ONE
for School



NHKラジオ
らじる★らじる



NHKコガク
語学講座



世帯ですでに受信契約を締結されている場合は、別途のご契約や追加のご負担は必要ありません
 (「らじる★らじる」など、ラジオ関連サービスは受信契約の対象外です)

テレビでもスマホでも



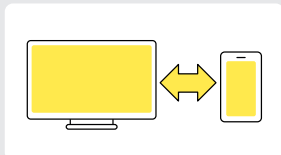
防災機能がさらに充実



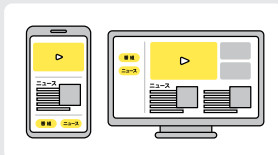
安心して子どもと一緒に



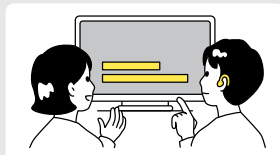
プロフィール設定・デバイス連携



ドラマも最新ニュース記事も



生放送もぴったり字幕で

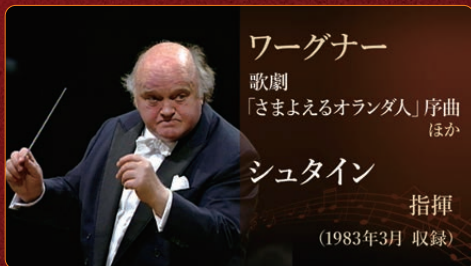
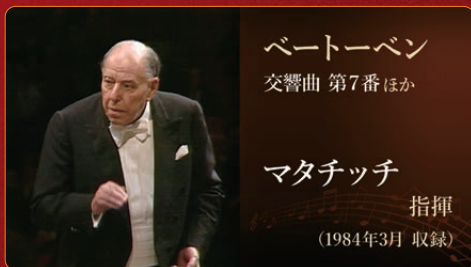
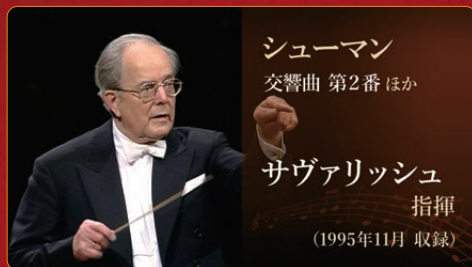


ドラマ、ドキュメンタリーなど名作20,000本以上配信中!

NHK オンデマンド

有料動画
配信サービス

NHK交響楽団の名演を
いつでも、どこでも、何度でも



懐かしの「N響アワー」から「クラシック音楽館」まで
世界的マエストロによる演奏を **毎月配信中!**

まるごと
見放題パック
月額
990円 税込

NHKオンデマンドコールセンター
☎ **0570-083333**
携帯電話・IP電話 03-6743-6777

受付時間
9:30
~
22:00

番組ラインアップなどの詳細は
公式ウェブサイトをチェック!
<https://www.nhk-ondemand.jp>



日本の縞シマ

時代を超える活力の文様



縞のやきもの [協力：上原永山堂]

『目の眼』2026年6・7月号〈紙版・デジタル版〉

縞は現代でも定番、人気の柄です。

日本では南方から伝わったとされ、「嶋物」と呼ばれて流行し、

江戸時代には貴賤を問わず老若男女が使う文様となりました。なぜそれほど流行したのでしょうか？

特集では、古美術に見られるバリエーションあふれる縞をとりあげ、その魅力を探ります。



目の眼は 雑誌&ウェブで 骨董古美術の愉しみを伝えています

menomeonline.com

目 
の眼

若き才能と
世界最高峰のオーケストラが響きあう
20世紀ロシアの名作

NHK
音楽祭
NHK MUSIC FESTIVAL
2026

雄大なピアノと
華やかな旋律が描く
ロマン派クラシックの真骨頂



©Naruyasu Nabeshima

©Mark Allan



©Marco Borggreve

©Sasha Gusov



©John Davis



写真提供：NHK交響楽団

9月27日(日) 15:00開演
ロンドン交響楽団

指揮：アントニオ・パッパーノ
バイオリン：HIMARI
プロコフィエフ/バイオリン協奏曲第2番 小短調 作品63
ショスタコーヴィチ/交響曲第5番 二短調 作品47

11月22日(日) 15:00開演
NHK交響楽団

指揮：トゥガン・ソヒエフ
ピアノ：アレクサンドル・カントロフ
ラフマニノフ/ピアノ協奏曲第2番 八短調 作品18
チャイコフスキー/バレエ音楽「くるみ割り人形」 作品71 (ソヒエフ・セレクション)

*14:00～(予定)
オープニングトーク
～氷上で生まれた名演と音楽～
ゲスト：高橋成美
(元アパッチ・スケート
(元アパッチ・スケート
室田尚子(音楽評論家)
大林奈津子(司会)

NHKホール

共催：NHK交響楽団 協賛：岩谷産業株式会社

一般販売 6月19日(金) 10:00～

入場料 (消費税別)	公演	公演日	開演	終演	SS席	S席	A席	B席	C席	D席	U-29席
	ロンドン交響楽団	9月27日(日)	15:00	17:00	35,000	30,000	24,000	18,000	14,000	9,000	5,000
	NHK交響楽団	11月22日(日)	15:00	17:00	10,000	9,000	7,000	6,000	5,000	4,000	2,000
	イープラス	https://eplus.jp/nhk/									
	チケットぴあ (Pコード 324-957)	https://w.pia.jp/nhkfes/									
前売券	GETTIIS (GETTIES)	https://www.gettiis.jp/									
	WEBチケットN響	https://nhkso.pia.jp/									
	N響ガイド	0570-02-9502 (10:00～17:00/土日祝は休業)									

●お問い合わせ
ハローダイヤル
050-5541-8600 (9:00～20:00 無休)
NHKホームページ
<http://nhk.jp/event>
NHKプロモーションホームページ
<https://www.nhk-p.co.jp/>

傑作の奥深い境地へ
名手の調和が織りなすドラマティックな世界

明電舎

presents

N響

名曲コンサート 2026

指揮

尾高忠明

NHK交響楽団 正指揮者



ヴァイオリン

郷古廉

NHK交響楽団 第1コンサートマスター

管弦楽

NHK交響楽団

NHK Symphony Orchestra, Tokyo

シベリウス
アンダンテ・フェスティヴォ

Sibelius / Andante festivo

プロコフィエフ
ヴァイオリン協奏曲 第2番 短調 作品63

Prokofiev / Violin Concerto No. 2 G Minor Op. 63

チャイコフスキー
交響曲 第5番 ホ短調 作品64

Tchaikovsky / Symphony No. 5 E Minor Op. 64

2026年9月3日 [木] 7:00pm | サントリーホール

■ 発売開始: 5月15日 [金] 10:00am ■ N響定期会員先行発売: 5月12日 [火] 10:00am

■ 料金 (税込)

一般	ユースチケット(29歳以下)
SS ¥9,000	SS ¥4,500
S ¥7,000	S ¥3,500
A ¥5,500	A ¥2,750
B ¥4,000	B ¥2,000
C ¥3,000	C ¥1,500

※定期会員は一般料金から10%割引

■ 前売所

- WEBチケットN響: <https://nhkso.pia.jp>
- N響ガイド: 0570-02-9502
- サントリーホール チケットセンター: 0570-55-0017
suntory.jp/HALL/
- チケットぴあ: pia.jp/t/nhkso
- e+(イープラス): eplus.jp/nhkso
- ローソンチケット: l-tike.com/nhkso



[お問い合わせ]

N響ガイド 0570-02-9502

営業時間: 10:00am ~ 5:00pm (営業日はN響ホームページをご覧ください)

※ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。 ※定期会員割引・先行発売のお取り扱いにはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。 ※車いす席についてはN響ガイドにお問い合わせください。 ※N響ガイドでの申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。 ※未成年者のご入場はお断りしています。 ※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、チケット代金の払い戻しはいたしません。 ※公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

特別協賛:



株式会社 明電舎

主催:



NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

100th
NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

「夏だ！祭りだ！！」
N響ほっと
コンサート

まほうの森と夢の世界
か
翔けよう！

ホルン: アレッシオ・アレグリーニ
©Riccardo Musacchio / MUSA



指揮: 下野 竜也
(NHK 交響楽団正指揮者)
©Shin Yamagishi



N響メンバーと一緒に、さわて、音を出してみよう！

N響メンバーによる 楽器体験

オーケストラの楽器をN響メンバーと一緒に
さわて音を出してみよう。さあ、ロビーに集合！

ピカチュウも
遊びに来るよ



詳しくはN響ホームページ、公式Xでお知らせします

※コンサート本編への出演はございません



ナビゲーター
加藤 清史郎 (俳優)

2026年8月2日(日) 3:30pm
(開場 2:00pm)
NHKホール (東京・渋谷) ※途中休憩ありの2時間程度の公演です。

管弦楽: NHK交響楽団

発売開始 5月15日(金) 10:00am (N響定期会員先行発売: 5月12日(火) 10:00am)

お問い合わせ N響ガイド 0570-02-9502

営業時間: 10:00am~5:00pm (定休日: 土・日・祝日)

※東京駅での主催公演開催日は曜日に問わず10:00am~開演時刻まで営業いたします。 ※電話受付のみの営業となります。

主催: NHK / NHK交響楽団

協賛: 湖山医療福祉グループ

協力: 株式会社グローバル/グローバル音楽器技術学院/株式会社ホケモン

©2026 Pokémon, ©1995-2026 Nintendo/Creatures Inc./GAME FREAK Inc.
ポケットモンスター ポケモン ポケモンは任天堂 クリーチャーズ ゲームフリークの登録商標です。



「N響ほっとコンサート」公式Xアカウントオープン！

ドリーブ/バレエ組曲「シルヴィア」から 前奏曲と「狩り」の女神
モーツァルト/ホルン協奏曲 第2番 変ホ長調
ハイドン/交響曲 第73番 ニ長調「狩り」から第4楽章
ヨハン・シュトラウスII世/ポルカ「狩り」
メンデルスゾーン/「夏の夜の夢」の音楽から
~加藤清史郎と1つしよに、シェークスピアのお話の森へ

前売所

- ◎WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp> ◎N響ガイド 0570-02-9502
- ◎チケットぴあ pia.jp/t/nhkso ◎e+ (イープラス) eplus.jp/nhkso
- ◎ローソンチケット l-tike.com/nhkso

※「小・中学生」のチケットはすべての前売所でご購入いただけます。
※ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いとなります。初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。

※定期会員割引・先行発売のお取り扱いにはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。

※事前に必ずN響ガイドにてN響ガイドにお問い合わせください。

※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。

※小学生は、保護者の方と一緒にお願いします。

※未就学児のご入場はお断りしています。

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変更となる場合、公演が中止となる場合がございます。公演中止の場合をのぞき、

チケット代金の払い戻しはいたしません。

※公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。

Follow us on nhkso.or.jp

100th

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

N響 「夏」

あふれ出る

ロマンティシズムに

身を委ね

この夏、壮大な

音楽の旅へ

Summer Concert 2026 [東京公演]

NHK Symphony Orchestra, Tokyo
主催：NHK / NHK 交響楽団 協賛：岩谷産業株式会社

ラフマニノフ

ピアノ協奏曲 第3番 ニ短調 作品30

Rakhmaninov Piano Concerto No. 3 D Minor Op. 30

リムスキー・コルサコフ

交響組曲「シェヘラザード」作品35

Rimsky-Korsakov *Scheherazade*, symphonic suite Op. 35

管弦楽 NHK 交響楽団

NHK Symphony Orchestra, Tokyo

2026年

7月17日(金) 7:00pm

NHKホール

Friday, July 17, 2026 7:00pm NHK Hall



指揮 ワシーリ・ペトレンコ
Vasily Petrenko, conductor

《 英ロイヤル・フィルのシェフ
15年振りにN響に登場 》



ピアノ ツォトネ・ゼジニゼ
Tsootne Zedginidze, piano

《 バレンボイムが絶賛!
2009年生まれの俊英 》

発売開始 5月15日(金) 10:00am

(定期会員先行発売：5月12日(火) 10:00am)

料金 (税込) ※定期会員は一般料金から10%割引

[一般] S: ¥7,300 A: ¥5,300 B: ¥3,300 C: ¥2,100

[ユースケット] S: ¥3,600 A: ¥2,600 B: ¥1,600 C: ¥1,000
(29歳以下)

お問い合わせ

N響ガイド 0570-02-9502

※営業日・営業時間はN響ホームページを
ご確認ください

※やむを得ない理由で出演者や曲目等が変
更となる場合がございます

nhkso.or.jp

WEBチケットN響

<https://nhkso.pia.jp>



Follow us on



水素で世界を動かせ。

Iwatani
岩谷産業株式会社

100th

NHKSO
NHK SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

毎年9月にシーズンが開幕する「N響定期公演」を前に行われるのがこのコンサート。2026-27シーズンは、名作揃いの定期公演プログラムに加えて特別公演からも聴きどころを選びやすく、75分間にギュッと詰め込んでお贈りします。オーケストラは初めてという方、どの演奏会に行くか迷っている方、長年N響定期会員を続けられてきた方、とにかく手取り早くオーケストラの名曲を楽しみたい方、みんなウェルカムです。みんな連れだってNHKホールに足をお運びください。

2026-27シーズンのN響を75分で「いいとこどり」!



© kumiko suzuki

NHK交響楽団ってなあに？

1926年創立の歴史あるオーケストラです。世界一流の指揮者や話題のソリストたちとともに、数々の名演を生み出してきました。2026年10月に創立100年を迎えます。日本や世界各地で演奏活動を行い、NHKの大河ドラマのテーマ曲も毎年演奏しています。首席指揮者はイタリアの名匠ファビオ・ルイーゼです。

コンサート N響 ウェルカム



2026.7.6 [月]

7:00pm 休憩のない75分程度の公演です。

NHKホール

指揮：原田慶太楼

ヴァイオリン：中原梨衣紗

ハープ：早川りさこ (N響ハープ奏者)

ナビゲーター：大林奈津子

NHKSO
Welcome
Concert

- ウェーバー／歌劇「オペロン」序曲から (9月)
- ベートーヴェン／交響曲 第5番「運命」—第1楽章 (10月)
- ブラームス／交響曲 第4番—第3楽章 (10月)
- ニルセン／交響曲 第6番「シンフォニア・センブリーチェ」—第2楽章 (1月)
- メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲—第1楽章から (4月)
- フランツ・シュミット／歌劇「ノルトルダム」—「間奏曲」 (4月)
- ランサン／ハープと管弦楽のための田園協奏曲—第2楽章 (5月)
- ショスタコヴィチ／交響曲 第9番—第1楽章 (4月)
- ファリャ／バレエ組曲「三角帽子」第2番—「終幕の踊り」 (12月)

主催：NHK／NHK交響楽団



nhkso.or.jp

公演詳細はN響ホームページで公開中



N響ニュースレター

最新情報をメールでお届けします。
WEBチケットN響の「利用登録」からご登録ください

料金 (税込/全席指定)

\\ NHKホールの全席を1ランクに設定 /
良席はお早めに!

一般：¥2,000 / 定期会員：¥1,700

\\ 29歳以下はさらにお得 /
ユースチケット (29歳以下)：¥1,000

\\ お得にみんなでNHKホールに! /
ウェルカム・ペアチケット
(2枚1組)：¥3,200

※一般・定期会員共通料金

発売開始日 4月24日 (金) 10:00am (一般) / 4月20日 [月] 10:00am (定期会員先行)

前売所 ◎WEBチケットN響 <https://nhkso.pia.jp>

◎N響ガイド 0570-02-9502 ◎チケットぴあ pia.jp/t/nhkso

◎e+ (イープラス) eplus.jp/nhkso ◎ローソンチケット l-tike.com/nhkso

- ※ユースチケット (29歳以下) はWEBチケットN響およびN響ガイドのみのお取り扱いです。
- ※初回ご利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必須となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。
- ※定期会員割引・先行発売のお取り扱いはWEBチケットN響およびN響ガイドのみとなります。
- ※取扱いについてはN響ガイドにお問い合わせください。
- ※N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。
- ※未就学児のご入場はお断りしています。
- ※おむつを貸さない理由で出演者・作曲目等が変更となる場合や、公演が中止となる場合がございます。
- ※公演中止の場合の返金はチケット代金の戻しはいたしません。
- ※公演に関する最新情報はN響ホームページでご確認ください。



WEBチケットN響

お問い合わせ：N響ガイド 0570-02-9502

営業時間：10:00am～5:00pm

(定休日：土・日・祝日)

※東京都内での主催公演開催日は曜日問わず10:00am～開演時刻まで営業いたします。※電話受付のみの営業となります。

指揮：杉山洋一

Yoichi Sugiyama, conductor

ソプラノ：藤田果玲

Karera Fujita, soprano

トロンボーン：新田幹男 | N響首席トロンボーン奏者

Mikio Nitta, trombone (Principal Trombone, NHKSO)

管弦楽：NHK交響楽団

NHK Symphony Orchestra, Tokyo

100th
NHKSO
THE SYMPHONY ORCHESTRA
TOKYO

N響 MUSIC TOMORROW 2026

July 3 (Friday) 7:00pm / Pre-Concert Talk 6:30pm
Tokyo Opera City Concert Hall

2026年7月3日 金 7:00pm | 尾高賞授賞式・プレトーク(司会：白石美雪) 6:30pm
東京オペラシティ コンサートホール

我妻 英 / 管弦楽のための《祀》(2021) [第73回「尾高賞」受賞作品]

Wagatsuma / MATSURI for Orchestra (2021) [The 73rd Otaka Award Work]

杉山洋一 / 夢へのきざし — オーケストラのための(2026) [NHK 100年記念委嘱作品・世界初演]

Sugiyama / Stairways to Dreams for Orchestra (2026) [NHKSO 100th Anniversary Commissioned Work / World Premiere]

休憩〜スペシャルトーク(ピローネ・自作を語る) | Intermission - In Conversation with Pierluigi Billone

ピローネ / ボッカ・コスモイー 声、トロンボーンとオーケストラのための(2007) [日本初演]

Billone / Bocca Kosmoy for Voice, Trombone and Orchestra (2007) [Japan Premiere]

チケット発売中

チケット料金(税込)

- ◎ 一般 | S:4,000円 / A:3,000円 / B:2,000円
- ◎ ユースチケット(29歳以下) | S:2,000円 / A:1,500円 / B:1,000円

- ・ユースチケット(29歳以下)はWEBチケットN響およびN響ガイドのお取扱いとなります。
- ・初回に利用時に年齢確認のための「ユース登録」が必要となります。詳細はN響ホームページをご覧ください。
- ・定期会員の方は一般料金の10%割引となります。また、先行発売をご利用いただけます(取扱いにはWEBチケットN響・N響ガイドのみ)。
- ・東京オペラシティ Arts 友の会先行発売のお取扱いは東京オペラシティチケットセンターのみとなります。
- ・車いす席についてはN響ガイドへお問い合わせください。
- ・N響ガイドでのお申し込みは、公演日の1営業日前までとなります。
- ・未成年のご購入はお断りしています。

- ・WEBチケットN響: <https://nhkso.pia.jp>
- ・N響ガイド: 0570-02-9502
- ・東京オペラシティ チケットセンター: 03-5353-9999
- ・チケットぴあ: pia.jp/nhkso
- ・e+(イープラス): eplus.jp/nhkso
- ・ローソンチケット: l-tike.com/nhkso



WEB チケット N 響

異界に導く 神秘の響き
夢に誘う 音の階(きざし)

今年のMusic Tomorrowでは、恒例である尾高賞受賞作品の演奏に続き、「N響100年」を記念する委嘱作品の世界初演、イタリアの巨匠ピローネによる大作の日本初演が行われる。

今回尾高賞を受賞したのは、我妻英の管弦楽のための《祀》。前年の武満徹作曲賞第1位と併せてダブル受賞となる。26歳での受賞は、第3回(1955年)の三善晃の22歳、第4回(1956年)の林光の24歳に次ぐ若さであり、尾高賞の長い歴史を画する快挙となった。柳田國男の「遠野物語」に想を得て、現実と非現実、生と死の境を描く《祀》は、我妻が敬愛した師、西村朗が賛辞を送った一作。妻の叫び、囁きの喧騒を交えた、鮮烈かつ神秘的な響きが聴き手を異界へ導く。

杉山洋一はこれまで指揮者としてMusic Tomorrowに出演してきたが、今回は作曲家としての顔も見せ、自作自演を行う。N響創立100年に際して委嘱された作品のタイトルは《夢へのきざし》。社会問題、世界情勢をしばしば創作の源としてきた杉山の、次世代に向けた真摯な祈りに耳を澄ませたい。

杉山が拠点とするイタリアの作曲家ビエレルジ・ピローネは、我妻と同じく、ソフトを用いず楽譜を手書きする。声とトロンボーン・ソロのための《ボッカ・コスモイ》では、ピローネが好んで用いる、宇宙の深淵にも似た中低音のうなりが、我妻作品に通じる呪術性・儀式性を喚起する。ドイツ語で数々の新作初演に挑ってきた気鋭のソプラノ、藤田果玲とN響首席奏者を約20年務めてきたベテラン、新田幹男の共演にも注目である。

平野貴俊(音楽学・音楽評論)

お問い合わせ

N響ガイド: 0570-02-9502

営業時間: 10:00am ~ 5:00pm (休日: 土・日・祝日)

※東京都内で主催公開開催日は曜日にかかわらず10:00am ~ 開演時刻まで営業いたします。

※発売初日の土・日・祝日は10:00am ~ 3:00pmの営業となります。

※電話受付のみの営業となります。

主催: NHK・NHK交響楽団

共催: 公益財団法人東京オペラシティ文化財団

助成: 公益財団法人三菱UFJ信託芸術文化財団

公益財団法人 ロームミュージックファンデーション

NHK NHK
Symphony
Orchestra

nhkso.or.jp | Follow us on



前売所

NHKSO Cinema Music



featuring
John Williams

N響 シネマ・ミュージック feat. ジョン・ウィリアムズ

オール ジョン・ウィリアムズ プログラム *John Williams Program* 主催：NHK / NHK交響楽団

オリンピック・スピリット

映画「スーパーマン」—マーチ

映画「E.T.」—フライング・テーマ

映画「ジュラシック・パーク」
—テーマ

映画「シンドラーのリスト」
—テーマ

2026年

© Claudia Hershner

6月26日(金) 7:00pm
※2時間程度の公演です

J:COM ホール八王子

(八王子市民会館) JR八王子駅 南口直結

Friday, June 26, 2026 7:00pm
J:COM Hall Hachioji

映画「レイダース/失われた
アーク《聖櫃》」—レイダース・マーチ

オリンピック・
ファンファーレとテーマ

映画「ハリー・ポッター」
—ヘドウィグのテーマ

映画「スター・ウォーズ」
—メイン・タイトル、レイア姫のテーマ、
ルークとレイア、
帝国のマーチ、ヨーダのテーマ、
酒場のバンド、
王座の間とエンド・タイトル

指揮 原田慶太楼
Keitaro Harada, conductor

管弦楽 NHK交響楽団
NHK Symphony Orchestra, Tokyo

発売開始 3月13日(金) 10:00am
(定期会員先行発売：3月9日(月)10:00am)

料金(税込) ※定期会員は一般料金から10%割引

[一般] S: ¥10,000 A: ¥8,600 B: ¥6,800

[コースチケット(29歳以下)] S: ¥5,000 A: ¥4,300 B: ¥3,400

お問い合わせ

N響ガイド 0570-02-9502

※営業日・営業時間はN響ホームページを
ご覧ください

※本公演は映像による演出はございません
※やむを得ない理由で出演者や曲目等が
変更となる場合がございます

nhkso.or.jp

WEBチケットN響

<https://nhkso.pia.jp>



Follow us on





ご近所のイワタニは、
世界のイワタニです。

イワタニは、世界からガスを運び
安全と安心のネットワークで、
カセットガスやLPガスなど
さまざまなカタチに変えて日本全国にお届け。
今日も見えないところで、
あなたの暮らしを支えます。



Iwatani
岩谷産業株式会社